

# 明治学院大学

2018 年度 事業報告書（抜粋）



(中略)

## 2 明治学院大学・大学院

### (1) 事業計画

<大学院>

- ① 大学院の活性化
- ② 大学院広報の強化
- ③ 大学院研究環境の整備

<大学>

- ① キリスト教教育
- ② 教育目標の明確化と教育改善
- ③ グローバル教育の充実
- ④ ボランティア活動の充実
- ⑤ キャリアサポート体制の充実
- ⑥ 広報活動の展開
- ⑦ 防災対策および環境問題への取り組み
- ⑧ その他の特記事項

### (2) 事業計画の進捗状況

明治学院大学は、「キリスト教に基づく人格教育」を建学の精神とし、「Do for Others」（他者への貢献）を教育理念として研究・教育に邁進している。この教育理念のもとに、宗教部を中心とした学内外におけるキリスト教の活動と行事を通じて、学生・教職員に建学の精神を伝達すると同時に、全学的な人材育成像である5つの教育目標、すなわち、

- 1) 他者を理解できる人間の育成
- 2) 分析力と構想力を備えた人間の育成
- 3) コミュニケーション能力に富む人間の育成
- 4) キャリアをデザインできる人間の育成
- 5) 共に生きることのできる人間の育成

を掲げて、大学院・大学として研究・教育活動を遂行してきた。さらに、この5つの教育目標を具現化するための中長期ビジョンとしてMG DECADE VISIONを掲げ推進している。

なお、2018年4月には法学部グローバル法学科（入学定員65名）を開設した。一般入学試験における志願者数は485名となり、72名が入学した。

<大学院>

#### ① 大学院の活性化

2018年度に博士後期課程を修了した経済学専攻の1名に博士の学位（課程博士）が授与された。また、課程を経ない論文博士では、英文学専攻の1名、社会福祉学専攻の1名に博士の学位が授与された。修士課程・博士前期課程では全研究科合計45名に修士の学位が授与された。

明治学院大学研究倫理基準の改正を受けて研究倫理教育の検討を行い、新入生を対象とした研究倫理教育システムの導入を決定した。

2019年度大学院入試（2018年度実施）では「志願者148名、合格者71名、入学手続者61名」であった。志願者数は専攻により志願者数の増減があるが前年度を若干上回った。入学手続者のうち、飛び入学は2名から4名、外国人留学生は10名から12名、博士後期課程は3名から8名に増えた。

2018年度実施の入試から願書等はすべてホームページからのダウンロード方式に変更した。また、2019年度実施の入試に向けて試験時間割を変更する等の入試制度の見直しを行った。

法と経営学専攻では、外部から講師を招き、1年次の外国人留学生を対象に修士論文を書くために必要なアカデミックリーディング・ライティングの授業（週1コマで全8回）を行った。

大学院入学前教育として3月下旬に外国人留学生の入学予定者（修士課程・博士前期課程）を対象に大学院での研究に必要な読む力と書く力の基礎を鍛える短期集中型の日本語講座（一日2コマで3日間連続開講）を行った。

#### ② 大学院広報の強化

大学院志願者の増加を図る施策の一環として大学院進学相談会を開催した。年間6回開催し合計で223名の参加があった（前年度比約30%増）。また、横浜校舎では主に学部の1、2年次生を対象に大学

院進学ガイダンスを開催し 22 名の参加があった。大学院事務室主催の大学院進学説明会とは別に研究科専攻主催の進学説明会も開催し、ホームページで広報したことで学外からの参加者もあった。

大学院入試の過去問題は大学院事務室内での閲覧のみであったが、受験生サービス向上のため、窓口での過去問題の貸出とホームページでの公開も行った。

MG DECADE VISION のアクションプランでも掲げている「外国人留学生の志願者・入学者の増加」を目指し、日本語能力試験の N1 レベルの受験生獲得のため、国内外の進学相談会に積極的に参画した。国外では JASSO 主催の日本留学フェア（台湾、北京）に参画し、国内では 2017 年度に引き続き、大学院進学実績の高い日本語学校に出向き、大学院説明会と「法と経営学専攻」の教員 2 名による模擬授業を行った。

### ③ 大学院研究環境の整備

TA（ティーチング・アシスタント）制度を活用し、院生の研究環境の向上を図った。

2019 年度の施行に向けて、学生研究奨励金に関する規程の制定や改正が行われた。経済学研究科では新たに学生研究奨励金規程を制定し、心理学研究科では学生研究奨励金の給付対象を海外での研究発表に限定していたが国内の学会発表も含めるよう改正した。

また、15 号館で法科大学院が使用していた高性能の複合機を白金校舎の大学院共同研究室に移し、教員と院生が自由に利用できるようにした。

2018 年度の本学独自の奨学金としては以下のものを用意した。

名 称	目 的	応 募 資 格	給付金額 給付人数	2018 年度 給付人数	2018 年度 執行額
明治学院大学出身 入学者支援奨学金 (チャレンジ奨学金)	初年度学 納金の負 担軽減	学部卒業時の総合成績 GPA3.1 以上の者	初年度の年間授業料 の 30%  毎年度 17 名以内	16 名 (申請者全員に 給付)	2,448 千円
明治学院大学大学院成績優 秀者特別奨学金 (チャレンジ奨学金)	学業の奨 励	博士前期課程 1 年次および修士 課程 1 年次修了時の成績 GPA3.3 以上の者	年間授業料の 30%  毎年度 25 名以内	25 名 (申請者: 41 名)	3,825 千円
明治学院大学大学院研究者 養成奨学金 (チャレンジ奨学金)	学納金の 負担軽減  研究の奨 励	博士後期課程の在籍者で、世帯 収入が 600 万円以下の者とする。 ただし、標準修業年限を超 えてこの奨励金に応募すること はできない。	年間授業料の 30%  毎年度 10 名以内	3 名 (申請者全員に 給付)	459 千円
小野國嗣基金奨学金	学業の奨 励	将来社会福祉事業に従事する ことを志している 3 年次生以上 の本学学生（大学院生を含む）	助成額は、奨学金に 関しては 1 件につき 20 万円を上限とし総 額 100 万円を限度と する。  若干名	1 名	70 千円
明治学院大学大学院国外留 学生奨学金	学業の奨 励	国外認定留学を許可された大 学院生で、修士課程または博士 前期課程在学年次 2 年以内の者 (2 年次の秋学期から留学する 者を含む)、博士後期課程在学 年次 3 年以内の者(3 年次の秋学 期から留学する者を含む)	一律 15 万円  給付人数の規定無し	2 名	300 千円
			合計	47 名	7,102 千円

## <大学>

### ① キリスト教教育

キリスト教関連授業との連携を得たことで、横浜キャンパスでのチャペルアワーは参加学生数も増え安定し（8ページ参照）、キリスト教高校出身者の組織化と活動が活発に行われつつある。一方、白金キャンパスでは、ヴェスパ（黙想のつどい）を夕方の時間帯に通常の礼拝形式とは異なる形式で行うことで、参加学生数が定着しつつある。

### ② 教育目標の明確化と教育改善

#### (a) 中長期ビジョン「MG DECADE VISION」の推進

中長期ビジョンである MG DECADE VISION は、2018 年度は実施 4 年目となり、各部署における中長期的な観点での評価指標設定・評価の運用が浸透しつつある。前半 5 年間（2015-2019）の活動の検証とともに、後半 5 年間（2020-2024）をより推進するための検討を推進事務局会議にて行った。

#### (b) 教学改革支援制度の継続支援

本学のグローバル化を推進する学部学科が連携した以下の取組について、学長プロジェクトとして予算措置を行った。これらについては 2019 年度も継続して必要な支援措置を行うことを決定している。

①「内なる国際化」に対応した人材の育成（教養教育センター・社会学部が協働）

②リベラルアーツ教育のための MOOCs 講座・ブレンド型反転授業の開発と実施（国際学部・社会福祉学科・英文学部が協働。学生の英語力強化を図る。）

#### (c) 特色ある教育プログラムへの財政支援

MG DECADE VISION のアクションプランと並行する形で、各学部や教養教育センターが提案する特色ある教育プログラムから 5 つを採択し財政支援を行った（2018 年度採択額は 14,906 千円）。

①実験経済学・行動経済学プロジェクト強化（経済学部）

②警察・消防チャレンジ支援プロジェクト（法学部）

③インバウンド・アウトバウンド学生の学習支援プロジェクト（国際学部）

④座学とフィールドスタディを組み合わせた平和学短期講座（国際平和研究所）

⑤LLTS 持続可能な共生社会を目指すグローバルシチズンシップ涵養のための教育（教養教育センター）\*LLTS : Learning to live together sustainably

#### (d) 外部資金獲得と研究の質向上

2018 年度より総務部に新たに研究支援課を設置し、研究支援・推進に係る体制整備に着手した。2018 年度科学研究費助成事業(科研費)において、本学の新規課題採択率は全国で第 12 位(38.9%)、私立大学では全国第 3 位となった(全国平均 25.0%)。また、科研費に採択(新規+継続分)された女性研究者の比率は全国で 18 位となった。

#### (e) 全学展開プロジェクトの充実

ライティング支援カウンターについて、2019 年度より国際学部から教養教育センターに運用を移管する予定であり、その前提で明治学院共通科目「アカデミック・ライティング」との連携を図るよう体制整備を行った。また、図書館「学習なんでも相談デスク」と役割分担しながら、学生の課外学習環境を充実するよう 2018 年度末にカウンターの設置場所を横浜図書館 2 階パーチに移動した。

#### (f) 教学改革推進本部会議・教学改革推進会議の活性化

系列校との連携強化のための高大接続科目新設、質保証を実質化するための内部質保証体制、本学の将来を見据えた新学部・新キャンパス構想などについて検討を行った。

#### (g) 学内の IR 機能強化と定員管理の精度向上

学籍番号を任意記入式にした学生アンケートと、MISSION（本学における大学戦略構築のための経営情報システム）との連携や、アンケートで収集する身につく能力等の設問設計等を行うとともに、教育効果検証が可能となるような体制整備についての検討を行った。また、MISSION を活用した入学率予測システムについて定員管理の精度向上のための改修を実施した。2017 年度の実績を踏まえ利用範囲を拡大し、2018 年度は A 日程だけでなく、大学入試センター試験利用入学入試、一般入試（全学部日程）でも分析を行った。2018 年度をふまえ 2019 年度も継続する。

#### (h) 入試制度改革

高大接続改革の趣旨に沿って、①各入試制度において「学力の 3 要素」（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価できるよう改善を加える②2020 年度（2021 年度入試）から実施される「大学入学共通テスト」を本学の入学者選抜に適した利用方法で採用する の 2 点を中心に入試委員会で検討を重ね、方向性を決定した。また全体の入試制度改革と併行して、英語外部検定試験利用型入試の拡充についても検討を進めた。さらに、主として系列校および連携推進校を対象に高大接続プログラムの強化を継続し、高校と大学の連携によって志望度の高い意欲ある入学者の確保に結びつけた。

<大学入学試験 志願者数>

入試制度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
一般入学試験（全学部日程・A日程・B日程）	14,198	14,190	15,554	18,033	16,804
大学入試センター試験利用入学試験（前期・後期）	11,772	9,762	9,765	11,681	9,670
特別入試（指定校推薦、系列校特別推薦、自己推薦AO等）	1,816	1,904	2,077	2,315	2,473
合計	27,786	25,856	27,396	32,029	28,947

\*国際キャリア学科の自己推薦AO（9月入学）志願者数を除く

<学外試験会場 受験者数>

	会場	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
1	札幌	56	54	66	90	71
2	仙台	111	117	121	148	117
3	静岡	203	201	216	257	205
4	福岡	104	95	111	146	118
	合計	474	467	514	641	511

(i) 自己点検・認証評価活動の継続と「内部質保証の徹底」を鑑みた諸活動

本学では自己点検・評価運営委員会において毎年度の自己点検・評価の実施方法を決定し、全学的な取組を行っている。2018年度からの大学基準協会による認証評価基準および文科省の各種方針では、「内部質保証の徹底」が強く謳われており、①教育・学修の質保証のための学修成果アセスメントの仕組み構築②PDCA サイクルによる全学的な内部質保証体制の構築の2点が重視されている。このことから、2018年度は上記2点への対応を中心に以下4項目を実施した。

- 1) 2015年度大学評価において適合認定を受けた際に課題とされた事項について各組織の対応状況の進捗確認を行った。また、事務局各部署がそれぞれの業務について定めた中期目標について、総合企画室がオーバーヘッドとなり、進捗状況の検証など点検評価を行った。
- 2) 学生の教育成果を検証する目的で2014年3月から実施している学生アンケート（入学時・在学中・卒業時の学生を対象）の1サイクルが、2018年3月実施の卒業時アンケートの結果をもって完結した。これにより入学から卒業までの経年変化の分析が可能となり、各学科での教育の適切性や学生生活の満足度を検証することで、個々の課題の発見、改善の手がかりを提示することが出来た。また、2019年以降に行うアンケートの全面的な刷新に向けて、各学生の成績や課外活動歴との統合分析を想定した設問を企画した。同時に、統合分析にはアンケートへの学籍番号の記入が不可欠であることから、2018年実施のアンケートで学籍番号記入の方式を試行した。
- 3) 各組織およびその構成員が本学の現状や課題を正しく認識することが内部質保証につながることから、2017年度に配布した「MG FACT BOOK」を見直し、2018年度版「明治学院大学 FACTBOOK」を刊行し、12月に全専任教職員に配付した。2018年度版では、掲載データを大学の政策立案、教育・サービスに有用な項目に精査すると同時に、教職員による活用度を上げることを目指し、形態も携行可能なブックレットとした。
- 4) 「内部質保証体制の整備」について、12月に示された学長諮問を受け、他大学への調査検討を行い新たな体制の構築を提案した。具体的には、学内者によるピアレビューと外部評価を組み合わせ、客観的な視点で各組織の自己点検評価の妥当性を検証する仕組みとし、実効性のある内部質保証体制構築を検討することとした。

(j) 学生への総合サポート体制の充実

総合支援室（心理相談、健康支援・修学支援）は、支援を必要とし希望する学生に対し、教職員や保証人とも連携し、多層的な支援を提供した。

1) 保健指導等の有効活用による学生、教職員への健康支援（含危機管理）の充実

学生健診フローの見直しを図り、2019年度に一部実施する。健康診断結果 Web 通知システムによる学生の閲覧数は前年度比 297%増となったが受診者全体の 33%に留まっており、引き続き工夫の必要性がある。教職員健診項目は医学的な見地、利用者のニーズ等を加味し前年度と一部変更して実施した。生活習慣病のリスクを若年層より発見し、生活習慣改善への早期介入が可能となったことで、重症化予防につながることを期待できる。

2) 発達障がいを持つ学生・修得単位僅少学生への対応および就労等支援の充実

発達障がいのある学生への支援は、特定の学生への継続的支援を行った。また、就労支援は各学期とも「就職活動支援講座」を各9回実施した。春学期はビジネススキル・トレーニング（電話対応、仕事の優先付け）、面接練習、職業体験（採用面接の面接官を体験）を行い、秋学期は自己PR作成、志望動機の手書き、面接練習、ビジネススキル講座仕事力を測る、職業体験（営業ゲーム）などを行った。修得単位僅少学生への支援は、各学部学科のニーズや方針等の違いに着目し、大学全体の政策をも視野に入れて具体的な支援方法の調査検討に着手した。

3) 修学上の支援を必要とする学生に対する支援提供(合理的配慮を含む)および学内啓発の充実

ア 学生に対する支援提供

- ・外部人材も積極的に活用して、聴覚および視覚に障がいがあり支援を必要とする学生への情報保証を中心とした受講支援を行った。
- ・音声認識技術を応用した情報保障の試行、音声認識システムの活用の推進として、授業・イベントなどで使用した。

イ 学内啓発の充実

- ・パンフレット『聴覚に障がいのある学生の支援の手引き』を制作し、聴覚障がい学生支援について学内への情報提供に努めた。
- ・ピアサポート（学生同士の支援）制度の一環で、学生サポートスタッフ（ノートテイク）の養成と登録学生数の増加を目的としたノートテイク講座、スキルアップ・復習講座、個別講習会等を実施した。学生サポートスタッフの登録学生数は66人（2017年度 51人）と増加した。

4) LGBT等（Lesbian・Gay・Bisexual・Transgenderおよび他のセクシュアリティを含む総称）学生への対応のためのガイドライン見直しと改善（大学院含む）

現行の「性同一障害（性別違和）学生に対する支援に関する指針（ガイドライン）」の一部を改定し、性的マイノリティの学生を含め、学生の通称名使用の取扱い等に関する運用を制定した。学外人材を活用し、専門相談窓口を設置した。ホームページでは本学の対応について案内を行うページ「性的指向・性自認等に関する本学の対応について」を作成、公開した。また性的マイノリティに関する今後の施策を検討する際の参考とすべく、全学生向けに学生ポータルを利用して意識アンケート調査を実施した。

(k) 学業支援（奨学金）の強化

1) 「2018年6月18日に発生した大阪府北部を震源とする地震」、「平成30年7月豪雨」、「平成30年8月30日からの大雨」、「平成30年北海道胆振東部地震」に係る被災者学費減免特別措置を実施。大阪府北部地震については学部学生計2名に対して総額981千円を減免、北海道胆振東部地震については学部学生1名に対し261千円を減免とした。なお、平成30年7月豪雨、平成30年8月30日からの大雨については、減免該当者は発生しなかった。

2) その他の学内奨学金制度実施状況

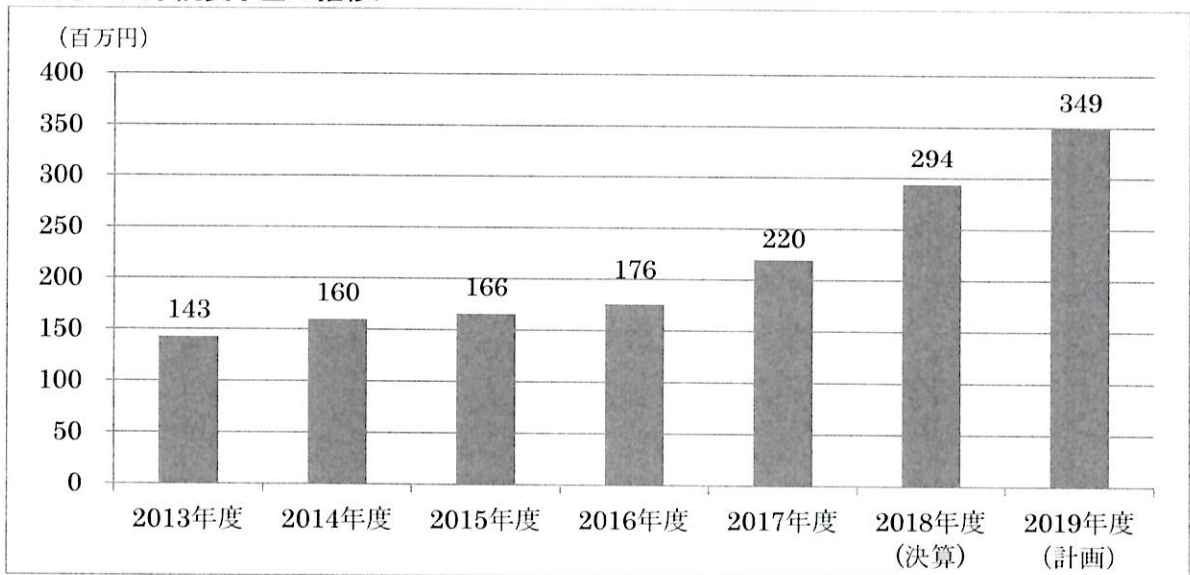
2018年度の本学独自の奨学金として以下のものを用意した。

名称	目的	応募資格	給付金額	2018年度 給付人数	2018年度 執行額
へボン給付奨学金	経済援助	①経済的援助が必要であると認められる学生で、修学上支障のない健康状態を有する者 ②日本学生支援機構奨学金、その他の貸与奨学金を受給している者。または当該年度、日本学生支援機構奨学金（2年次生以上は第二種奨学金に出願した者）、その他の貸与奨学金に出願したが採用とならなかった者 ③原則として在学年次の標準単位を取得している者。ただし、1年次生と編入生は、入学年度に限り標準単位にとらわれない ④最短修業年限内の者 ただし、編入生は、入学後3年間は出願することができる	年間授業料の半額に年間施設費の半額を加算した額を上限	延べ808名 (春学期357名、 秋学期451名)	総額 106,320千円  (内、明治学院大学保証人会からの資金援助額 14,000千円)
認定留学（長期）奨学金	学業奨励	明治学院大学学生交際交流規程第5条第1項第1号に該当する学部学生 (ただし、同第8条第2項に定める短期留学による者は除く。)	2015年度生以前 200,000円 (給付は在学中 1回限り)  2016年度生以降	延べ165名 (春学期29名、 秋学期136名)	総額 49,644千円

			250,000円/学期 (ただし、一部の留学プログラムについては金額が異なる。)		
カリキュラム留学生奨学金	学業奨励	明治学院大学学生交際交流規程第5条第1項第3号に該当する学部学生	250,000円 (給付は在学中1回限り)	173名	総額 43,250千円
白金の丘奨学金	経済援助	次の①～⑥のすべての条件を満たしている者 ①本学を一般入学試験(全学部日程・A日程・B日程)または大学入試センター試験利用入学試験(前期・後期)で受験する者。 ②日本国籍を有する者、または永住者、定住者、日本人(永住者・定住者)の配偶者・子である者 ③東京都(島しょ部を除く ※)・神奈川県・埼玉県・千葉県以外の国内高等学校等の出身者(通信制を除く) ※ 東京都の島しょ部(伊豆諸島・小笠原諸島)に所在する該当学校の出身者は申請可能 ④上記の学校を卒業(修了)した者または当年度末に卒業(修了)見込みの者で、本学へ入学後は4年間自宅外から通学する予定の者 ⑤上記の学校(中等教育学校の場合は後期課程)での評定平均値が、申請時に3.6以上である者 ⑥父母(ただし、ひとり親家庭にあつては父または母、父母が共にいない場合は代わって家計を支えている者とする。)の年収について、市区町村が発行する所得証明書(申請時における最新のもの)に記載された「所得金額」が父母合計で600万円以下である者	200,000円/学期	56名 (内、1名が学業不振につき、秋学期分不支給)	総額 22,200千円
学業優秀賞	学業優秀者の表彰	①2年次以上、最短修業年限内の者 ②各学年学科成績上位者を指名	250,000円 または 150,000円	62名	総額 13,500千円
外国人留学生学業優秀賞	学業優秀者の表彰	①2年次以上、在学年次4年以内の者(休学期間を除く。)※正規留学生が対象。ただし、国際キャリア学科生は除く。 ②各学年成績上位者を指名	150,000円	6名	総額 900千円
小野國嗣基金(奨学金)	学業奨励	①将来、社会福祉および心理学関連領域の職業に従事することを志している3年次以上の者 ②キリスト者であることが望ましい	70,000円	7名	総額 490千円
国際学部国際キャリア学科外国人留学生優秀者奨学金	学業奨励	①国際学部国際キャリア学科に在籍する私費外国人留学生で、成績優秀であると認められる者 ②明治学院大学私費外国人留学生授業料減免を申請する資格のある者	授業料・施設費・設備費・教育維持費の各学期に納入すべき額の総額から各学期の明治学院大学私費外国人留学生授業料減免相当額を除いた額	8名 (春学期2名、秋学期6名)	総額 3,837千円

保証人会外国人留学生奨学金	経済援助	①経済的援助が必要であると認められる正規留学生で、修学上支障のない健康状態を有する者 原則として以下の基準による ・仕送り（入学金、授業料を除く）が、平均月額9万円以下であること ・在日している扶養者がいる場合、その年収が500万円未満であること ②貸与・給付を問わず、他から月額の奨学金として文部科学省外国人留学生学習奨励費以上の金額を支給されていない者 ③原則として在学年次の標準単位を取得している者。ただし、1年次生と編入生は、入学年度に限り標準単位にとられない ④最短修業年限内の者 ただし、編入生は、入学後3年間は出願することができる	年間授業料の半額を上限	24名	総額 2,000千円  (給付額全額、明治学院大学保証人会からの資金援助によるもの)
UNHCR 難民高等教育プログラムによる学納金等の免除および奨学金	経済援助	UNHCR 難民高等教育プログラム (UNHCR Refugee Higher Education Program) により学部に入学者	入学金、春学期学納金等、秋学期学納金等全額免除および月額10万円を給付	1名	学納金等の免除 1,263千円  奨学金 1,200千円
明治学院ぶどうの木奨学基金(奨学金)	学業奨励 経済援助	キリスト教会牧師が扶養する1年次以上、在学年次4年以内の者 採用の可否は運営委員会で審査します ※こちらの奨学金情報は、学校法人明治学院ホームページで公開しています。	300,000円 (自宅通学ができない者は500,000円を上限とする)	13名	総額 5,100千円
合計				1,323名	249,704千円

＜大学・大学院奨学金の推移＞

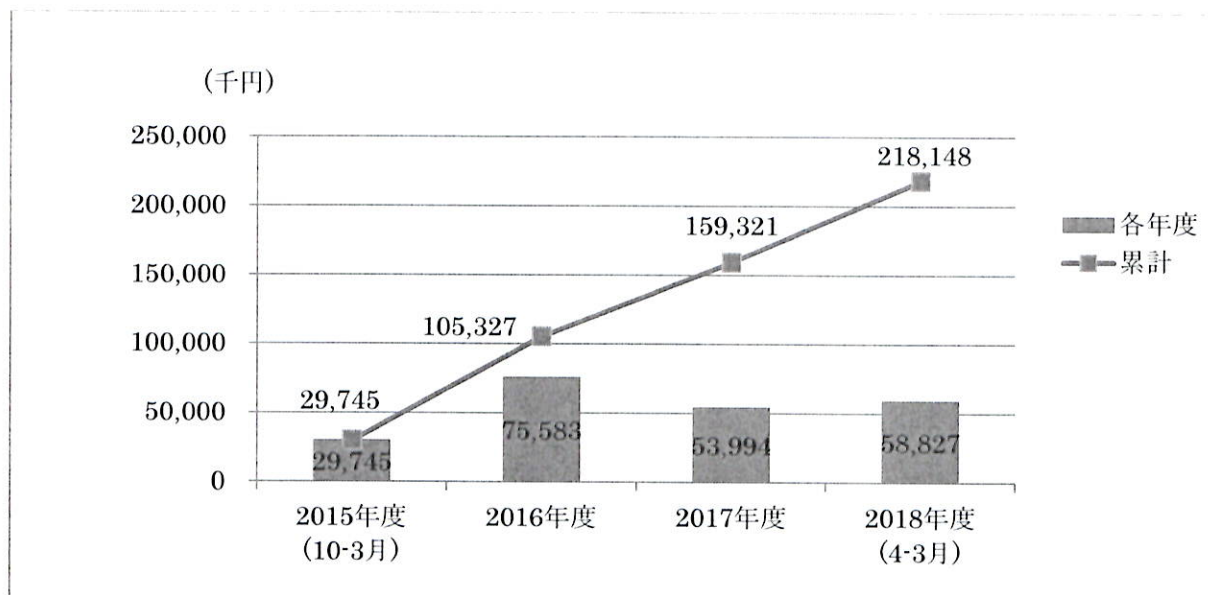


3) チャレンジ奨学金の募金活動

2015年度より募金活動を開始し、目標額450,000千円に対して2019年3月31日現在で1,589件264,581千円の応募があり、累計で218,148千円の寄付実績があった。2018年度奨学金受給者は、白金の丘奨学金(首都圏以外からの入学者への奨学金)56名、認定留学奨学金(認定留学(長期)希望者への支度金)165名、大学院奨学金44名であった。9月と3月に募金ニュースを発行し、校友や保証人等に対して募金を呼びかけた。顕彰として20万円以上の寄付者を対象に「明治学院礼拝堂ペーパークラブ」を配布した。

＜チャレンジ奨学金募金の寄付額実績推移＞





(l) 一貫教育の充実と社会・地域への貢献

1) 教育ビジョンとの連携

教育ビジョン実行本部会議のもとに置かれている各プロジェクトチームに、国際センター、ボランティアセンター、キャリアセンターを中心とした教職員がメンバーとして参加し、教育ビジョンが掲げるアクションプラン実現に向けて検討を行った。

2) 白金キャンパスの所在する東京都港区とは、2018年度に12年目を迎えた「チャレンジコミュニティ大学」や「みなと区民大学」といった生涯学習分野のみならず、はじめての試みとして「音楽のさんぽ道コンサート」を実施し、文化交流分野での連携事業も展開した。また、島崎藤村ゆかりの長野県小諸市とは、2018年8月22日に協働連携に関する基本協定の5回目の更新を行い、本学国際学部ゼミ生による小諸市での研究活動や、自治体推薦入試、クリスマスツリー一点灯式への小諸市の小学生への参加などの連携事業を進めた。そのほか白金校舎において新たな生涯学習講座「明治学院プラチナカレッジ」を開設し、港区民に限らず誰もが参加できる生涯学習環境を整えるなど、「社会・地域に開かれた大学」となるべく積極的な活動および情報発信を行った。

3) 2015年度より採択されている、文部科学省「知(地)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」については、本学は共愛学園前橋国際大学の申請に協力する形で参加している。事業年度4年目となる。2018年度も、群馬県への就職者数を増加させる各種プロジェクトを展開した。

4) 横浜キャンパスにおける連携推進

ア 第21回戸塚まつりを開催(5月26日・27日)。過去10年で最多の5,532名(2日間計)の来場者。隣接する「母子生活支援施設くらき」と学生とのコラボ企画や戸塚まつり3大テーマ(環境・国際・福祉)に即したライブの開催など行った。また戸塚密着型シンガーのkaho\*氏が協賛として戸塚まつりテーマソングを制作、自身のアルバムに収録された。

イ 倉田コミュニティハウスとの共催事業として「チャペルコンサート」を12月に開催。ゲストとして倉田コミュニティハウスによりフルートオーケストラを招き、パイプオルガンとの協演も実現した。また戸塚にある『一般社団法人横浜スペイン語センター』との共催で6月に津軽三味線・アコーディオンによるコンサートも開催し、チャペル2階席まで満席となった。

ウ 神奈川県内の公立・私立高等学校による中学生対象の合同学校説明会のために会場を提供(本年度で5回目)。来場者に本学の「大学案内」の配布等を行った。

エ 近隣地区連合会議等に適宜出席し、地域における防犯活動など意見交換を行った。また横浜市政政策局が主催する「ヨコハマ大学まつり」にエントリーし学生団体が参加した。

オ 戸塚区役所からの要請を受け、統一地方選挙の開票支援のための学生募集を政治学科学生とともに行った。

(m) 課外活動への支援

1) 明学スポーツを強くするプロジェクト(通称:スポーツプロジェクト)への支援

同プロジェクトは、選定されたクラブを大学として支援するシステムであるが、大学における課外活動ということで、人間教育に主眼をおき、学生生活、学業成績においても模範になる学生の育成を第一としている。また、招聘指導者によるクラブの強化、ならびに一般学生、卒業生、父母が大学に対する帰属意識を高めることに繋げることも意図している。

2018年度は第4期の最終年度であり、以下の戦績となった。

<スポーツプロジェクト団体戦績一覧表>

団体名	2018年度(第4期4年目)戦績
アメリカンフットボール部 関東学生 アメリカンフットボール連盟	2部 Aブロック リーグ戦 2位(8大学中) 5勝2敗 ※入替戦出場も昇格ならず
サッカー部 東京都大学サッカー連盟	東京都1部 リーグ戦 1位(10大学中) 15勝2敗1分 ※昇格決定戦出場も昇格ならず 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント関東予選 準優勝 第42回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント ベスト8
バスケットボール部(男子) 関東大学バスケット連盟	3部 リーグ戦 3位(12大学中) 11勝5敗 ※入替戦出場も昇格ならず
バスケットボール部(女子) 関東大学女子バスケット連盟	3部 Aブロック リーグ戦 1位(8大学中)7勝0敗 順位戦を経て11勝1敗 1位(24大学中) ※入替戦で勝利し2部B昇格 主将(4年)が優秀選手賞受賞
バレーボール部(男子) 関東大学バレーボール連盟	3部B 春季リーグ 2勝3敗 順位決定戦勝利 総合成績3部9位 3部A 秋季リーグ 2勝3敗 順位決定戦勝利 総合成績3部9位
バレーボール部(女子) 関東大学バレーボール連盟	4部B 春季リーグ 2勝3敗 4位 総合成績8位 4部A 秋季リーグ 3勝2敗 3位 総合成績5位
野球部 首都大学野球連盟	2部 春季リーグ 5位(9大学中) 5勝5敗 秋季リーグ 7位(9大学中) 3勝7敗
ラグビー部 関東大学対抗戦	Bグループ 2位(8大学中) 5勝1敗1分 ※入替戦出場も昇格ならず
ラクロス部男子 日本ラクロス関東学生リーグ	2部 Aブロック リーグ戦 1位(6大学中) 4勝1敗 ※入替戦出場も昇格ならず 部員2名が2部優秀選手12に選出
ラクロス部女子 日本ラクロス関東学生リーグ	2部 Bブロック リーグ戦 5位(6大学中) 1勝3敗1分 ※下位入替戦で勝利し2部残留
陸上競技部(長距離ブロック) 関東学生陸上競技連盟	箱根駅伝予選会 20位(39大学中) 11時間05分45秒 関東学生連合チームに選出され本戦出場 9区 1時間11分47秒 (参考記録ながら23大学中17位)

なお、戸塚グラウンドへのアクセス改善に向け、2018年度後半から戸塚グラウンドへのマイクロバス運行を試験的に導入した。

2) 課外活動プロジェクトの継続

課外活動としてのクラブ・サークル活動については、体育会37団体、文化団体連合会15団体、

応援団3団体、愛好会29団体(休部団体3含む)、実行委員会3団体、任意団体30団体(休部団体2含む)を公認団体として正式に認定し、活動を支援している。

また、公認団体に所属しない学生も含め、学生生活をより充実させることを目的とした全学生対象の課外講座を実施している。6年目となる2018年度も企業のCSRや教職員との連携により、16講座(延べ500名が参加)を実施し、参加学生の97.7%から「満足」という回答を得た。

### 3) 課外活動奨励賞

課外活動(スポーツ、文化芸術、社会貢献)における優秀な成績や活動の実績を顕彰し、今後の活動奨励を目的とする課外活動奨励賞を決定し表彰した。(個人賞14名、団体賞9団体)

### (n) MGオリンピック・パラリンピック支援プロジェクト

正課授業「現代世界と人間3(オリンピックを考える)」(春学期、履修者数197名)および「現代世界と人間6(パラリンピックを考える)」(秋学期、履修者数179名)を開講した。また、本学学生により組織された学内団体MGオリンピック・パラリンピックプロジェクト実行委員会が、学内外でさまざまな活動を行った。2018年度の主な実績は以下のとおり。

- 5月 戸塚まつり出展「ボッチャ体験会」 主催
- 6月 ・車いすバスケット体験会 主催  
・TOKYO2020学園祭への参加・運営協力(青山学院大学にて開催)  
・外国人おもてなし講座 主催
- 7月 ブラインドサッカー観戦ツアー(アミノバイタルフィールド) 主催
- 10月 Legacy Forum vol.1 あなたはどうする?2020年~聞かせて!オリンピックボランティアの「本音」~ 共催
- 11月 白金祭への出展
- 12月 猫ひろし講演会開催(横浜キャンパス) 主催

なお、活動についてはホームページに専用のページを設け、情報発信を行っている。

<https://www.meijigakuin.ac.jp/campuslife/mgolympicparalympic/>

## ③ グローバル教育の充実

### (a) 国際化ビジョン2018の策定と公開

本学においては、2014年7月に「国際化ビジョン」を策定したが、国内外の社会情勢の変化に対応するため新たに「国際化ビジョン2018」を策定した。①グローバル市民の育成②世界各地でのパートナーシップ構築③国境なきラーニングの提供④多文化共生社会へのアプローチの4つの柱から構成されており、ホームページに掲載することで広く社会に発信した。

### (b) 派遣留学生選考試験制度のリニューアルと学生への出願機会の増加

UC(カリフォルニア大学への留学)プログラムとISP(UC以外の協定校への留学)プログラムの学内選考試験制度を統合し、特に英語圏を志望する学生が出願できる協定校の選択肢を増やした。その結果、過去2年間は合格ラインには達していたが、希望する協定校の受入人数枠を越えたため留学できない学生が15名程度いたが、今年度は3名と減少し、リニューアルの効果が顕著にみられた。

### (c) 短期留学の出願条件の緩和とオープンコースの増加

短期留学の出願条件を大幅に緩和し、同時にオープンコース(語学力別のクラス分けを行い他の国の留学生と同じクラスで学ぶ)対応の協定校を2校(英語圏1校スペイン語圏1校)増やした結果、短期留学の派遣学生数は、例年の160名程度から2割増として、目標値とした190名に近い186名となった。

### (d) UNHCR 難民高等教育プログラムへの参加

2017年5月に、本学、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)、国連UNHCR協会の3機関で「難民高等教育プログラム」に関する協定を締結した。これに基づいて、日本に住む日本国籍を持たない難民を対象に、入学金・学費を全額免除し、学業生活支援のための修学助成金を毎月支給する推薦入学制度を設けた。2018年4月から1名の難民学生を受け入れ、学習および生活を支援している。

## ④ ボランティア活動の充実

### (a) 正課における学びとボランティア実践の融合を目指した独自プログラムの実施

2016年度生よりスタートした全学プログラムの「明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム」は2016年度登録学生が完成年度を迎え、3年生12名に対し修了証を授与した。

### (b) 学生ボランティア活動の参加促進の強化

1日社会貢献プログラム「1 Day for Others」には、今年度は70のプログラムに711名が参加した。「明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム」に登録した1年生のうち81.8%が一つ以上のプログラムに参加した。

(c) 被災地支援活動の継続

東日本復興支援プログラム「Do for Smile@東日本」プロジェクトにおいて、大槌町との連携協定は3期目を迎えた。陸前高田市を含めた支援活動への参加人数は151名であった。大槌町では8年間不通であったJR山田線が三陸鉄道として運行再開されることに合わせて観光客や地域住民向けに「吉里吉里マップ」を5,000部作成し、駅、観光協会、公共施設等に配布した。

(d) 日本赤十字社との共同宣言に基づき、日本赤十字社本部との連携の強みを生かし、赤十字ボランティア情報誌(RCV)の編集、NHK海外たすけあい運動の運営に参加した。

(e) ボランティアセンター設立20年の節目を迎え、キャンパス内では公開講座(共催)、パネル展示会、トークセッションを交えた「ボランティアフェス」を開催した。また白金通信紙上での震災復興支援に関わった現役・卒業生との対談、朝日新聞社との連携による教育シンポジウム企画の実施(24ページ⑥)広報活動の展開(a)参照)、さらには上記企画とボランティアセンター20年のあゆみを取り纏めた「20周年記念誌」を発行した。

⑤ キャリアサポート体制の充実

(a) 2018年度就職・求人状況

【就職実績上位21社】(2019年5月1日現在)

	企業名	男	女	合計
1	東京都教育委員会	6	17	23
1	日本航空(株)	1	22	23
3	横浜市教育委員会	8	13	21
4	ANAエアポートサービス(株)	4	16	20
5	神奈川県教育委員会	4	12	16
6	(株)みずほフィナンシャルグループ	7	8	15
7	日本通運(株)	5	9	14
8	第一生命保険(株)	1	12	13
9	横浜市役所	1	10	11
10	あいおいニッセイ同和損害保険(株)	3	7	10
10	全日本空輸(株)	1	9	10
10	日本生命保険(相)	1	9	10
13	東日本旅客鉄道(株)	3	6	9
13	三井不動産リアルティ(株)	2	7	9
15	警視庁	6	2	8
15	(株)静岡銀行	3	5	8
15	(株)JALスカイ	0	8	8
15	住友不動産販売(株)	4	4	8
15	(株)ネオキャリア	4	4	8
15	(株)星野リゾート	2	6	8
15	(株)マイナビ	3	5	8
	合計	69	191	260

求人件数	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
	9,293	9,609	9,773	12,259	28,562

※2017年度以降の求人件数の増加について

求人紹介システム(キャリアタス UC)の仕様変更に伴い、企業・団体の求人配布が簡素化したことによる。

(b) MG DECADE VISION アクションプラン(2018年度)に基づく取り組み

1) 教育・支援プログラムの充実

キャリア教育においては、学生の自己理解、社会理解をテーマとする授業科目として、明治学院共通科目「ライフデザイン（講座）1」「ライフデザイン（講座）2」を1クラスずつ増設した。また、学生の社会理解・職業理解をテーマとする授業科目として、新たに「ライフデザイン（講座）3」を読売新聞東京本社との連携のもと立ち上げた。

就職支援においては、昨今の採用活動の一環としてのインターンシップの隆盛により、就職ガイダンスを始めとする3年次秋学期の就職支援行事の空洞化（著しい参加学生数の減少）が課題となっている。2018年度はこれに対応するため、参加者の多いインターンシップガイダンスとの統合を行った。その結果、3年次の10月に行われた「インターンシップ・就職ガイダンス」の出席者が756名と、前年より114名の増となり、減少傾向に歯止めをかけることができた。

## 2) 相談体制の充実

2017年度のキャリアセンター（白金・横浜・教育キャリア支援課）の窓口来訪件数は19,840件であった。2018年度は専門的相談員の通年配置（白金・横浜）やエントリーシート添削業務委託といった量的充実を推進し19,337件と前年並みの結果となった。また、10月末に日本キャリア開発協会（JCDA）派遣の講師による職員・相談業務研修をキャリアセンターおよび他部署職員も交えて実施し、相談の質的充実を図った。

## 3) 学外連携

- ・東京新卒応援ハローワーク（厚生労働省）：通年で毎週水曜午後に白金キャンパスに相談員（ジョブサポーター）が派遣され、相談業務およびハローワークが保有する求人紹介の業務にあたった。
- ・ハローワーク戸塚（厚生労働省）：相談員が横浜キャンパスに派遣され年3回の相談会を行った。
- ・東京しごとセンター（東京都）：2018年度は53名の学生が利用登録を行った。一方グループディスカッション、面接のトレーニングは年間計14回行われ、講師が本学に派遣された。
- ・ホテル白金会：1月16日（水）にホテル白金会協力のもと、ホテル業界で働く本学卒業生5名が白金キャンパスを訪れ、本学学生46名と交流会を行った。
- ・へボン経済人会：2月27日（水）に同会会員である宮崎遵氏（エバラ食品工業㈱代表取締役社長）を講師として「食品業界研究講座」を行い、40名近い学生や大学院生が聴講した。
- ・2017年度にU・Iターン就職支援に関する協定を締結した静岡県、山形県に続き、2018年度は札幌市と協定を締結した。
- ・2018年11月より、一般社団法人東京経営者協会に入会した。
- ・分野特化型支援（教職センター、公務員セミナー）において、2018年度は教職センターを13号館から本館に移転し相談施設を拡充するとともに、より学生の動線に近い場所への移転を実現した。また、本館4階法学部国家試験対策室にあった公務員セミナー施設が独立し、15号館に事務室と自習室を新たに設けた。

## ⑥ 広報活動の展開

- (a) 教育理念“Do for Others”の実践など具体的な事例を発信し、明治学院大学の特色・魅力を国内外に伝え、社会的な存在価値（ブランド力）を際立たせる広報展開を継続した。

中長期ビジョン「MG DECADE VISION」（2015～2024）で掲げるグローバルマインド、ボランティアスピリッツ、キャリアデザインの3つの重点的取組において、「グローバルマインド」については、大学で策定した「国際化ビジョン2018」をホームページや紙面広告で積極的に発信し、「グローバルマインド」の育成のための4つの柱をアピールした。

「ボランティアスピリッツ」については、ボランティアセンター設立20周年に絡めて、ボランティアセンターと協力し、朝日新聞社と共催したシンポジウム「朝日教育会議」（2018年12月8日（土）開催、約630名が参加）の実施、また大学広報誌『白金通信』（2018年10月号）での特集による発信等、様々な広報ツールを使った発信に取り組んだ。

「キャリアデザイン」については、ホームページ上の「キャリア教育」に関するページの改修や大学広報誌「白金通信」の特集による発信等、様々な広報ツールを使った発信に取り組んだ。

- (b) 2017年度より、外部のソーシャルメディア運用支援会社を導入して、効果検証を進めているSNS（Twitter、Facebook、Instagram）による情報発信の強化を継続して行った。特に、在学生をターゲットとしたTwitterとInstagramにおいては、掲載内容や画像・動画の充実、またSNS（Twitter、YouTube）を使った動画広告出稿に力を入れた。学生生活やキャンパスライフの生き活きとしたシーンを伝えることに注力をしたことでフォロワー数は着実に増加した（3,778フォロワー→5,137フォロワー）。

さらに、広報課の大学公式SNSによる情報発信ツールの利用を呼び掛けることにより、学内の学生団体や学部・大学院、事務局等とのインナーコミュニケーションの形成に向けた仕組み作りが進ん

だ。

- (c) 2018年度は新任の教員役職者が多く就任したことから、全学的な広報リスク・シミュレーションを実施した。テーマについては、昨今の学内外で発生する事象の中から、ハラスメント事案を取り上げ、模擬記者会見を実施し、広報リスク対応のサポートを委託している外部業者にも協力をしてもらい、訓練を行った。

また、学内関係者・部署や上記委託業者と綿密な連携を取り、日常的な広報リスク対応にも力を入れ、本学のブランドイメージの低下を回避することに心がけた。

- (d) 大学のブランディングの充実の一環として、本学の特色や教育・研究等の取り組みをプレスリリースにより学外に発信することに力を入れた。具体的には学内教育機関・事務局等の取り組みを積極的にリリースで取り上げるため、プレスリリース配信サポート会社を導入し、従来のFAX中心の配信からオンライン配信にも広げ、SNS等、新たな拡散ツールを使った本学の情報配信を進めた。

## ⑦ 防災対策および環境問題への取り組み

### (a) 防災対策

白金、横浜両キャンパスとも、継続して以下の対策を進めた。

- 1) 防災備蓄品の新規購入および更新（特に横浜キャンパスでは備蓄食の補充）。
- 2) キャンパスごとの防災訓練を定期的実施した。白金では高輪消防署の協力による通報・避難誘導・初期消火の訓練、煙の中の避難体験、VR防災体験車、AEDを含む救護訓練等を実施した。横浜では「独自活動に伴う休講」を利用した職員・学生合同の初動・留め置き訓練を実施した。
- 3) 地域貢献として、白金キャンパスでは災害時の白金高輪駅周辺滞留者対策推進協議会の検討会議や訓練に参加し、帰宅困難者・滞留者等の受入れ施設として機能するよう検討した。横浜キャンパスでは、行政・近隣自治会と連携した防災訓練に学生支援チームを派遣した。
- 4) 非構造部材（天井材等）の落下防止措置を順次着手しており、白金キャンパスでは4つの中教室の工事が完了した。また、横浜キャンパスにおいては将来計画（エリア、スケジュール）の再検討を行った。

### (b) 環境問題への取り組み

エネルギーの使用の合理化等に関する法律（省エネ法）および東京都地球温暖化対策計画（CO<sub>2</sub>削減計画）に基づき計画的にCO<sub>2</sub>削減を進めており、2018年度はLED照明更新工事を白金キャンパスでは本館の6階から8階の共用部と9階事務室の一部を施工。横浜キャンパスではメイン通路の外灯23灯と5号館1階から4階の共用部を施工した。

また、トイレ改修工事では節水型器具を採用して、白金キャンパスでは本館北側中央部の3階から5階と3号館地下1階を施工。横浜キャンパスでは4号館1階から4階を施工した。

なお、2015年度に横浜キャンパスで完成した自律(自立)型エネルギーの設備において2018年度は太陽光パネルで約108,448kw/年の発電があり、雨水・井水の利用で509 m<sup>3</sup>/年の節水となり省エネに寄与している。白金キャンパスに於いても雨水の利用で4,940 m<sup>3</sup>/年の節水となっている。

## ⑧ その他の特記事項

### (a) 横浜キャンパスプロジェクトの推進

MG DECADE VISION アクションプランと連携した「横浜キャンパスプロジェクト」を推進し、学生成長の機会を提供した。それぞれの活動グループによる主たる活動は以下のとおり。

アクションプラン	2018年度プロジェクト等	2018年度事業報告
横浜校舎における学生満足度の向上	飲食環境の充実プロジェクト <通称：ごはん部>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学生の飲食環境充実のため、新たにキッチンカー業者2社を追加し、全10社にて日替わりで運用を行った。</li><li>・生協食堂での売上は対前年度1.06倍、インターナショナルカフェの売上は対前年度1.05倍と何れも利用者・売上増となった。</li><li>・東京ケータリングとタイアップし、横浜キャンパスオリジナルスムージーを開発・販売。2018年12月3日から14日まで1日30杯の販売予定に対し全日完売した。</li><li>・生協学生委員会との共催で「レシピコンテスト」を開催。</li></ul>

	学バス運行計画	2017年度に引き続き、行政（戸塚区役所）、上倉田・下倉田・吉田矢部連合会および江ノ電バスを交えての協議を実施。吉田町内に大学直行バス発着場所設置の案が具体的に進んだが、同町内からの反対により見送られた。行政より他の場所の提案もあったが何れもバス運行上で問題があったため、学内で検討するレベルに至らなかった。
	学生間交流プロジェクト (J.C. バラ・プログラム)	2019年2月26日(火)開催。明治学院高校131名、明治学院東村山高校105名、計236名参加。国際学部卒業生の講話ののち、学生メンバー58名による「テーマ別懇談会」「コンセンサスゲーム」「ウォークラリー」を実施。約88%の高校生から大学生活への期待が高まったとのアンケート回答を得た。
	ピアサポートプロジェクト (キャンパスコンシェルジュ)	学生による学生のサポート（ピア・サポート）として学生相談業務以外に以下の取組を実施した。 ア 受動的活動－学生からの質問対応等－ 2018年度相談件数：3686件（2017年度相談件数：2517件） イ 能動的活動－コンシェルジュ独自企画の開催等－ 「学内Wi-Fiへの接続講座」「日本語による留学生との交流企画」「新入生向茶話会」「学生プレゼンテーション企画」等開催。戸塚まつりへの企画参加。 ウ 教職員連携・他大学との交流 ・他大学（桜美林大学・文教大学・白梅学園大学・同志社女子大学・宮崎大学・静岡産業大学）からの依頼を受け、各校教職員・学生とコンシェルジュによる意見交換を実施。また成城大学と定期的な交流を実施。 ・外部セミナーで講演：内田洋行・大学・高校実践ソリューションセミナー他 ・芝浦工業大学と本学職員合同研修にて学校見学対応およびプレゼンターを担当。
ピアサポートによるキャンパス活性化の推進	ヤギ除草システムプロジェクト<通称：ヤギ部>	・ヤギ2頭による除草を実施。除草範囲をA館下築山から緑の丘（ヘボンフィールド前）、遠望橋下まで広げた。 ・ヤギ除草を開始して5年目を迎えたことから、オリジナルヤギ部キャップを制作。2019年度の横浜キャンパスオープンキャンパスや戸塚まつりにおけるヤギ除草活動紹介時の日差し対策に利用する。
	エコキャンパスうちわコンテスト	・上位入賞した3作品をうちわとして作成し、学生はシェア利用した。 ・うちわ裏面のデザインを変更し、環境省とタイアップし「Re-Style」のロゴも追加した。
「社会貢献」活動実施とそのイメージ定着	スポーツ GOMI 拾い大会	一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブとの共催による第6回「スポーツ GOMI 拾い大会」を横浜学生課、ボランティアセンターと協力し開催。近隣住民、本学学生そして職員が参加し約100kgのゴミを収集した。
	横浜キャンパスチャリティライブ開催	「環境・国際・福祉」を共通テーマとしている戸塚まつりにおいて、「福祉」の観点から学生団体との共催でチャリティライブを開催。集まった215,714円の寄付金についてはボランティアセンターにおける学生の活動資金として活用した。

## (b) 職員研修制度

「人事考課制度」に関連して、明治学院の持続的発展を支える人材である専任職員の育成と能力開発を目的に、職能資格や役職位に応じたSD体系に基づいた研修プログラムを実施している。大学運営や教育研究サポート体制を強化するために職員のレベルアップは必須であり、2018年度も研修内容を改善して、職員の能力向上をはかった。職能資格別研修に関しては学内で行う研修（グループワーク、個人レポート作成）のほか、私立大学連盟の研修（キャリアディベロップメント研修など）にも継続して参加している。また、MG DECADE VISIONのアクションプランとして人事部が設定したクレドの策定については、9月の職員全体研修会にて意見交換を行い3つのクレドを決定した。英

語研修については、TOEIC 公開テスト受験のサポートとホープカレッジ（アメリカの協定校）への海外研修（国内にて1週間の英語研修と現地での語学および業務体験を2週間行うプログラム）を継続して実施した。

(c) 校友センターによる大学と校友との絆づくりの構築

主に若年層（2010年から2015年卒業生）を対象とした「MGクリスマスビュッフェを楽しもう！」と題した実験的イベントを初めて実施した。ここ数年、校友会主催イベントにおける若年層の参加率は1%を切ることもあり振るわなかったが、当該イベントの参加率は4.6%を記録した。また当日の参加者は417名で過去2番目の参加者数となり、一定の成果を得ることができた。

(d) 高輪校舎(15号館)の活用とそれに伴う配置変更

法科大学院廃止に伴い、高輪校舎(15号館)を中心とした白金校舎施設利用のための配置変更を行った。狭隘であった国際センターとボランティアセンターをそれぞれ2号館と10号館へ移転し、白金校舎で事務室が分散していたキャリアセンターを本館1階にまとめるなど学生の利便性向上をはかった。

(以下、略)



# 明治学院大学

2019 年度 事業報告書（抜粋）



(中略)

## 2 明治学院大学・大学院

### (1) 事業計画

#### <大学院>

- ① 大学院の活性化
- ② 大学院広報の強化
- ③ 大学院生の研究環境整備

#### <大学>

- ① キリスト教教育
- ② 教育目標の明確化と教育改善
- ③ グローバル教育の充実
- ④ ボランティア活動の充実
- ⑤ キャリアサポート体制の充実
- ⑥ 広報活動の展開
- ⑦ 防災対策および環境問題への取り組み
- ⑧ その他の特記事項

### (2) 事業計画の進捗状況

明治学院大学は、「キリスト教に基づく人格教育」を建学の精神とし、「Do for Others」（他者への貢献）を教育理念として研究・教育に邁進している。この教育理念のもとに、宗教部を中心とした学内外におけるキリスト教の活動と行事を通じて、学生・教職員に建学の精神を伝達すると同時に、全学的な人材育成像である5つの教育目標、すなわち、

- 1) 他者を理解できる人間の育成
- 2) 分析力と構想力を備えた人間の育成
- 3) コミュニケーション能力に富む人間の育成
- 4) キャリアをデザインできる人間の育成
- 5) 共に生きることのできる人間の育成

を掲げて、大学院・大学として研究・教育活動を遂行してきた。さらに、この5つの教育目標を具現化するための中長期ビジョンとしてMG DECADE VISIONを掲げ推進している。

#### <大学院>

##### ① 大学院の活性化

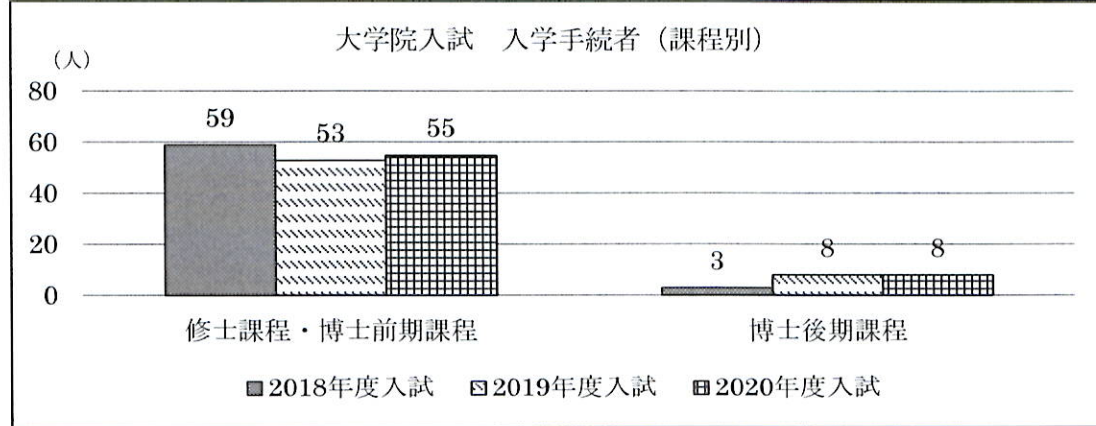
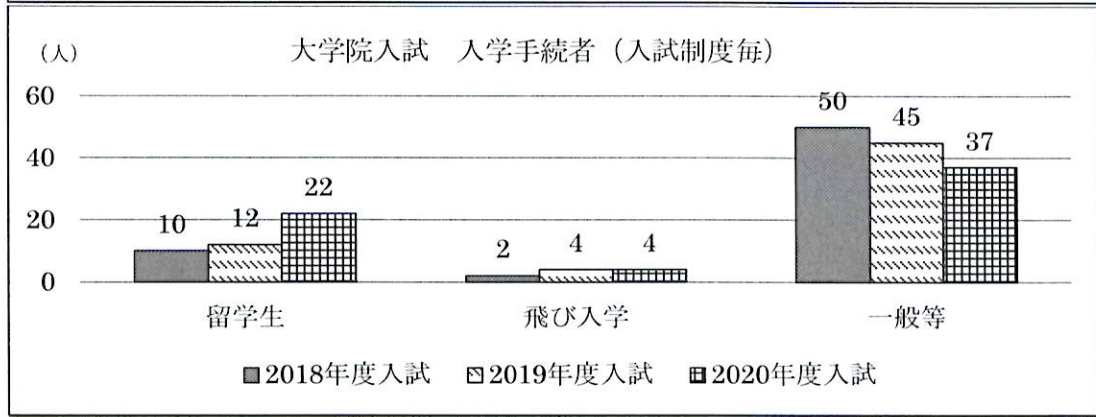
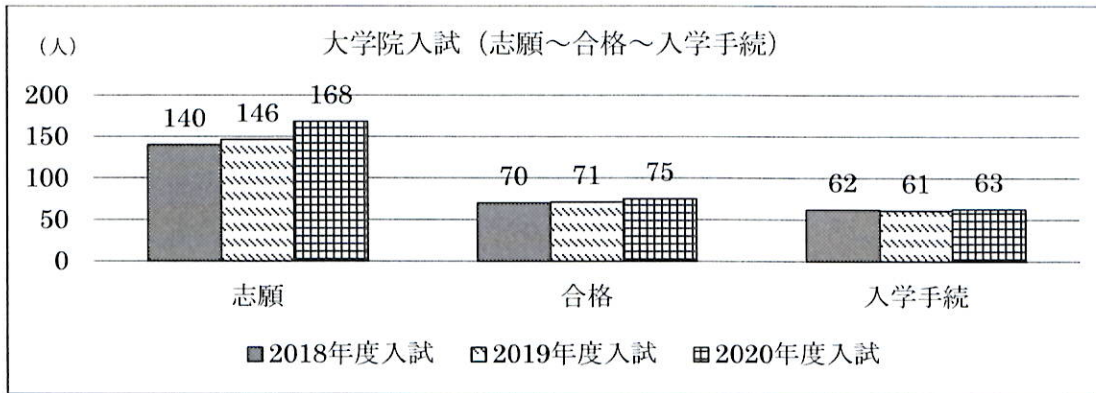
大学院の活性化については大学院委員会で議論を重ね、「入学前対応（院生の確保）」および「在籍者・修了生支援」について学長が理事会に向けて提言を行った。

2019年度は博士後期課程を修了した5名（社会学専攻1名、社会福祉学専攻1名、心理学専攻3名）に博士の学位（課程博士）が授与された。また、修士課程・博士前期課程では全研究科合計54名に修士の学位が授与された。

2019年度に本学経済学研究科と対外経済貿易大学外国語学院（北京）との間で入試協定を締結し、経済学専攻（博士前期課程）において渡日前入試制度（10月出願、11月Skype入試）を新設した。

2020年3月末に大学院入学前教育として日本語講座（対象：外国人留学生）と研究倫理教育に関する講演会（対象：院生および入学予定者）の開催を計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止とした。

<大学院入試結果（2018年度～2020年度）>



② 大学院広報の強化

大学院志願者の増加を図る施策として大学院進学説明会を年6回開催し、合計168名の参加があった。横浜校舎では主に学部の1、2年次生を対象に大学院進学ガイダンスを開催し17名の参加となった。また、法と経営学専攻は10月から12月にかけて6回にわたり学部生に対して授業を公開した。

MG DECADE VISIONのアクションプランに掲げている「外国人留学生の志願者・入学者の増加」を目指し、日本語能力試験（JLPT）のN1レベルの受験生獲得のため、国内外の進学相談会に積極的に参加した。国内では大学院進学実績の高い日本語学校に出向き、大学院説明会と法と経営学専攻教員による模擬授業を行った。国外ではJASSO主催の日本留学フェア（台湾、北京、上海）に参加し、本学の広報に努めた。台湾および北京会場については入試センター、国際キャリア学科と合同で参加した。

③ 大学院生の研究環境整備

学部生の教育補助業務を担うTA（ティーチング・アシスタント）制度を活用し、院生の研究環境の向上を図った。TA制度の利用実績は34名であった。

白金校舎へボン館の各専攻共同研究室（院生用の部屋）のノートパソコンを一斉更新した。また、大学院教室の視聴覚機器の更新も行い電子黒板等を設置した。

2019年度の本学独自の奨学金としては以下のものを用意した。

名 称	目 的	給付金額 給付人数	2019 年度 給付人数	2019 年度 執行額
明治学院大学出身 入学者支援奨学金 (チャレンジ奨学金)	初年度学納金 の負担軽減	初年度の年間授業料の 30% 毎年度 17 名以内	16 名 (申請者全員に給付)	2,448 千円
明治学院大学大学院 成績優秀者特別奨学金 (チャレンジ奨学金)	学業の奨励	年間授業料の 30% 毎年度 25 名以内	27 名 ※GPA 同率の者がい たため (申請者 : 34 名)	4,131 千円
明治学院大学大学院 研究者養成奨学金 (チャレンジ奨学金)	学納金の負担 軽減 研究の奨励	年間授業料の 30% 毎年度 10 名以内	4 名 (申請者全員に給付)	612 千円
小野國嗣基金奨学金	学業の奨励	助成額は、奨学金に関しては 1 件につき 20 万円を上限と し総額 100 万円を限度とす る。  若干名	1 名	125 千円
明治学院大学大学院 国外留学生奨学金	学業の奨励	一律 15 万円 給付人数の規定無し	1 名	150 千円
合計			49 名	7,466 千円

## <大学>

### ① キリスト教教育

チャペルアワーについては、大学ポータルサイトの利用に加え、告知場所をパレットゾーン（白金）、C 館（横浜）に広げるなど学生への広報を強化した。出席者数としては減少（平均 56.4 人、2018 年度比 3.4 人減）したが、学生による奨励の回数を増やしたほか、MCM (Meijigakuin Chapel's Members) の企画による礼拝を通じて、学生との緊密な協力関係の構築をすすめた。ヴェスパー（黙想の集い）は、20 回開催し毎回およそ 3~4 名の学生が参加するなど学生の間で認知されつつある。

### ② 教育目標の明確化と教育改善

#### (a) 中長期ビジョン「MG DECADE VISION」の推進

中長期ビジョンである MG DECADE VISION について、2019 年度は前半 5 年間（2015-2019）の活動の検証を行った。また、後半 5 年間（2020-2024）に向けて、3 つの重点政策（グローバルマインド・ボランティアスピリッツ・キャリアデザイン）にもとづいたアクションプランを策定し、その実現のための施策を事務局から公募し選定を行った。

#### (b) 教学改革支援制度の継続支援

本学のグローバル化を推進する学部学科が連携した以下の取組について、学長プロジェクトとして継続支援を行った。

##### 1) 「内なる国際化」に対応した人材の育成（教養教育センター・社会学部が協働）

	申請者数	認定者数
サポーター	10 名	9 名
ファシリテーター	5 名	4 名

##### 2) リベラルアーツ教育のための MOOCs 講座・ブレンド型反転授業の開発と実施（国際学部・社会福祉学科・英文学科が協働。学生の英語力強化を図る。）

2019 年度履修者数 春学期 86 名 秋学期 86 名

#### (c) 特色ある教育プログラムへの財政支援

MG DECADE VISION のアクションプランと並行する形で、各学部や教養教育センターから提案さ

れた下記の特徴ある教育プログラムに対し財政支援を行った（2019年度支援額は14,586千円）。

	プログラム名	実施内容
1	実験経済学・行動経済学プロジェクト強化（経済学部）	実験経済学・行動経済学を主軸に、従来の経済学教育に情報通信技術を積極的に取り入れ、学習者が自ら考え主体的に学ぶためのアクティブラーニングを取り入れた授業を展開した。
2	警察・消防チャレンジ支援プロジェクト（法学部）	国家試験対策室が中心となり、外部の予備校講師と連携しながら、警察行政職員・警察官・消防官をはじめとした公務員採用試験に在学中に合格できるよう支援を行った。2018年度生（2019年度に受験）は7割近い（25名中17名合格）合格率を達成することができた。
3	インバウンド・アウトバウンド学生の学習支援プロジェクト（国際学部）	正規留学生や複数の言語環境を背景とする学生（インバウンド学生）に対し修学支援を行うと共に、留学を希望する在校生（アウトバウンド学生）に対しては、目的意識の創出や適切な留学先選定のアドバイス、留学後の学修サポート等を行った。
4	座学とフィールドスタディを組み合わせた平和学短期講座（国際平和研究所）	広島・長崎へのフィールドワークを中心とした平和学講座を実施した。フィールドワークには、本学学生だけでなく、アメリカン大学、ジョージスクール（ペンシルバニア州のボーディングスクール）からの参加者もあり、貴重な交流の機会となった。
5	LLTS持続可能な共生社会を目指すグローバルシチズンシップ涵養のための教育（教養教育センター） *LLTS: Learning to live together sustainably	グローバルシチズンシップを有した地球市民として、様々な社会問題に対処できる思考力・判断力を涵養するため、「グローバルシチズンシップ入門1・2」および「グローバルシチズンシップ各論1・2」を開講すると共に、映画上映会等を開催した。

(d) 全学展開プロジェクトの充実

ライティング支援カウンターについて、2019年度より運用を国際学部から教養教育センターに移管。横浜図書館2階パーチにて運用を開始し、学生のレポートや論文の書き方指導を行える環境を整えた。

(e) 教学改革推進本部会議の活性化

科目の順次性・体系性を示す、科目ナンバリングの制度設計を行った。2020年度入学生から提示を開始する。

(f) IR機能（MISSION）の活用

入学時・在学中・卒業時の学生を対象とした「学生アンケート」について、2019年度は学籍番号・氏名を記入する形式で実施した。これにより、MISSION（本学における大学戦略構築のための経営情報システム）とのデータ結合が行えるようになり、学内で保有する各種データとの連関分析が可能となった。

分析については、担当教員3名を配置して専門的知見による分析に着手した。分析結果について、教職員対象の報告会を実施し、新たな見地の発見や今後どのように活用するか等について活発な意見交換が行われ、データ活用の機運が高まった。

MISSIONを活用した入学率予測システムを用いて、2019年度も、大学入試センター試験利用入学入試、一般入試（全学部日程）、A日程で予測を行った。

(g) 入試制度改革

2018年度に引き続き、高大接続改革の趣旨に沿って①各入試制度において「学力の3要素」（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価できるよう改善を加える、②2020年度（2021年度入試）から実施される「大学入学共通テスト」を本学の入学者選抜に適した利用方法で採用する、の2点を中心に入試委員会で検討を重ね、新入試制度を決定した。

また、「MG箱根駅伝プロジェクト」における検討結果を踏まえ、2021年度入試から体育会陸上競技部（長距離ブロック）を対象として、高校を指定しない新たなスポーツ推薦制度を導入することになった。

さらに、主として系列校および連携推進校を対象とした高大接続プログラムの強化を継続し、高校と大学の連携によって志望度の高い意欲ある入学者の確保を実現した。こうした活動の成果を入試制度の改革に活かす仕組み作りを今後も検討していく。

<過去5年の志願・受験・合格推移>

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
志願者数	25856	27396	32029	28947	23480
受験者数	25112	26545	31074	27760	22542
合格者数	9141	8696	6935	6443	6695
手続者数	2956	3205	2844	2725	2790
入学定員	2630	2950	2950	2950	2950
定員充足率(%)	112.4	108.6	96.4	92.4	94.6

\*編入、9月入学を除く

<学外試験会場 受験者数>

	会場	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
1	札幌	54	66	90	71	53
2	仙台	117	121	148	117	80
3	静岡	201	216	257	205	170
4	福岡	95	111	146	118	98
	合計	467	514	641	511	401

(h) 自己点検・認証評価活動の継続

新たな大学評価の基準となる第三期の大学評価基準に適する体制の確立に向け、教育の内部質保証システム、大学運営・管理統括のための制度や権限・責任組織の確立が求められている。さらに内部質保証に関する大学としての方針の明示も求められていることから、2019年度にこれらの体制での運用と整備、方針の制定を行った。

具体的には、新たな大学基準に準拠した自己点検・評価項目で学内の各組織が点検を行い、その結果を学内の第三者による客観的評価を受けるピアレビュー評価を行った。この結果をもとに各組織および大学運営の現状について点検を行い、内部質保証を統括する委員会において、大学執行部自らの課題および各組織の課題について点検を行い、大学執行部および各組織に対し、改善事項について学長から指示を行った。

これら一連の内部質保証の取り組みに関する委員会となる「自己点検・評価委員会」、「ピアレビュー委員会」、「質保証統括委員会」、「質保証外部評価委員会」、「質保証企画委員会」を新たに設置し、基本方針となる「内部質保証に関する方針」を定め、規程および方針の制定等を行い、体制を整えた。2020年度以降も、引き続き、この体制の推進に取り組み、2022年度大学評価受審に向けた本格的な自己点検・評価および内部質保証体制の確立につなげていく。

なお、2019年度は、前回2015年度に受審した大学評価（認証評価）結果での指摘事項である「努力課題」の事項について、大学基準協会に改善報告書を提出した。大学基準協会による検討の結果、再度報告を求められる事項はなく、引き続き、改善項目の更なる対応を求めるといった概評結果であった。

このほか、自己点検・評価活動の基礎データ収集を目的とした「学生アンケート」に加え「学習成果調査」を導入し、学生の身についた力について調査を行った。なお、本調査は、2019年度末の実施のため、分析等については2020年度となる。

また、2018年度に引き続き、適切な自己点検・評価の基礎となる有効な数値データを集約した「ファクトブック」を作成し全教職員への配布を行った。

(i) 学生への総合サポート体制の充実

総合支援室（心理相談、健康支援・修学支援）は、支援を必要とし希望する学生に対し、教職員や保証人とも連携し、多層的な支援を提供した。

1) 健康診断を中心とした健康管理の効率化による学生、教職員への健康支援（含危機管理）のさらなる充実

2018年度に引き続き、健康診断の効率化、将来的なペーパーレス化およびシステム化を検討した。学生健診では問診票の見直しを行い、教職員健診のシステムでは改修のほか的確な健康管理実施のための判定基準を更新した。職場巡視では危険業務を伴う箇所等の巡視を行い、衛生委員会で指摘事項を共有した。人事部を通じて改善報告を受けることとしている。

受動喫煙被害防止の観点から2019年度の改正法令、条例の施行により学内の喫煙場所を縮小した。喫煙者および非喫煙者に向けての啓発事業として呼気中のCO濃度測定会を春・秋学期に実施した。2019年度末に発生した新型コロナウイルス感染症に関して、危機管理の観点から従来より在庫確保

に努めていたマスクやアルコール消毒器の入学試験等への活用、手洗いに関する積極的な奨励、正しい方法の掲示などを行った。

2) 発達障がいを持つ学生・修得単位僅少学生への対応および就労等支援の充実

発達障がいのある学生への就労等支援として春・秋学期とも「就職活動支援講座」をそれぞれ 9 回実施した。具体的には春学期は就活オリエン、面接練習、ビジネススキル講座、職業体験、自己 PR・志望動機作成等、秋学期は自己 PR 作成、志望動機の手書き方、面接練習、ビジネススキル講座、仕事力を測る、職業体験（営業ゲーム）、キャリアプランニング等を行った。

3) 修学上の支援を必要とする学生に対する支援提供（合理的配慮を含む）および学内啓発の充実

ア 学生に対する支援提供

聴覚および視覚に障がいがあり支援を必要とする学生に対し、学外人材の協力を得て、授業における情報保障を中心に支援提供した。

イ 学内啓発の充実

ブックレット「支援を必要とする学生への修学支援について」および「聴覚に障がいのある学生への支援の手引き」を、2019 年度に新規事業として採択されたコンテンツ配信システムに載せて配信した。ピアサポート（学生同士の支援）制度の一環で、学生サポートスタッフ（ノートテイク）の養成と登録学生数の増加を目的としたノートテイク講座、スキルアップ・復習講座、個別講習会等を実施した。学生サポートスタッフの登録学生数は 74 人（2018 年度 66 人）と増加した。

ウ LGBT 等（Lesbian・Gay・Bisexual・Transgender および他のセクシュアリティを含む総称）学生への対応のためのガイドライン見直しと改善（大学院含む）

現行の「性同一性障害（性別違和）学生に対する支援に関する指針（ガイドライン）」を学内方針とするための検討に着手した。12 月 7 日に「卒業生と一緒に 明学×LGBTQ\* 知ろう＋学ぼう＋考えよう LGBTQ と私たち」と題した学生向け啓発事業を実施した。

学外人材による専門相談窓口を継続して設置するとともに、LGBT 等学生支援を充実させている早稲田大学の訪問調査を行った。

\*Q：Questioning [性的指向・性自認が定まってない人]、Queer [性的少数者の総称]

(j) 課外活動への支援

1) 明学スポーツを強くするプロジェクト（通称:スポーツプロジェクト）への支援

同プロジェクトは、選定されたクラブを大学として支援するシステムであるが、大学における課外活動ということで、人間教育に主眼をおき、学生生活、学業成績においても模範になる学生の育成を第一としている。また、招聘指導者によるクラブの強化、ならびに一般学生、卒業生、父母が大学に対する帰属意識を高めることに繋げることも意図している。

2019 年度は第 5 期の初年度であり、以下の戦績となった。

<スポーツプロジェクト団体戦績一覧表>

団体名	2019 年度所属リーグ	2019 年度(第 5 期 1 年目)戦績
アメリカンフットボール部	関東学生 アメリカンフットボール連盟	2部 Bブロック リーグ戦 2位(8大学中) ※1部入替戦に勝利し、1部(BIG8)に昇格
サッカー部	東京都大学 サッカー連盟	東京都 1部 リーグ戦 2位(10大学中) ※昇格決定戦に勝利し、関東大学サッカー2部リーグに昇格
バスケットボール部(男子)	関東大学 バスケットボール連盟	3部 リーグ戦 10位(12大学中) ※4部入替戦に勝利し、3部残留
バスケットボール部(女子)	関東大学女子 バスケットボール連盟	2部 Bブロック リーグ戦 7位(8大学中) ※3部入替戦に敗れ、3部降格
バレーボール部(男子)	関東大学 バレーボール連盟	3部 Aグループ 春季リーグ 順位決定戦敗退 総合成績 3部 10位(12大学中)  3部 Bグループ 秋季リーグ 順位決定戦勝利 総合成績 3部 3位(12大学中)

野球部	首都大学野球連盟	2部 春季リーグ 6位(10大学中) 秋季リーグ 4位(10大学中)
ラグビー部	関東大学対抗戦	Bグループ 2位(8大学中) ※入替戦出場も昇格ならず
ラクロス部男子	日本ラクロス協会 関東学生ラクロスリーグ	2部 Aブロック リーグ戦 2位(6大学中) ※1部入替戦に勝利し、1部昇格
ラクロス部女子	日本ラクロス協会 関東学生ラクロスリーグ	2部 Bブロック リーグ戦 2位(6大学中) ※1部入替戦に勝利し、1部昇格
陸上競技部(長距離ブロック)	関東学生 陸上競技連盟	箱根駅伝予選会 24位(43大学中)

## 2) 課外活動プロジェクトの継続

課外活動としてのクラブ・サークル活動については、体育会 36 団体、文化団体連合会 15 団体（休部団体 1 含む）、応援団 3 団体、愛好会 26 団体、実行委員会 3 団体、任意団体 26 団体を公認団体として正式に認定し、活動を支援している。

また、公認団体に所属しない学生も含め、学生生活をより充実させることを目的とした全学生対象の課外講座を実施している。7 年目となる 2019 年度も企業の CSR や教職員との連携により、21 講座（延べ 740 名が参加）を実施し、参加学生の 98.2%から「満足」という回答を得た。

## 3) 課外活動奨励賞

課外活動（スポーツ、文化芸術、社会貢献）における優秀な成績や活動の実績を顕彰し、今後の活動奨励を目的とする課外活動奨励賞を決定し表彰した。（個人賞 8 名、団体賞 10 団体）

## (k) 学業支援（奨学金）の強化

1) 「平成 30 年 7 月豪雨」、「平成 30 年北海道胆振東部地震」、「平成 30 年 8 月 30 日からの大雨」、「令和元年 8 月の前線に伴う大雨」、「令和元年台風第 19 号」に係る被災者学費減免特別措置を実施。平成 30 年北海道胆振東部地震については学部学生 1 名に対して総額 261 千円を減免、令和元年台風第 19 号については学部学生 4 名に対し 1,186 千円を減免とした。なお、平成 30 年 7 月豪雨、平成 30 年 8 月 30 日からの大雨、令和元年 8 月の前線に伴う大雨については、減免該当者は発生しなかった。

2) 「カリキュラム留学生奨学金」の法学部グローバル法学科生への適用を開始した。

3) その他の学内奨学金制度実施状況

2019 年度の本学独自の奨学金として以下のものを用意した。

名 称	目 的	給付金額	2019 年度 給付人数	2019 年度 執行額
へボン給付奨学金	経済援助	年間授業料の半額に年間施設費の半額を加算した額を上限	延べ 774 名 (春学期 361 名、秋学期 413 名)	総額 105,950 千円 (内、明治学院大学保証人会からの資金援助額 14,000 千円)
認定留学（長期）奨学金	学業奨励	2015 年度生以前 200,000 円 (給付は在学中 1 回限り) 2016 年度生以降 250,000 円/学期 (ただし、一部の留学プログラムについては金額が異なる。)	延べ 230 名 (春学期 95 名、秋学期 135 名)	総額 69,302 千円
カリキュラム留学生奨学金	学業奨励	250,000 円 (給付は在学中 1 回限り)	186 名 (EG 生 116 名、JG 生 70 名)	総額 46,500 千円

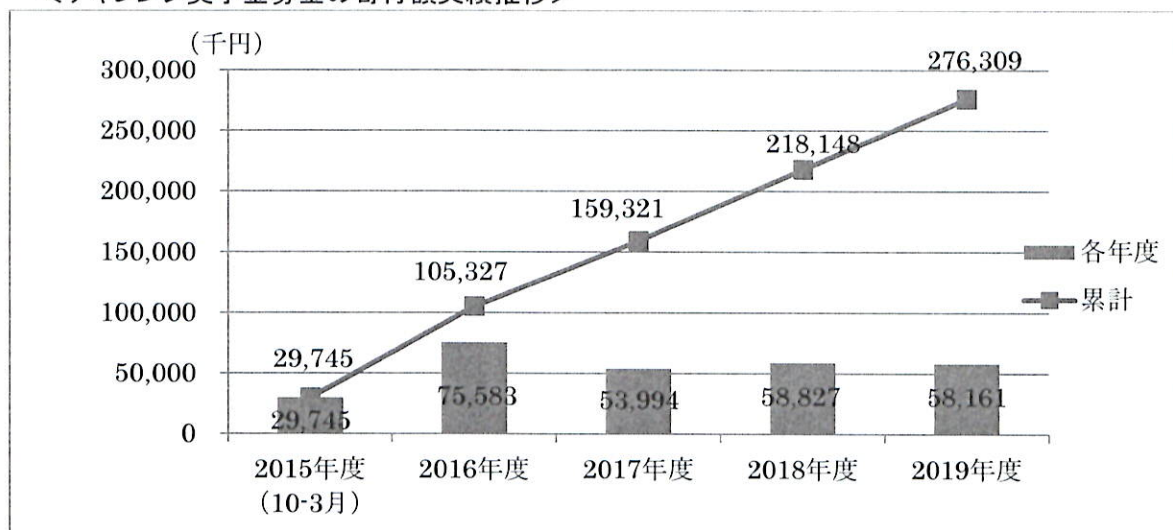


白金の丘奨学金	経済援助	200,000 円／学期	59 名 (内、1 名が 学業不振につき、秋 学期分 不支給)	総額 23,400 千円
学業優秀賞	学業優秀 者の表彰	250,000 円 または 150,000 円	66 名	総額 14,100 千円
外国人留学生 学業優秀賞	学業優秀 者の表彰	150,000 円	6 名	総額 900 千円
小野國嗣基金 (奨学金)	学業奨励	125,000 円 ～60,000 円	4 名	総額 435 千円
国際学部国際キャ リア学科外国人留 学生優秀者奨学金	学業奨励	授業料・施設費・設備費・ 教育維持費の各学期に納入 すべき額の総額から各学期 の明治学院大学私費外国人 留学生授業料減免相当額を 除いた額	延べ 25 名 (春学期 12 名、秋学 期 13 名)	総額 12,008 千円
保証人会外国人 留学生奨学金	経済援助	年間授業料の半額を上限	20 名	総額 2,000 千円 (給付額全額、明治学 院大学保証人会からの 資金援助によるもの)
UNHCR 難民高等 教育プログラムに よる学納金等の免 除および奨学金	経済援助	入学金、春学期学納金等、 秋学期学納金等全額免除お よび月額 10 万円を給付	2 名 (内、1 名が 体調不良による休学 につき、秋学期分不 支給)	学納金等の免除 1,872 千円 奨学金 1,800 千円
明治学院ぶどうの 木奨学基金 (奨学金)	学業奨励 経済援助	300,000 円 (自宅通学ができない者は 500,000 円を上限とする)	10 名	総額 3,600 千円
合計			1,382 名	281,867 千円

#### 4) チャレンジ奨学金の募金活動

2015 年度より募金活動を開始し、目標額 450,000 千円に対して 2020 年 3 月 31 日現在で 1925 件 300,766 千円の応募があり、累計で 276,309 千円の寄付実績があった。2019 年度奨学金受給者は、白金の丘奨学金（首都圏以外からの入学者への奨学金）59 名、認定留学奨学金（認定留学（長期）希望者への支度金）229 名、大学院奨学金 47 名であった。9 月と 3 月に募金ニュースを発行し、校友や保証人等に対して募金を呼びかけた。顕彰として 20 万円以上の寄付者を対象に「明治学院礼拝堂ペーパークラフト」を配布した。募金期間について 1 年間延長し、2021 年 3 月末までとした。

<チャレンジ奨学金募金の寄付額実績推移>



(l) 一貫教育の充実と社会・地域への貢献

1) 教育ビジョンとの連携

教育ビジョン実行本部会議のもとに置かれている各プロジェクトチームに、国際センター、ボランティアセンター、キャリアセンターを中心とした教職員がメンバーとして参加し、教育ビジョンが掲げるアクションプラン実現に向けて検討を行った。

2) 白金キャンパスの所在する東京都港区とは、2019年度に13年目を迎えた「チャレンジコミュニティ大学」や「みなと区民大学」といった生涯学習分野のみならず、学生団体による高輪支所管内施設での発表などの新たな連携事業も展開した。また、島崎藤村ゆかりの長野県小諸市とは、本学社会学部および国際学部ゼミ生による小諸市での研究活動や、自治体推薦入試、クリスマスツリー点灯式への小諸市の小学生参加などの連携事業を進めた。そのほか白金校舎において開講している生涯学習講座「明治学院プラチナカレッジ」も2年目を迎え、港区民に限らず誰もが参加できる生涯学習環境を整えるなど、「社会・地域に開かれた大学」となるべく積極的な活動および情報発信を行った。

3) 2015年度より採択されている、文部科学省「知(地)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」については、本学は共愛学園前橋国際大学の申請に協力する形で参加している。事業最終年度5年目となった2019年度も、群馬県への就職者数を増加させる各種プロジェクトを展開した。

4) 横浜キャンパスにおける連携推進

ア 第22回戸塚まつりを開催(5月25日・26日)、約5,100名(2日間計)の来場者があった。地域との連携として倉田コミュニティハウスとの共催により豊田中学校と本学の吹奏楽部によるコンサートが開催された。

イ 小田急分譲地自治会からの要望に基づき、同町内会の防犯カメラ設置に協力した。本学(明治学院サービス)が取引する自販機メーカーによる地域防犯型自販機の仕組みを用い、本学の負担無く、同地区に防犯カメラ1台の設置を行った。

ウ 地域のイベント(夏祭、秋祭等)に司会進行役あるいは出演者として学生を派遣した。

エ 戸塚区と締結している「災害ボランティア活動拠点協定」に基づき、具体的な運用について行政側と検討を行った。

(m) MGオリンピック・パラリンピック支援プロジェクト

スポーツリテラシーの理念に基づき、2017年度から始まった本プロジェクトは順調に進んでおり、毎年メンバー募集を行い、現在まで延べ250名程の学生が活動している。2019年度は1年生から4年生までのメンバー83名が参加し、イベントを企画した。また、正課授業「オリンピック講座」と「パラリンピック講座」を引き続き開講した。

<オリンピック・パラリンピック講座履修者数推移>

講座名	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	合計(人)
現代世界と人間3 (オリンピックを考える) ※春学期開講	126	325	137	197	175	960

現代世界と人間6 (パラリンピックを考える) ※秋学期開講	—	—	160	179	200	539
-------------------------------------	---	---	-----	-----	-----	-----

#### <活動・イベント>

活動内容の主なものは以下のとおり

- ・おもてなし講座（白金キャンパス）
- ・ゴミ拾いin渋谷区（渋谷区）
- ・ゴールボール体験会（旗の台文化センター）
- ・出張授業ボッチャ体験会（横浜市立品濃小学校）
- ・出張授業ゴールボール体験会（横浜市立港北小学校）
- ・1Day For Others おもてなし講座&観光案内ボランティア（白金キャンパス、品川駅周辺）
- ・講演会「想いをつなぐー東京 2020 大会 そして未来へー」（みなとパーク芝浦）
- ・海岸清掃 in 茅ヶ崎（茅ヶ崎市）
- ・パナソニックセンター見学会（パナソニックセンター）
- ・ブラインドサッカー体験会（横浜市立生麦小学校）

なお、活動については大学ウェブサイトにも専用のページ（「東京オリンピック・パラリンピックに向けて」）を設け、情報発信を行っている。

<https://www.meijigakuin.ac.jp/campuslife/mgolympicparalympic/>

### ③ グローバル教育の充実

新たに策定された「国際化ビジョン」の実現を目指して、以下の取り組みを行った。

#### (a) 留学受入プログラムの質の向上と広報の強化

海外からの留学生を対象とした開講科目を体系化して、複数の分野からまんべんなく科目を選択できるようにした。協定校向けの広報としては、本学への留学の魅力を伝えるパンフレットを作成した。中国や韓国などアジアの国々からの留学生を短期で受け入れるプログラムの開催は、新型コロナウイルスの感染拡大により中止した。

#### (b) 特色ある海外派遣プログラムの提供

国際貢献やグローバルビジネスのインターンシップ留学の全学的な推進を行った。具体的には国連ユースボランティアに加えて、シンガポールやカンボジアへの NPO や NGO へ認定留学制度を利用して留学できる学生を増やし、UNICEF と学生派遣の協定を締結した。

さらに、本学は、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに自発的に取り組む「国連グローバル・コンパクト」に参加しており、国連の提唱する「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」を学生が意識できるスタディ・ツアーを例年のベトナムに加えて、新たにインドにおいても実施した。

#### (c) 派遣学生への支援体制の強化

外国語のコミュニケーション・アカデミック・スキルの習得、海外インターンシップに参加するための準備講座に加えて、ビザの取得等も含めた専門的なアドバイジングを導入し、学生がより高いレベルの留学準備ができるように支援した。

#### (d) UNHCR 難民高等教育プログラムの継続

UNHCR 難民高等教育プログラムに基づき、2018 年 4 月から毎年度各 1 名ずつを受け入れた。

### ④ ボランティア活動の充実

#### (a) 学生ボランティア活動の参加促進

1 日社会貢献プログラム「1 Day for Others」として 82 のプログラムを企画し、622 名が参加した。また、新たな制度として、本学学生自らが感じた社会課題を解決するための活動支援制度として「いつでもボランティアチャレンジ」を立ち上げ、6 企画に対して助成した。

#### (b) 被災地支援活動の継続

東日本大震災復興支援プログラム「Do for Smile@東日本」プロジェクトにおいて、岩手県陸前高田市および連携協定に基づいた活動を行う岩手県大槌町での支援活動に 58 名が参加した。大槌町での活動に関わった学生が地域住民の声を集めた冊子「吉里吉里から」Vol.3 を作成した。

#### (c) 日本赤十字社との共同宣言に基づいて、日本赤十字社本部と連携し、赤十字ボランティア情報誌（RCV）の編集委員の派遣、学内献血時の献血促進呼び掛けなどを行った。

⑤ キャリアサポート体制の充実

(a) 2019年度就職・求人状況

【就職実績上位】（2020年5月1日現在）

	企業名	男	女	合計
1	横浜市教育委員会	3	17	20
2	東京都教育委員会	4	14	18
2	横浜市役所	2	16	18
4	(株) エイチ・アイ・エス	2	15	17
5	あいおいニッセイ同和損害保険 (株)	5	8	13
5	(株) JALスカイ	1	12	13
5	日本航空 (株)	1	12	13
8	第一生命保険 (株)	3	9	12
9	日本郵便 (株)	1	10	11
9	日本生命保険 (相)	2	9	11
11	全日本空輸 (株)	0	10	10
11	(株) 星野リゾート	0	10	10
11	三井不動産リアルティ (株)	5	5	10
14	ANAエアポートサービス (株)	0	9	9
14	千葉県教育委員会	0	9	9
16	JTBグループ	2	6	8
16	住友不動産販売 (株)	2	6	8
16	羽田空港サービス (株)	0	8	8
16	東日本旅客鉄道 (株)	2	6	8
16	明治安田生命保険 (相)	1	7	8
16	りそなグループ	1	7	8
	合計	37	205	242

求人件数	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
	9,609	9,773	12,259	28,562	21,185

※2017年度以降の求人件数の増加について求人紹介システム(キャリアタスUC)の仕様変更に伴い、企業・団体の求人配布が簡素化したことによる。

※2019年度の求人件数については、就職活動の早期化および短期化に伴い、1社あたりの求人件数が減少。

(b) MG DECADE VISION アクションプラン（2019年度）に基づく取り組み

1) 教育・支援プログラムの充実

キャリア教育においては、教養教育センター、キャリアセンター、へボン経済人会 3者の協力による新たな授業科目「キャリアデザイン2」開講の準備が行われた。また、就職支援においては、キャリア支援課が主催して年間800を越える支援プログラムが行われた。(教職センター主催の教員採用試験のための課外講座、公務員セミナー、学部主催の就職支援講座、資格支援講座を含まず)

2) 相談体制の充実

2018年度のキャリアセンター(白金・横浜・教育キャリア支援課)の窓口来訪件数は19,337件であったが、2019年度は19,627件となり、年度末に新型コロナウイルスの影響下にあったにもかかわらず微増した。また、10月31日に、日本キャリア開発協会(JCDA)派遣の講師による職員・相談業務研修を実施し、相談の質的充実を図った。

3) 学外連携

学外団体と以下の連携を行った。また、2019年度は大学として宮城県とU・Iターン就職支援に関する協定を締結した。

団体名	内容
東京新卒応援ハローワーク(厚生労働省)	通年で毎週水曜午後に白金キャンパスに相談員(ジョブサポーター)が派遣され、相談業務およびハローワ

	ークが保有する求人紹介の業務にあたった。
東京外国人雇用サービスセンター(厚生労働省)	年間 11 回にわたり相談員が白金キャンパスに派遣され、全学部・研究科の外国人留学生を対象に就職相談を行った。(利用者のべ 19 名)
ハローワーク戸塚 (厚生労働省)	相談員が横浜キャンパスに派遣され年 2 回の相談会を行った。
新卒応援ハローワーク横浜 (厚生労働省)	職業興味検査と結果解説講座を横浜キャンパスにて年 2 回実施した。
東京しごとセンター (東京都)	2019 年度は 65 名の学生が利用登録を行い、2018 年同時期より 12 名増となった。また、同センターの講師によるグループディスカッション、面接のトレーニングが 14 回行われた。
ホテル白金会	2020 年 1 月 15 日にホテル白金会協力のもと、6 人のホテル業界で働く本学卒業生が白金キャンパスを訪れ、同業界を志望する本学学生 34 名と交流会を行った。
へボン経済人会	2019 年度は、へボン経済人会会員が正課授業の 1 コマで講演を行う「へボン経済人会出張講座」の取組が始まった。法学部と国際学部の教員各 1 名から希望があり、いずれも 3 年次のゼミ生を対象に講演が行われた。
東京経営者協会	10 月 29 日に行われた「採用・就職担当者のための産学交流会」にキャリアセンター職員が出席し、同協会会員企業との関係構築を図った。また、12 月 16 日には「会員大学代表者と同協会役員等による懇談会」が行われ、本学からは副学長が出席した。
東京商工会議所	同会議所が主催する企業体験プログラム「東商リレーションシップ・プログラム」に年間を通じ 21 名の本学学生が参加した。

## ⑥ 広報活動の展開

- (a) 教育理念“Do for Others”の実践など具体的な事例を発信し、明治学院大学の特色・魅力を国内外に伝え、社会的な存在価値（ブランド力）を際立たせるため、シンボルロゴやコーポレートカラーを用いた統一的なイメージのもと広報を展開した。

また、中長期ビジョン「MG DECADE VISION」（2015～2024）の 3 つの重点的取組みにおいて、「グローバルマインド」については、グローバル法学科を紹介する情報発信を多く行い、『内なる国際化』に関する広報活動にも力を入れた。「ボランティアスピリッツ」については白金通信で毎号、活動を紹介し学内周知に努めるとともに、ホームページ改修に取り組むことで発信力の強化を目指した。「キャリアデザイン」については、『へボン・エアラインクラス』や卒業生組織『へボン経済人会』の取組みなどを伝えることで、他大学との差別化を図った。

- (b) ソーシャルメディアについては、在学生、高校低学年層を含めた 10～20 代の若年層をメインターゲットとし、ソーシャルメディア運用支援会社によるサポートを継続して活用した。

年間を通じて安定した投稿を心がけ、フォロワー数は着実に増加した。2020 年 3 月には「卒業式中止のお知らせ」(Twitter)の投稿の閲覧数が卒業生とほぼ同数の約 3,000 となり、在学生向けのメディアとしても一定の効果を果たした。

また、ソーシャルメディア運用支援会社と共に実施する効果測定ミーティング（3 か月毎に実施）に SNS を運用する他部署の担当者を招き、ノウハウの共有を図った。

動画については、Twitter、Instagram、YouTube の広告出稿を活用し、大学オフィシャルムービー「明学の理由。」の再生回数向上に注力した。2019 年度に制作した「学びを究める編。」「世界とつながる編。」「ブランドムービー2019」はいずれも視聴回数 400,000 回を越え、2018 年度に制作した「ブランドムービー2018」の視聴回数 256,082 回を大幅に上回った。

特筆すべきこととして、2019 年 10 月に公開された日経 BP コンサルティングの「全国大学サイト・ユーザビリティ調査」では、スマートフォン評価調査において全国 260 校中、第 4 位（昨年と同順位）となり、モバイルファースト対応では十分な成果を出している。

- (c) 全学的な広報リスクの恐れがある案件についてはサポート業者に都度相談し、ブランドイメージを

低下させないよう努めた。

- (d) 大学のブランディング充実の一環として、本学の特色や教育・研究等の取り組みを学外に発信することに力を入れた。プレスリリース方法を FAX 利用からプレスリリース配信サポート会社のオンラインに軸を移すとともに、SNS 等での情報配信も強化した。

新型コロナウイルス感染防止対策の一環で、年度末に、卒業式と入学式の学長・学院長挨拶や学科ガイダンス等の動画を撮影した。今後、学内でこの動画の周知に努め、インナーコミュニケーションの充実を図っていく。

## ⑦ 防災対策および環境問題への取り組み

### (a) 防災対策

白金、横浜両キャンパスとも、継続して以下の対策を進めた。

- 1) 防災備蓄品の新規購入および更新（特に横浜キャンパスでは備蓄食の補充および災害用トイレ薬剤の更新）。エレベーターが停止した際に歩行困難な人を降ろす階段避難車を両キャンパスに設置。
- 2) AED については大学施設内設置（高輪校舎を含む）と学生課外活動団体貸出用のほか、戸塚グラウンド黎明館、鶴の木グラウンドクラブハウス、MG 奥沢ハウス、国際会館にも設置している。
- 3) キャンパスごとの防災訓練を定期的実施した。白金では高輪消防署の協力による通報・避難誘導・初期消火の訓練、煙の中の避難体験、VR 防災体験車、AED を含む救護訓練等を実施した。横浜では防災の日（9月1日）に『かながわシェイクアウト（いっせい防災行動訓練）』を実施するとともに、上階から歩行困難者を地上階に降ろす訓練も実施した。
- 4) 地域貢献として、白金キャンパスでは災害時の白金高輪駅周辺滞留者対策推進協議会の検討会議や訓練に参加し、帰宅困難者・滞留者等の受入れ施設として機能するよう検討した。

横浜キャンパスでは、行政・近隣自治会と発災時の協力体制等について協議を行った。また近隣自治会の防災訓練に学生を派遣した。

- 5) 非構造部材（天井材等）の落下防止措置を順次着手しており、白金キャンパスでは本館の 2 教室とパレットゾーン白金のダイニングラウンジの工事が完了した。

横浜キャンパスにおいては 3 号館の 1 教室と体育館第 2 アリーナの工事が完了した。なお、施工（工法および工程上）困難エリアについては有効な手段が見出せず継続検討とした。

### (b) 環境問題への取り組み

エネルギーの使用の合理化等に関する法律（省エネ法）および東京都地球温暖化対策計画（CO<sub>2</sub>削減計画）に基づき計画的に CO<sub>2</sub>削減を進めており、2019 年度は LED 照明更新工事を白金キャンパスでは本館の 3 階から 5 階の共用部と 9 階事務室の一部、地下 1 階パソコン教室の一部、および、パレットゾーン白金のダイニングラウンジとその周囲を施工。横浜キャンパスでは 3 号館の 1 教室を施工した。

また、トイレ改修工事では節水型器具を採用して、白金キャンパスでは本館南側中央部の 3 階から 5 階と 10 階を施工した。なお、春工事でパレットゾーン白金の 1 階多機能トイレを施工したが、新型コロナウイルスの関係で衛生陶器の一部が納期未定となり工期を延長して完成させた。横浜キャンパスでは 5 号館南側の 1 階から 4 階とチャペルを施工した。

2015 年度に横浜キャンパスで完成した自律(自立)型エネルギーの設備において設置した太陽光パネルでは 2019 年度の 1 年間で約 113,422kw/年の発電があり、雨水・井水の利用で 477 m<sup>3</sup>/年の節水となり環境負荷の低減と省エネに寄与している。白金キャンパスにおいても雨水の利用で 5,127 m<sup>3</sup>/年の節水となっている。

## ⑧ その他の特記事項

### (a) 横浜キャンパスプロジェクトの推進

MG DECADE VISION アクションプランと連携した「横浜キャンパスプロジェクト」を推進し、学生成長の機会を提供した。それぞれの活動グループによる主たる活動は以下のとおり。

アクションプラン	2019 年度プロジェクト等	2019 年度事業報告
横浜校舎における学生満足度の向上	飲食環境の充実プロジェクト <通称：ごはん部>	ア 学生の飲食環境充実のため、新たにキッチンカー業者 3 社を追加し、全 12 社で運用した。 イ 生協食堂売上は対 2018 年度比 1.05 倍、インターナショナルカフェ売上は対 2018 年度比 1.02 倍といずれも売上増となった。

	学バス運行計画	<p>これまでの継続交渉により、行政（戸塚区役所）から戸塚駅東口に江ノ電バス（路線バス）の本学行急行バスのバス停設置の提案を受けた。</p> <p>現在、行政にて近隣住民からの理解を得るための交渉を開始、その後、行政・江ノ電バス・本学の三者による具体的な協議を行うこととなった。なお急行バスへの特定期券の導入について江ノ電バスと交渉を行っている。</p>
	プレ大学生交流プロジェクト（J.C.バラ・プログラム）	<p>2020年2月25日開催。明治学院高校126名、明治学院東村山高校103名の計229名、学生スタッフは56名参加となった。</p> <p>SDGsを共通テーマに設定し、模擬授業および高校生グループ単位でのディスカッション・プレゼンテーションを行った。約91%の高校生から大学生活への期待が高まったとのアンケート結果を得た（2018年度約88%）。</p>
	ピアサポートプロジェクト（キャンパスコンシェルジュ）	<p>学生による学生のサポート（ピア・サポート）として学生相談を行った（相談件数：3,177件）。それ以外に以下の取組を行った。</p> <p>ア コンシェルジュ独自企画の開催等 「オンデマンドプリント講座」「新入生向茶話会」「学生プレゼンテーション企画」「横浜キャンパス MG グルメコンテスト」等開催。戸塚まつりへの企画参加。</p> <p>イ 教職員連携・他大学との交流 a. 他大学（県立広島大学・城西大学・高崎商科大学・獨協大学）からの依頼を受け、各校教職員・学生とコンシェルジュによる意見交換を実施。成城大学と定期交流も行った。 b. 外部セミナーでの講演：内田洋行・大学・高校実践ソリューションセミナー他</p>
ピアサポートによるキャンパス活性化の推進	ヤギ除草システムプロジェクト<通称：ヤギ部>	春学期2頭、秋学期は3頭のヤギにて除草を実施。除草範囲をA館下築山から緑の丘とした。
	エコキャンパスうちわコンテスト	上位入賞した3作品をうちわとして作成。横浜キャンパス内に8箇所のうちわステーションを設置し、学生がシェア利用できるようにした。
「社会貢献」活動実施とそのイメージ定着	スポーツ GOMI 拾い大会	<p>一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブとの共催による第7回「スポーツ GOMI 拾い大会」を横浜学生課、ボランティアセンターと協力し開催。</p> <p>近隣住民、本学学生そして職員による28チームが参加し、約100kgのゴミを収集した。</p>
	横浜キャンパスチャリティライブ開催	<p>戸塚まつりにおいて、学生団体（ハロプロ研究会）と共催でチャリティライブを開催。また白金祭でのトークイベント、クリスマスチャペルコンサートもチャリティイベントとして開催、募金額は総額304,432円となった。</p> <p>寄付金のうち、267,432円はボランティアセンターの学生の活動資金とし、37,000円は宗教部へのクリスマス献金とした。</p>

## (b) 職員研修制度

スタッフ・ディベロップメント（SD）の実施に関しては、これまで未実施であった教員向けのSDとして、教員役職者を対象とした研修を実施した。

日時：2019年10月23日（水）15：00～16：30

場所：白金キャンパス本館2階1255教室

講師：島田陽一氏（早稲田大学法学学術院教授）

テーマ：教員の働き方改革を通じた大学教育・研究・経営の質向上

- 内容：1. 働き方改革が求められる背景  
2. 働き方改革関連法と大学教員  
3. 大学教員の働き方改革を推進するために

参加者数：63名（教員役職者49名，法人理事・監事5名，職員部次長9名）

また、職員向けの研修は、「各部署の業務課題と解決策の共有」をテーマに職員全体研修を実施したほか、職能資格別研修として主事を対象としたグループワーク研修に7名が参加し、主事補を対象とした自校分析レポート研修に12名が参加した。また、日本私立大学連盟主催のアドミニストレーター研修

に1名、業務創造研修に1名、キャリアディベロップメント研修に2名が参加した。英語研修については、TOEIC 公開テスト受験のサポートを引き続き実施したほか、ホープカレッジ（アメリカの協定校）への海外研修に1名が参加した。

（以下、略）



## 2018年度および2019年度 報告一覧

### 1\_国際学部附属研究所

#### 1-1\_プロジェクト 国際シンポジウム

「ビジネスと人権 社会的課題への対処と持続可能な社会(SDGs)の実現にむけて」

#### 1-2\_2019年度公開セミナー「“国際再考”ーグローバルとローカルのあいだー」

#### 1-3\_しあわせの経済国際フォーラム 2019 特別企画「しあわせ×あいだ×ローカル」

### 2\_しあわせの経済国際フォーラム 2019 in 横浜戸塚

#### 2-1\_「しあわせの経済」国際フォーラム 2019 「Local is Beautiful!」

### 3\_国際平和研究所

#### 3-1\_【PRIME 後援研究会】

「変容するアジアの移民レジームにおける移住労働の課題

ー日本におけるケア労働、移住労働者送り出しの期待と現実のギャップ、  
技能実習生のリプロダクティブ・ヘルス・ライツから」

#### 3-2\_【PRIME 協力公開セミナー】

「人身取引課題の今日的視座と課題ー被害者の変容・国際協力・市民社会」

### 4\_国連 UNHCR

#### 4-1\_国連 UNHCR 難民映画祭 2018 「シリアに生まれて」

#### 4-2\_国連 UNHCR 難民映画祭 2018 「アイ・アム・ロヒンギヤ」

#### 4-3\_カトリック新聞「明治学院大学で UNHCR 難民映画祭」

#### 4-4\_国連 UNHCR WILL2LIVE Cinema 「イージー・レッスン」

### 5\_国際センター

#### 5-1\_2019年春 SDGs フィールドスタディーズ

#### 5-2\_2019年夏 SDGs フィールドスタディーズ

#### 5-3\_「日本の大学として初！明治学院大学が UNICEF(国連児童基金)と インターンシップ協定を締結」

### 6\_内なる国際化プロジェクト

#### 6-1\_「外国につながる人に寄り添う 共生社会の担い手『多文化共生ファシリテーター』 『多文化共生サポーター』が誕生

#### 6-2\_大學新聞「日本の国際化に貢献する 共生社会の担い手を育成」

#### 6-3\_「多文化共生社会で何を指すのか『内なる国際化』を持続可能な社会の観点から 考える」

#### 6-4\_多文化 OPINION EXCHANGE 「日本における多様性」

## 7\_経済学部

7-1\_CSR 講座 2018 「SDGs と企業戦略」

## 8\_法学部

8-1\_「消費者資格取得支援講座」

8-2\_「グローバルな法的課題としての気候変動」

## 9\_心理学部・心理学部附属研究所

9-1\_『やさしい日本語』からはじめる多文化共生

～学校・職場・地域での分かりやすい言葉について考える」

9-2\_「多文化ユースのためのライフキャリアワークショップ」

9-3\_「心理分野から共に考える多様性と多文化」

## 10\_ボランティアセンター

10-1\_「1 Day NEWS (認定 NPO 法人 国連 WFP 協会)」

10-2\_「1 Day プレ NEWS (日本電気株式会社 NEC)」

10-3\_「国連 WFP と共に 世界の子どもたちに食料と希望を！」

明治学院大学ボランティアがタカシマヤオリジナルチャリティーサンタ人形をお渡し」

10-4\_『『書き損じ・未使用はがき』でバングラデシュの少数民族の女の子と女性を支援」

10-5\_「海外プログラム事業部 (国際協力、国際支援)」




10-6\_「MG パール (環境)」

10-7\_「国際機関実務体験プログラム (育成・支援プログラム)」

## 11\_公益通報

## 12\_国際化への取り組み

[Home](#) > [イベント](#) > [その他の一般公開イベント](#) > [共同研究](#)

<a href="#">Home</a>	
<a href="#">研究所について</a>	
<a href="#">所員紹介</a>	
<a href="#">研究活動</a>	
<a href="#">イベント</a>	
<a href="#">出版・刊行物</a>	
<a href="#">明治学院大学</a>	
<a href="#">明治学院大学国際学部</a>	
<a href="#">明治学院大学図書館</a>	

## イベント

### プロジェクト 国際シンポジウム

共同研究「企業の社会的責任と市民の社会的関与の研究」主催

テーマ **ビジネスと人権**

**社会的課題への対処と持続可能な社会（SDGs）の実現に向けて**

“誰一人取り残さない”世界の実現をめざす「持続可能な開発」（SDGs）が世界各国で進められています。“誰一人取り残さない”世界の実現とは？社会的課題にどう向き合うのかを考える国際シンポジウムを開催します。「ビジネスと人権」課題を、マクロ（国際社会・政府）とメソ（市民社会、教育機関）、ミクロ（個人）の側面から、持続可能な社会（SDGs）、よりよい社会づくりを考えることが目的です。本シンポジウムの第1部では、タイのグローバルビジネスのサプライチェーンの末端で働く、移住労働者の人権問題に詳しい専門家から国際社会や各国政府で求められている責任あるビジネスとは何か、について講演いただきます。その後、第2部では日本やヨーロッパなど先進国で人身取引被害に遭ったタイ人女性たちのグループLive Our Lives、社会的困難を抱えた少女たちを支援する一般社団法人Colaboでは、どのように人生を切り開いていくか、実践的な報告をしていただきます。さらに、シェアリングエコノミーなど、起業という新しい働き方の可能性を専門家からご提案いただいた後、パネルディスカッションを行います。

- 開催日時 2018年3月7日（水） 10:00-17:00（受付開始9:30）
- 開催場所 明治学院大学 白金キャンパス 本館2階 1255教室（場所詳細は[コチラ](#)）

10:00-	開会のあいさつ	吉井 淳（明治学院大学）
10:05-10:15	趣旨説明 ビジネス・人権・キャリア教育の連関を考える	齋藤 百合子（明治学院大学）
【第1部】労働搾取から考える人権とビジネス		
10:15-11:10	基調講演1 責任あるサプライチェーンと移民労働者	Andy Hall氏（移民労働問題専門家）
11:10-11:30	コメント	山田 美和氏（アジア経済研究所）
11:30-12:00	質疑応答	
12:00-13:30	昼食	
【第2部】社会的困難からの生活再建—起業を考える		
13:30-13:40	趣旨説明 社会（再）統合と個人ビジネス	齋藤 百合子（明治学院大学）
13:40-14:20	報告 日本（先進国）での人身取引—その後の課題	Weechokchansang Pathapimath氏 Maiman Chanakan氏（Live Our Livesスタッフ）
14:20-15:00	報告 衣食住と関係性をつくる“働きかた”	仁藤 夢乃氏（一般社団法人Colabo代表）
15:00-15:30	報告 起業家という新しい働き方	加藤 遼（内閣官房シェアリングエコノミー 伝道師/釜石市ローカルベンチャー外部メンター）
15:30-15:45	休憩	
15:45-16:45	討論	
16:50-	開会のあいさつ	
17:00	閉会	

- ※ 入場無料、申込不要です。
- ※ 報告は英語・タイ語・日本語で行われます。（逐次通訳あり）
- ※ 公共交通機関をご利用ください。

▪ 問合せ先

国際学部付属研究所 TEL. 045-863-2267（受付時間：平日 10時-17時）

明治学院大学 2019 年度 公開セミナー

# “国際”再考 — グローバルとローカルのあいだ —

◆ 日時：2019年 10月 1・8・15・29日・11月 12・19・26日  
16時45分～18時15分（毎週火曜日 全7回）

◆ 会場：明治学院大学 横浜キャンパス 7号館 720 教室  
JR戸塚駅東口バスターミナル8番乗場江ノ電バス「明治学院大学南門」行乗車約12分、終点下車すぐ

◆ 講演 + ディスカッション

ディスカッションには、辻 信一（本学国際学部教授）、  
高橋 源一郎（本学名誉教授）他が登壇予定

無料

申込  
不要

近隣・構内駐車場  
ありません  
公共交通機関を  
ご利用ください

第1回	10月1日（火）	森 まゆみ	作家・市民運動家
第2回	10月8日（火）	中島 岳志	東京工業大学教授
第3回	10月15日（火）	田中 優子	法政大学総長
第4回	10月29日（火）	國分 功一郎	東京工業大学教授
第5回	11月12日（火）	ヘレナ・ノーバーク＝ホッジ	環境・社会運動家
第6回	11月19日（火）	山崎 亮	コミュニティデザイナー
第7回	11月26日（火）	藤原 辰史	京都大学准教授



危機の淵に立つ世界は、好むと好まざるとに関わらず、グローバル化時代の終焉という大きな曲がり角にさしかかっている。来るべき「脱グローバル化」と「再ローカル化」に向けて、まずは、いつの間にかグローバル化し、均質化し、大地やコミュニティから遊離し、「トポス（場所性）」を見失って、根無し草となっている自分たち自身の頭と心と体を、再び着地させ、根付かせなければなるまい。そのためにも、もう一度、国や社会の「際（きわ）」に注目し、文化と文化、地域と地域との「あいだ」から世界を見つめる態度を取り戻さなければならない。

国際学部付属研究所 所長 辻 信一（大岩 圭之助）

【主催・問合せ先】 明治学院大学 国際学部付属研究所  
TEL. 045-863-2267（平日10時～17時）

<http://www.meijigakuin.ac.jp/~iism/>



## 森 まゆみ もり・まゆみ

作家、エッセイスト、編集者、市民運動家

地域雑誌「谷中・根津・千駄木」(通称「谷根千」)を発行、その編集を続けながら、大都市における草の根コミュニティ運動を推進、地域文化の保全、再生のための市民活動に従事する一方で、数々の著作を発表してきた。著書に、「青鞥」の冒険、「谷根千」の冒険(ちくま文庫)、「お隣のイスラーム—日本に暮らすムスリムに会いにいこう」(紀伊国屋書店)、「子規の音」(新潮社)、「暗い時代の人々」(垂紀書房)、「楽しい縮小社会—「小さな日本」でいいじゃないか」(共著、筑摩選書)など多数。

## 中島 岳志 なかじま・たけし

政治学者、東京工業大学教授

専門は南アジア地域研究、近代日本思想史。著書に、「中村屋のボース—インド独立運動と近代日本のアジア主義」(白水社)、「ナショナリズムと宗教—現代インドのヒンドゥー・ナショナリズム運動」(文春ライブラリー)、「保守と大東亜戦争」(集英社新書)、「保守と立憲—世界によって私が変われないために」(スタンド・ブックス)、「リベラル保守」宣言(新潮文庫)、「超国家主義」(筑摩書房)など多数。

## 田中 優子 たなか・ゆうこ

江戸文化研究者、法政大学総長

専門は江戸時代の文学・生活文化、アジア比較文化。著書に、「江戸の想像力」(ちくま学芸文庫)、「そろそろ「社会運動」の話をしよう」(編集、明石書店)、「日本問答」(共著、岩波新書)、「グローバルゼーションの中の江戸」(岩波ジュニア新書)、「カムイ伝講義」(ちくま文庫)、「江戸はネットワーク」(平凡社ライブラリー)、「未来のための江戸学」など多数。

## 國分 功一郎 こくぶん・こういちろう

哲学者、東京工業大学教授

専門は西洋哲学 / 哲学原論・各論。著書に「暇と退屈の倫理学」(太田出版)、「中動態の世界—意志と責任の考古学」(医学書院)、「僕らの社会主義」(山崎亮との共著、ちくま新書)、「民主主義を直感するために」(晶文社)、「近代政治哲学—自然・主権・行政」(ちくま新書)、「来るべき民主主義—小平市都道 328 号線と近代政治哲学の諸問題」(幻冬舎新書)など多数。

## ヘレナ・ノーバーク=ホッジ

社会運動家、シュマツハーカレッジ講師

「ローカル・フューチャーズ」国際運動の創設者、代表。インドラダック地方での長年の研究を土台に、グローバル経済が引き起こす危機に警鐘を鳴らし、ローカリゼーションへの転換を説く世界的なオピニオンリーダー。1986年、もう一つのノーベル賞と呼ばれるライト・ライブリッド賞を受賞。著書に「懐かしい未来 ラダックから学ぶ」(懐かしい未来の本)、「ローカル・フューチャー」(ゆっくり堂)、「いよいよローカルの時代」(辻信一との共著、大月書店)、DVD「幸せの経済学」(コナйтеッド・ピープル)など。

## 山崎 亮 やまざき・りょう

studio-L代表、コミュニティデザイナー  
社会福祉士

地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティデザインに携わる。著書に「ケアするまちのデザイン—対話で探る超長寿時代のまちづくり」(医学書院)、「地域ごはん日記」(バイインターナショナル)、「僕らの社会主義」(國分功一郎との共著、ちくま新書)、「縮小する日本—「参加」が創り出す人口減少社会の希望」(PHP 新書)、「コミュニティデザインの源流 イギリス篇」(太田出版)など多数。

## 藤原 辰史 ふじはら・たつし

農業史研究者、京都大学准教授

専門は農業史、食と農の思想、ドイツ現代史。著書に「分解の哲学—腐敗と発酵をめぐる思考」(青土社)、「食べるとは—どうということか—世界の見方が変わる三つの質問」(農山漁村文化協会)、「給食の歴史」(岩波新書)、「トラクターの世界史—人類の歴史を変えた「鉄の馬」たち」(中公新書)、「戦争と農業」(集英社インターナショナル新書)、「決定版 ナチスのキッチン—「食べること」の環境史」(共和国)など多数。

## 辻 信一 (大岩圭之助) つじ・しんいち

文化人類学者、環境=文化運動家、本学教授

国際学部付属研究所所長。NGO「ナマケモノ倶楽部」代表。著書に「スロー・イズ・ビューティフル」(平凡社ライブラリー)、「弱さの思想」、「雑」の思想」(共に高橋源一郎との共著、大月書店)、「降りる思想」(田中優子との共著、大月書店)、「よきことはカタツムのよう」(春秋社)など多数。映像作品にDVD ブックシリーズ「アジアの叢書」(現在8巻、SOKEI ハブリッシング)など。

## 高橋 源一郎 たかはし・げんいちろう

作家、評論家、本学名誉教授

著書に「間違いだらけの文章教室」(朝日文庫)、「今夜はひとりぼっちかい? 日本文学盛衰史 戦後文学篇」(講談社)、「憲法が変わるかもしれない社会」(編著、文藝春秋)、「支配の構造 国家とメディア—「世論」はいかに操られるか」(中島岳志他との共著、SB 新書)など多数。月刊「新潮」に小説「ヒロヒト」を連載中。NHKラジオ第1「すっぴん!」金曜パーソナリティを務める。

## 国際学部付属研究所

### 【交通アクセス】

最寄駅 戸塚駅 [JR 東海道線・横須賀線・湘南新宿ライン]  
[横浜市営地下鉄ブルーライン]

戸塚駅東口バスターミナル 8 番乗り場より、  
江ノ電バス「明治学院大学南門」行き乗車、  
「明治学院大学南門」下車すぐ(乗車約 12 分)

公開するシンポジウム・セミナー・公開講座の開催は、  
<当研究所ホームページ>

<http://www.meijigakuin.ac.jp/~iism/>

で、随時お知らせしています。

刊行した『国際学研究』『研究所年報』は、  
<本学図書館機関リポジトリ>

<http://repository.meijigakuin.ac.jp/>

「国際学部」からご覧いただけます。

しあわせの経済  
国際フォーラム  
2019  
特別企画

あいだ

しあわせ

ローカル

11月10日(日曜日)

13時30分～15時00分(開場13時)

明治学院大学 横浜キャンパス  
7号館 2階 720教室 \*定員500名\*

「しあわせの経済」国際フォーラムの中で行われる特別企画。主宰は、「雑の研究」(高橋源一郎+辻信一、2015～2017)の延長上に生まれた「あいだの研究會」。ゲストに、田中優子と山崎亮を迎える。未だ支配的なグローバリズムも、それへの反発としてのナショナリズムも、「あいだ」を消し去る構造的な暴力だという点で共通している。人類の存続そのものを脅かす危機とは、言い換えれば、自然と人間との「あいだ」、人間とコミュニティの「あいだ」、人間同士の「あいだ」、身体と心の「あいだ」、過去と現在と未来の「あいだ」が見失われる危機なのではないか。とすれば、もう一度、つながりとしての「あいだ」をあちこちに見出さなければならない!

パネリスト

TANAKA YUKO



田中 優子

法政大学総長  
江戸研究者

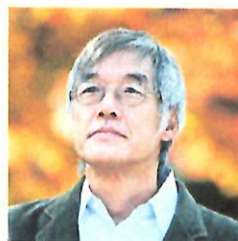
YAMAZAKI RYO



山崎 亮

studio-L代表・社会福祉士  
コミュニティデザイナー

TAKAHASHI GENICHIRO



高橋 源一郎

明治学院大学名誉教授  
作家・評論家

TSUJI SHIN'ICHI



辻 信一

明治学院大学国際学部教授  
環境=文化活動家

\*無料・申し込み不要

お気軽にご参加ください!!

主催：明治学院大学国際学部付属研究所  
(問合わせ先) Tel.045-863-2267 Fax.045-863-2272 URL: <http://www.meijigakuin.ac.jp/~iism>



## プロフィール

### 田中 優子 (Tanaka Yuko)

法政大学総長・江戸研究者

近世文学（江戸時代の文学）を専攻するが、その後、研究範囲は江戸時代の美術、生活文化、海外貿易、経済、音曲、「連」の働きなどに広がってゆく。さらに、中国文学を中心に東アジアと江戸の交流・比較研究、布や生活文化を中心にインド・東南アジアと江戸の交流・比較研究などにおよんでいる。江戸時代の価値観から見た現代社会の問題に言及することも多い。2005年度紫綬褒章受章。『江戸の想像力』（筑摩書房）、『グローバリゼーションの中の江戸』（岩波ジュニア新書）、辻信一との共著『降りる思想—江戸・ブータンに学ぶ』、松岡正剛との対談『日本問答』（岩波新書）など著書多数。

### 山崎 亮 (Yamazaki Ryo)

studio-L 代表 コミュニティデザイナー 社会福祉士

1973年愛知県生まれ。大阪府立大学大学院および東京大学大学院修了。博士（工学）。建築・ランドスケープ設計事務所を経て、2005年にstudio-Lを設立。地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティデザインに携わる。まちづくりのワークショップ、住民参加型の総合計画づくり、市民参加型のパークマネジメントなどに関するプロジェクトが多い。著書に『コミュニティデザインの源流（太田出版）』、『縮充する日本（PHP新書）』、『地域ごはん日記（パインインターナショナル）』、『ケアするまちをデザインする（医学書院）』などがある。

### 高橋 源一郎 (Takahashi Genichiro)

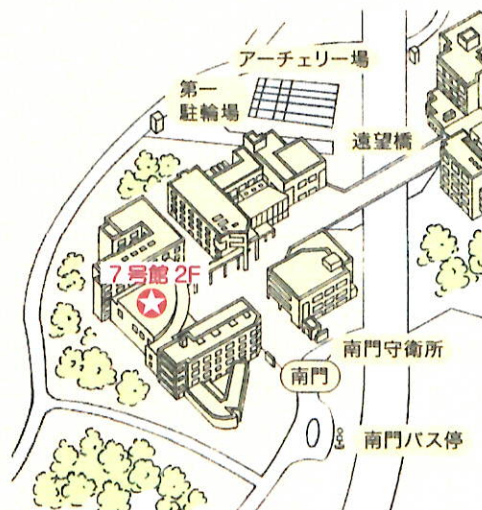
明治学院大学名誉教授 作家・評論家

小説『さようなら、ギャングたち』でデビュー。作家、評論家として活躍する傍ら、2005年4月より明治学院大学教授として、そして2019年3月定年退職後は私塾「飛ぶ教室」を開き、若者の育成にも尽力。近著に『間違いだらけの文章教室』（朝日文庫）、『今夜はひとりぼっちかい？ 日本文学盛衰史 戦後文学篇』（講談社）、『支配の構造 国家とメディア—「世論」はいかに操られるか』（中島岳志他との共著、SB新書）、『答えより問いを探して17歳の特別教室』（講談社）など多数。月刊『新潮』に小説「ヒロヒト」を連載中。NHKラジオ第1「すっぴん！」金曜パーソナリティを務める。

### 辻 信一 (Tsuji Shin'ichi) (大岩 圭之助)

明治学院大学国際学部教授・国際学部附属研究所所長 環境=文化活動家

1999年にNGO「ナマケモノ倶楽部」を設立、以来その代表を務める。「スローライフ」、「100万人のキャンドルナイト」、「GNH(国民総幸福)」などの環境=文化運動を提唱、2014年、「ゆっくり小学校」を開校。著書に『スロー・イズ・ビューティフル』（平凡社ライブラリー）、『弱さの思想』、『「雑」の思想』（共に高橋源一郎との共著、大月書店）、『降りる思想』（田中優子との共著、大月書店）、『よきことはカタツムリのように』（春秋社）など多数。映像作品にDVDブックシリーズ「アジアの叡智」（現在8巻、SOKEIパブリッシング）など。



## 会場のご案内

明治学院大学横浜キャンパス

7号館 2F 720 教室

〒244-8539 横浜市戸塚区上倉田町1518

### 【交通アクセス】

最寄り駅：戸塚駅

(JR 東海道線・横須賀線・湘南新宿ライン)  
(横浜市営地下鉄ブルーライン)

戸塚駅東口バスターミナル 8 番乗り場より  
江ノ電バス「明治学院大学南門」行きに乗り  
終点「明治学院大学南門」下車

※乗車約 12 分

<https://www.meijigakuin.ac.jp/access/>



# しあわせの経済

## 国際フォーラム 2019 in 横浜戸塚

11月9日(土) 10:30~18:00

11月10日(日) 10:00~17:30

両日とも開場は開演30分前

明治学院大学 横浜キャンパス

720教室ほか

アクセス

JR、市営地下鉄ブルーライン戸塚駅東口より  
バス10分「明治学院大学南門」下車

2日間通し券 2,000円、学生1,000円

前売券

Motion Galleryからお申込みいただけます。  
<https://motion-gallery.net/projects/EoH2019>

【協賛】「しあわせの経済」国際フォーラム2019 in 横浜戸塚 実行委員会(日本) / Local Futures(イギリス) 【協賛】明治学院大学国際学部付属研究所 【協賛】戸塚区 【協賛】株式会社ウインドファーム、城南信用金庫、一般社団法人日本社会連帯機構、日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会センター事業団、ハルシステム生活協同組合連合会、パタゴニアプロビジョンズ、学校法人自由学園、株式会社キシマ 【協賛】「しあわせの経済」国際フォーラム2019 in 横浜戸塚 実行委員会事務局(ナカキ/伊東) 〒244-0002 神奈川県横浜市戸塚区矢部町125番丁寺気付 Tel/Fax:045-443-5954 Eメール:info@ioth.gr.jp

「しあわせの経済」  
マルシェ同時開催!





ホーム > イベント 【PRIME後援研究会】 変容するアジアの移民レジームにおける移住労働の課題—日本におけるケア労働、移住労働者送り出しの期待と現実のギャップ、技能実習生のリプロダクティブ・ヘルス/ライツから >



全てのイベント  
2020年度 2019年度 2018年度 2017年度 2016年度  
2015年度 2014年度 2013年度 2012年度

#### 後援研究会

【PRIME後援研究会】 変容するアジアの移民レジームにおける移住労働の課題—日本におけるケア労働、移住労働者送り出しの期待と現実のギャップ、技能実習生のリプロダクティブ・ヘルス/ライツから

#### 開催概要

講師：小川玲子氏、針間礼子氏、安藤真紀子氏 言語：日本語 参加申込：参加費無料、定員：50名（専用フォームよりお申込み）、12:30開場

日時：2019.09.21[土] 13:00～16:00 場所：明治学院大学 白金校舎 地図 本館4階1455教室

アジアにおける人の移動は、東南アジア・南アジアから日本を含む東アジアの流れとアジア域内の流れがあります。今回は、とくに東南アジアから、2019年4月より新たな在留資格創設という移民レジームの規制緩和をした日本への人の移動・移住労働についての課題をとりあげ、公正な社会のための開発課題を考えます。

#### 【プログラム概要】

##### ●問題提起

「人の移動に関する開発課題—SDGsと移民のグローバル・コンパクト」  
／青藤百合子氏（明治学院大学国際平和研究所 研究員）

##### ●報告1

「移民レジームの規制緩和とケアのグローバル化」  
／小川玲子氏（千葉大学 社会科学研究院 准教授）

##### ●報告2

「メコン地域からの日本への移住労働の期待と現実」  
／針間礼子氏（Mekong Migration Network コーディネーター、Asian Migrant Centre 事務局長）

##### ●報告3

「技能実習生のリプロダクティブ・ヘルス/ライツから見える課題」  
／安藤真起子氏（NPO法人移住者と連帯する全国ネットワーク（移住連）事務局次長）

- 対象：研究者、NGO関係者、一般、学生。
- 参加費：無料
- 定員：50名。下記フォームよりお申込みください。

## ■申し込みフォーム

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfSBSz6uIyjPcV54zMB7f71bVpzaWmi0IT4mSEzwLcQcEsUmg/viewform>

### 【報告者紹介】

#### ●小川玲子氏：

国際交流基金アジアセンターや九州大学比較社会文化研究院准教授を経て現職。専門は社会学、移民研究。移民政策学会理事、千葉市男女共同参画審議会委員、国際子ども権利センター理事、早稲田大学アジア太平洋研究科客員センター員、JICAジェンダー主流化研修講師など。近刊にGender, Care and Migration in East Asia (Palgrave Macmillan, 2018,共編著)、Women, Work and Care in Asia-Pacific (Routledge, 2017, 共著)、Guest Editor, Special Issue: Migration and Care, Asia Pacific Journal of Social Work and Development, Vol. 27:3-4、『小さな民のグローバル学 共生の思想と実践を求めて』（上智大学出版、2016、共著）等。

#### ●針間礼子氏：

Mekong Migration Network コーディネーター、Asian Migrant Centre 事務局長。1999年より香港にあるAsian Migrant Centre (AMC) にてリサーチコーディネーターとして勤務、2010年に事務局長に任命される。一方、2003年、AMCが立ち上げたプロジェクトがきっかけでMekong Migration Network (MMN)が創設された当初から今日までコーディネーターとしてネットワークの強化に努める。MMNは大メコン圏の移住労働者及びその家族の権利向上を目的に、共同研究・啓蒙・ネットワーキング等の活動をするNGO及び研究機関の地域ネットワーク。

#### ●安藤真起子氏：

2004年より横浜の寄場・寿町を拠点とするNGO（カラバオの会）を通して外国人労働者支援の運動に参加。非正規滞在者の支援に多くたずさわる。2017年4月より移住連勤務、事務局長次長。

【主催】国際開発学会「人の移動と開発」研究部会

【共催】科研費研究「人身取引防止に関する社会開発論的研究」（代表者：齋藤百合子）

科研費研究「移住女性とSDGs：セクシュアル／リプロダクティブ・ヘルスへのアクセス」（代表者：田中雅子）

【後援】明治学院大学国際平和研究所

お問い合わせ先

明治学院大学国際平和研究所 齋藤百合子 [yurikos@k.meijigakuin.ac.jp](mailto:yurikos@k.meijigakuin.ac.jp)

ABOUT US | PRIMEについて

序文からのメッセージ

PRIMEの活動とは

沿革

歴代所長

役員・スタッフ

声明文

PRIME on Campus | 学生との共同企画

Café du PRIME

PEACE EDUCATION | 平和教育

PRIMEの一般公開科目

ACTIVITIES | 研究活動とその記録

プロジェクト紹介

Contact Us | お問い合わせ

PUBLICATIONS | 出版物

『PRIME』（紀要）

『南を考える』

『PRIME Occasional Papers』

『平和研双書・Occasional Paper Series』

LIBRARY | ライブラリー

ハウウォッシュ・ライブラリー

平和・共同ジャーナリスト基金（PCJF）ライブラリー

白金キャンパス

〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37

本館 9階

TEL: 03-5421-5652 FAX: 03-5421-5653

開室時間: 平日10:00~18:00

横浜キャンパス

〒244-8539 神奈川県横浜市戸塚区上倉田町1518

8号館 3階

TEL: 045-863-2203 FAX: 045-863-2205

開室時間: 平日10:00~18:00

[Access](#)

[Campus Map](#)

[Access](#)

[Campus Map](#)

E-MAIL: [prime\[at\]prime.meijigakuin.ac.jp](mailto:prime[at]prime.meijigakuin.ac.jp)  
“[at]”部分を半角の“@”に変更してメールをお送りください。

[大学TOP](#)   [所員専用](#)

Copyright© PRIME All Rights Reserved.



ホーム > イベント 【PRIME協力公開セミナー】人身取引課題の今日的視座と課題 – 被害者の変容・国際協力・市民社会 >



[全てのイベント](#)
[2020年度](#)
[2019年度](#)
[2018年度](#)
[2017年度](#)
[2016年度](#)  
[2015年度](#)
[2014年度](#)
[2013年度](#)
[2012年度](#)

#### 公開セミナー

## 【PRIME協力公開セミナー】人身取引課題の今日的視座と課題 – 被害者の変容・国際協力・市民社会

### 開催概要

**講師**：齋藤百合子氏、須藤詠子氏、百生詩緒子氏、池内千草氏    **言語**：日本語    **参加申込**：参加無料、事前申込要（詳細は記事確認ください）

**日時**：2019.12.07[土] 13:30～16:30    **場所**：明治学院大学 白金校舎 地回 本館8階81会議室

#### 【人身取引を考えるセミナー】

2000年に人身取引議定書が採択され、人身取引の定義が明確になってからもうすぐ20年を迎えようとしています。日本政府は2004年12月に「人身取引対策行動計画」を発表しました。その後、5年毎に改正し、今年12月に3回目の改正が予定されています。

国際的に、そして日本国内での人身取引対策は功を奏しているのでしょうか。性的搾取、労働搾取など多様化する人身取引の形態やその実態がときどきマスコミなどで報じられますが、人身取引問題は一向に解決されていません。

今回のセミナーは、人身取引課題の変容など今日的視座と課題を考える目的で開催します。具体的には、まず主催者（齋藤）より、導入として、被害者の変容（被害者の国籍や当事者運動）など今日的視座に立った人身取引課題を概観する。そのうえで、人身取引対策の国際協力において、国際機関および政府、そして国際NGO、市民社会など、それぞれのアクターによる被害者支援や防止を含む人身取引対策を伺います。

**日時**：2019年12月7日（土）13：30～16：30  
**場所**：明治学院大学白金キャンパス 本館8階81会議室  
**定員**：30名

#### <プログラム>

はじめに

「人身取引課題の今日的視座と課題 – 被害者の変容・国際協力・市民社会」

齋藤百合子（明治学院大学国際平和研究所）

報告1

「国連機関：国際移住機関の人身取引被害者支援」

須藤詠子（国際移住機関）

報告2

「日本政府のタイにおける人身取引対策事業からみたタイの人身取引対策」

百生詩緒子（元JICA人身取引対策プロジェクト・チーフアドバイザー）

報告 3

「ワールドビジョンによるメコン地域人身取引対策事業」

池内千草（ワールドビジョン 支援事業部開発事業第1課 プログラム・コーディネーター）

議論

■事前申し込み：要

資料準備の関係がありますので、希望者は、「人身取引セミナー参加希望」とし、①お名前（ふりがな） ②ご所属 ③メールアドレスを記して、12月3日までに齋藤百合子（[yurikos@k.meijigakuin.ac.jp](mailto:yurikos@k.meijigakuin.ac.jp)）にメールでお申し込みください。

■参加無料

■主催： 科研費研究「人身取引防止に関する社会開発論的研究」

■協力： 明治学院大学国際平和研究所（PRIME）

お問い合わせ先

明治学院大学国際平和研究所（PRIME） ■TEL：03-5421-5652 ■FAX：03-5421-5653

■URL：<http://www.meijigakuin.ac.jp/~prime/> ■E-MAIL：[prime@prime.meijigakuin.ac.jp](mailto:prime@prime.meijigakuin.ac.jp)

または、日本バグウォッシュ会議 [pugwash-japan-office@googlegroups.com](mailto:pugwash-japan-office@googlegroups.com)

ABOUT US | PRIMEについて

所長からのメッセージ

PRIMEの活動とは

沿革

歴代所長

役員・スタッフ

声明文

PRIME on Campus | 学生との共同企画

Café du PRIME

PEACE EDUCATION | 平和教育

PRIMEの一般公開科目

ACTIVITIES | 研究活動とその記録

プロジェクト紹介

Contact Us | お問い合わせ

PUBLICATIONS | 出版物

『PRIME』（紀要）

『南を考える』

『PRIME Occasional Papers』

『平和研双書・Occasional Paper Series』

LIBRARY | ライブラリー

バグウォッシュ・ライブラリー

平和・共同ジャーナリスト基金（PCJF）ライブラリー

白金キャンパス

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

本館 9階

TEL: 03-5421-5652 FAX: 03-5421-5653

開室時間: 平日10:00~18:00

Access

Campus Map

横浜キャンパス

〒244-8539 神奈川県横浜市戸塚区上倉田町1518

8号館 3階

TEL: 045-863-2203 FAX: 045-863-2205

開室時間: 平日10:00~18:00

Access

Campus Map

E-MAIL: [prime\[at\]prime.meijigakuin.ac.jp](mailto:prime[at]prime.meijigakuin.ac.jp)

“[at]”部分を半角の“@”に変更してメールをお送りください。

国連 UNHCR 難民映画祭 - 学校パートナーズ 明治学院大学難民映画祭



# シリアに生まれて

## 上映会&トークセッション



監督：エルナン・ジン / 製作国：デンマーク、スペイン / 2016年 / 84分

<あらすじ>2011年以來、シリア危機によって故郷を後にした数百万人もの人々、その多くは子どもである。ヨーロッパへと向かう長く苛酷な道のりや周辺国の難民キャンプ、あるいはようやくたどり着いた見知らぬ土地で子どもたちは何を想うのか。爆撃により負傷し、家族と生き別れ、子どもとしての時間を奪われ、それでも新たな希望を胸に逞しく生きる7つの小さな命にカメラが丁寧に寄り添う。

一般公開  
入場無料  
予約不要

日時

5月16日(木) 15:05~18:15

上映終了後、本学国際学部 阿部浩己教授のトークセッションがあります。

場所

横浜キャンパス 712 教室

問合せ：国際平和研究所 [prime@prime.meijigakuin.ac.jp](mailto:prime@prime.meijigakuin.ac.jp) 後援：UNHCR 駐日事務所・国連 UNHCR 協会

# 明治学院大学

横浜キャンパス (712 教室)：神奈川県横浜市戸塚区上倉田町 1518

- JR 東海道線・横須賀線 / 横浜市営地下鉄 (ブルーライン)：戸塚駅  
東口ターミナルから江ノ電バス「明治学院大学南門」行 (乗車約 12 分)
- JR 根岸線：本郷台駅 地球市民プラザ停留所より江ノ電バス「戸塚駅」行  
「明治学院大学南門」下車 (乗車約 7 分) [www.meijigakuin.ac.jp](http://www.meijigakuin.ac.jp)



「観る、という支援。」

UNHCR 難民映画祭 2018- 学校パートナーズ 明治学院大学



## 映画上映会&トークセッション

# アイ・アム・ロヒンギヤ

©Innerspeak Media

監督：ユスフ・ズィーネ / 製作国：カナダ / 2018年 / 90分

くあらずじ>ミャンマーから命がけてバングラデシュに避難した14人の若きロヒンギヤ難民。その後カナダのオンタリオ州へ定住し、拷問、殺人、レイプ、焼き討ちといった壮絶な経験に苦しみながらも、自身の生活を立て直そうと奮闘する。彼らを突き動かすのは、「忘れてはならない悲劇」を伝えていかなければならないという使命感。演劇を通じてロヒンギヤの人々が受けてきた迫害、いま直面する現実を世界の人々に伝えようと、トラウマ、自らのアイデンティティに向き合いながら成長していく姿を描く。

一般公開  
入場無料  
予約不要

日時

6月13日(木) 15:05~18:15

上映後、日本で暮らすロヒンギヤ難民のカディザ・ベコムさんによるトークセッションを予定しています。

場所

白金キャンパス 本館 1301 教室

問合せ先：明治学院大学国際平和研究所 prime@prime.meijigakuin.ac.jp 後援：UNHCR 駐日事務所・国連 UNHCR 協会

# 明治学院大学

白金キャンパス (1301 教室)：東京都港区白金台 1-2-37

●東京メトロ南北線・都営三田線：白金高輪駅・白金台駅

都営浅草線：高輪台駅よりそれぞれ徒歩7分

●都営バス：JR品川駅より「目黒駅」行

JR目黒駅より「大井競馬場前」行 それぞれ「明治学院前」下車(乗車約6分)

[www.meijigakuin.ac.jp](http://www.meijigakuin.ac.jp)



### 明治学院大学でUNHCR難民映画祭

## 在日ロヒンギャ難民

# カディザさん 惨状語る

日本でも度々報道されている少数民族ロヒンギャへの迫害は深刻化し、過去2年間で74万人以上がミャンマー(旧ビルマ)からバングラデシュに流入している。明治学院大学では、「難民の状況を一人でも多くの人に伝えたい」という学生たちの思いを受けて、6月13日、「UNHCR難民映画祭―学校パートナーズ」の一環としてイベントを開催。東京・白金キャンパスを会場に、映画『アイ・アム・ロヒンギャ』の上映会と、在日ロヒンギャ難民によるトークセッションで理解と支援を呼び掛けた。

ロヒンギャは、ミャンマー西部ラカイン州(旧アラカン州)に暮らす100万人余りのイスラム系少数民族。9世紀ごろ多宗教が共存していたこの地域で暮らし始め、1948年にビルマ(当時)国籍を獲得。しかし、軍事政権の台頭で、70年代から仏教徒による迫害を受け、さらに82年には国籍を剥奪され、無国籍となった。迫害の背景にあるのは、政府

がロヒンギャの居住地に眠る天然資源をねらって、宗教を悪用したことでともいわれている。ミャンマーで、ロヒンギャは全てを剥奪され、「存在しない者」とされているのだ。

映画『アイ・アム・ロヒンギャ』は、ミャンマーで家族や友人らを殺され、カナダに逃れた青少年たちが、自身の体験を演劇で表現する過程を描いたドキュメンタリー。

カナダに逃れた青少年たちは、そうした惨状を「見てみぬふりはできない」と、仲間たちの「声なき声」を代弁するために舞台上に立つのだった。

#### 夢を諦める人々

この映画を泣きながら見ていたのは、在日ロヒンギャ難民のカディザ・ベゴムさん。「映画は私の歴史と同じ」と話すカディザさんは、日本に暮らしていた同じロヒンギャ難民の夫と結婚し、2006年に来日した。

カディザさんの父親は、ミャンマーで医師として活躍していたが、反政府デモを行ったことが理由で身の危険を感じ、妻子と共にバングラデシュに避難。そこでカディザさんが生まれた。「バングラデシュは貧しい国なので、大勢



ロヒンギャ難民の今語るカディザさん

のロヒンギャ難民が来ると国民の生活が苦しくなるため、人々はロヒンギャが大嫌いです。私たちも小さい時から『早く帰れ』と嫌がらせを受け、あちこち転々とし、殺される恐怖を感じながら生活していました。父はバングラデシュ人になりすまして、医師として働き、子どもたちに教育を受けさせようとしてきました」

父親の願いは、子どもたちが「ちゃんと教育を受けること」。カディザさんは来日後、支援組織につながり、奨学金を得ながら日本語を猛勉強して、UNHCR難民高等教育プ

に不自由し、子育ての悩みや苦勞を抱えつつ、夢を諦めて、「食べる」ために肉体労働をするしかない。

現在、2人の子どもの母親でもあるカディザさんは、仲間たちを支えながらも、「世界の難民を支える」という大きな夢に向かって、今、動き出している。「難民も移住者も、みんなと同じように、夢を抱いている人間です。難民や移住者たちの能力は、支援さえ受けられれば(開花し)、日本社会の発展に役立つはず。たとえ一人の力は小さくても、皆で力を合わせれば、何か大きなことができます。一人一人の子どもにも教育を受ける機会を与えてほしい。そして難民の夢がかなう社会になってほしい」とカディザさんは訴えていた。

現在、日本には200人以上のロヒンギャ難民が暮らしているが、その大半は群馬・館林でコミュニティーをつくっているという。親たちは、日本語



UNHCR WILL2LIVE Cinema

- 学校パートナーズ 明治学院大学



# 映画上映&講演会

## イージー・レックスン — 児童婚を逃れて

監督：ドロッチャ・ズルポー／製作国：ハンガリー／2018年／78分

(C)Eclipse Film

<あらすじ>「娘だけは自由に生きてほしい」。そんな母親の想いを胸に、ソマリアで育った17歳のカフィアは児童婚から逃れるため、15歳のときに単身ハンガリーにたどり着いた。ハンガリー語を学びながら、高校の卒業資格をとるために日夜勉強に励むカフィア。その美貌を生かしてモデル業も始め、順調な毎日過ごしているかのように見えたが、生まれ育った祖国で培われた宗教や文化に対する価値観とのジレンマに苦悩する。ソマリアにいる最愛の母親になんと伝えたらよいのだろうか…。ヨーロッパで自分らしい生き方を模索しながらも、自問自答する日々が続いていた。

一般公開  
入場無料  
予約不要

日時

12月3日(火) 15:05~18:15

上映終了後、遠藤貢氏(東京大学大学院総合文化研究科教授)をお迎えし、ご講演いただきます。

場所

横浜キャンパス 720 教室

問合せ先：明治学院大学国際平和研究所 [prime@prime.meijigakuin.ac.jp](mailto:prime@prime.meijigakuin.ac.jp)

後援：国連 UNHCR 協会

# 明治学院大学

横浜キャンパス(720 教室)：神奈川県横浜市戸塚区上倉田町 1518

●JR 東海道線・横須賀線 / 横浜市営地下鉄(ブルーライン)：戸塚駅

東口ターミナルから江ノ電バス「明治学院大学南門」行(乗車約12分)

●JR 根岸線：本郷台駅 地球市民プラザ停留所より江ノ電バス「戸塚駅」行

「明治学院大学南門」下車(乗車約7分) [www.meijigakuin.ac.jp](http://www.meijigakuin.ac.jp)



国際センター  
主催  
2019 春季休暇

# SDGs フィールドスタディーズ

## ポイント1:行き先はインド!

デリーとアグラの2都市を回り、小学校や孤児院、福祉施設の訪問など充実した一週間! マザーテレサが設立したマザーハウスでのボランティアを通してかけがえのない体験もできます。



## ポイント2:子供や様々な境遇の人との交流

子供たちや様々な境遇の人との交流を通して、貧困や格差について考えてみましょう!



## ポイント3:観光も!

インドが誇る世界遺産タージマハルはもちろん、インド最大のモスクなど市内観光も充実。魅力に満ちたインドの文化や歴史を肌で感じよう!



## ポイント4:参加者間の交流と補助

秋学期中のグループ学習で参加者同士で交流しながら学びを深めます。さらに、参加費用の補助で参加者をサポートします!

## 気になる方はぜひ説明会に!

10月10日(木) 横浜 10号館  
国際センターコモンズ

10月15日(火) 白金 ○号館  
○○教室

いずれも 12:30-13:20

(飲食可・予約不要)

お問い合わせ 国際センター

国際センター  
主催  
2019年夏

# SDGs フィールドスタディーズ

## ポイント 1: 行き先はベトナム!

中部の発展著しい観光都市**ダナン**を拠点とし、**ダナン大学**(本学協定校)での授業と、多彩な**フィールドトリップ**を体感する**一週間**



## ポイント 2: 子どもとの触れあい!

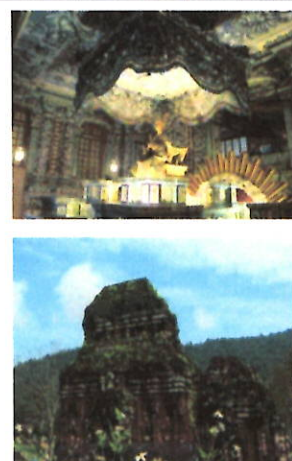
本学と非常に縁の深い現地の小学校、**Junko School** を訪問します。  
日本の文化や遊びを伝えよう!



## ポイント 3: 世界遺産 3つ!

ベトナムが誇る中部の三大**世界遺産**、  
旧都**フエ**・古都**ホイアン**・**ミーソン**聖域  
をじっくりと巡ります。

歴史のうねりを直接体感しよう!



## ポイント 4: 海外初心者大歓迎!

春学期中の**グループ学習**で参加者同士の親交と学びを深めます。

さらに、**参加費用の補助**+国際センタースタッフの引率で**1年生を中心**とする参加者をサポートします!

## 気になる方はぜひ説明会に!

4月23日(火)・5月17日(金)  
12:30-13:20 10号館1階  
国際センターコモンズ  
(飲食可・予約不要)



お問い合わせ 国際センター

マスコミ関係各位

2020年2月18日

## 日本の大学として初！ 明治学院大学が UNICEF(国連児童基金)とインターンシップ協定を締結

2019年12月18日、明治学院大学は日本の大学として初めて、UNICEF(国連児童基金)とのグローバルインターンシップ協定を締結しました。本学の「国際貢献インターンシップ」の研修を、UNICEFのOGの方をお願いしたことがきっかけとなり、実現に至りました。

UNICEFは現在、世界の33大学・機関とインターンシップ協定を締結しています。本学が協定に加わることで、本学学生が世界130カ国以上にあるUNICEF事務所からの業務依頼のオファーに対し、選考に臨むこととなります。協定上、派遣人数とスケジュールの制限はありませんが、本学の長期派遣留学プログラム「国際貢献インターンシップ」として、2名の学生を2～6カ月間、2020年9月より派遣する予定です。活動に伴う渡航費や生活費等の一部は本学が支援します。

本学の「国際貢献インターンシップ」として、すでに行っている「国連ユースボランティア」やカンボジア・シンガポールのNPO・NGOなどへの派遣に加え、学生たちがさらに世界へと羽ばたく大きなチャンスとなります。

### ■明治学院大学「国際貢献インターンシップ」

明治学院大学では、国際センターが中心となり、本学が加盟している国連グローバル・コンパクトの理念を理解し、持続可能な成長の実現に貢献できる学生を育成するために、「国際貢献インターンシップ」を強化しています。学生たちが、幅広い教養、優れた語学力とコミュニケーション能力、そして、SDGsに示されている世界の諸問題についての知識と問題解決のために必要な思考力を向上させる機会となっています。

また、ボランティアや「仕事」の体験をする機会を提供することにより、グローバルマインドに加えて、ボランティアスピリットおよびキャリアデザインをする力の育成にもつながっています。本学には、社会福祉分野での就業や、教員として社会に貢献したい学生、国際機関や国内外のNGOで活動を望む学生が多く在学しており、「国際貢献インターンシップ」は、これらの学生のニーズをサポートして将来の目標達成に寄与しています。

### ■UNICEF(国連児童基金)

ニューヨークに本部を持つ児童福祉を推進する国連機関のひとつで、開発途上国や戦乱地域での子どもの支援や、児童の権利に関する条約の普及、親に対する啓発活動などの活動を行っています。1965年にノーベル平和賞を受賞しました。

ぜひ、この取り組みにつきまして、取材いただけますようよろしくお願い申し上げます。



明治学院大学 白金キャンパス

掲載のお問合せは…明治学院大学 総合企画室広報課 担当: 園道・小川

〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37

Tel: 03-5421-5165(直通) Fax: 03-5421-5185

koho@mguad.meijigakuin.ac.jp <https://www.meijigakuin.ac.jp>

MEIJI  
GAKUIN  
UNIVERSITY



明治学院大学

マスコミ関係各位

2018年5月23日

## 外国につながる人に寄り添う 共生社会の担い手 「多文化共生ファシリテーター」「多文化共生サポーター」が誕生

外国にルーツを持つ人が国内に増える中、明治学院大学では、文化や宗教、民族といった従来の枠組みを超えた、多様な価値観を理解できる学生の育成を目指し、2015年度から「内なる国際化」プロジェクトを開始しました。

社会学部と教養教育センターが連携して行う「内なる国際化」プロジェクトでは、日本の国内における国際化、移民・難民問題、やさしい日本語、ボランティア、共生社会等について理解を深められる授業や実習を提供。授業を履修し所定の単位を修得した学生を、「多文化共生ファシリテーター」もしくは「多文化共生サポーター」として認証します。

2017年度の履修者から、この度、本学初の「多文化共生ファシリテーター」4名、「多文化共生サポーター」1名が誕生しました。所定の科目群から一定以上の単位を修得した「多文化共生サポーター」は、移民問題やこれに付随する人権問題に対して鋭い洞察力を得る学びを修めたことを認証するものです。同様の授業単位修得に加えて、支援実践の活動参加を必須とする「ボランティア実践指導」(通年/4単位)を修めた「多文化共生ファシリテーター」は、外国につながる人々を包摂した共生社会を担う準備ができたことを認証するものです。とりわけ難民など外国にルーツがある子どもたちの学習支援を経験した「多文化共生ファシリテーター」には、行政・教育・福祉・医療・ビジネスなど幅広い現場で、職業人あるいはボランティアとして活躍することが期待されています。

2018年4月10日、認定者のうち3名の「多文化共生ファシリテーター」が出席して、白金キャンパスで認定証授与式を行いました。松原康雄学長は「この学びが社会の課題に還元できるものと期待します」と述べました。認定を受けた4年生のうち1人は、すでに就職活動においてこの認定を活用しています。本学は今年度以降も、多くの在学生在がこの認証を目指して学びと実践を積み上げてほしいと願っています。

なお、この認証に必要な科目のうち、「内なる国際化論」(春学期2科目、秋学期2科目)と「ボランティア実践指導」(通年1科目/2クラス)につきましては、今年度から「一般財団法人柳井正財団」による寄付講座として開講されています。柳井財団による、大学への寄付講座提供は初めてです。

ぜひ、この「多文化共生ファシリテーター」「多文化共生サポーター」誕生、また本学の「内なる国際化」プロジェクトにつきまして取材いただきたくお願い申し上げます。

【ご参考】「内なる国際化」プロジェクト Web サイト

<http://internal-i18n-meijigakuin.org/>



2018年4月10日に認定証を授与

取材のお問合せは…明治学院大学 総合企画室広報課 担当: 園道・濱口

〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37

Tel: 03-5421-5165(直通) Fax: 03-5421-5185

koho@mguad.meijigakuin.ac.jp <https://www.meijigakuin.ac.jp>

# 日本の国際化に貢献する 共生社会の担い手を育成

## 明治学院大学

明治学院大学（東京都港区）は、2017年度の多文化共生フューチャータラとして、社会学部社会学科・入谷萌さん、中桐葉奈さん、社会学部社会福祉学科・本間優子さん、田中恭来さんの4人を認証。また、多文化共生フューチャータラとして、社会福祉学科・皿谷和佳さんを認証した。

同大では15年度より、社会学部と教養教育センターが共同でグローバル化を促進する「内なる国際化プロジェクト」を発足。多文化共生フューチャータラおよびサポートは、そのプロジェクトの一環として、文化や宗教、民族といった従来の枠組みを超え



認定証を授与された学生たちと祝福するプロジェクトに関わる教員たち

た多様な価値観の理解と共に、外国につながる人達を包摂した共生社会の担い手を目標とする。

今回の認証が初めてということもあり、同大では4月10日、認証を受けた学生に対して認定証授与式を開催した。授与式には、認証者のうち3人が出席。授与式では、前・北川清一社会学部長と黒川貞生教養教育センター長より認定証が手渡され、柘植あつみ社会学部長やプロジェクトに関わる教員たちから祝福の拍手が送られた。松原康雄学長は「この学びを社会に還元して欲しい」と、激励の言葉を伝えた。また、認定証を受け取ったある学生は、「就職活動において活用している」と語った。

多文化共生フューチャータラの認証を受けるには、あらかじめ定められた科目群から12単位以上の修得、さらに「ボランティア実践指導」の単位を修得する必要がある。

移民問題や人権問題などに対して、鋭い洞察力を持った共生社会を生み出す担い手を育てる明治学院大。今後も、学生が多文化共生フューチャータラとして活躍できるようサポートをしていくという。

第5回シンポジウム

# 多文化共生社会で 何を指すのか



「内なる国際化」を持続可能な社会の観点から考える



【第1部】映画上映会・トークイベント

日時：6月22日(土)10時~12時30分

場所：明治学院大学 白金校舎 2101教室

♡ 映画上映 『女を修理する男』

♡ トークイベント

ゲスト 華井和代氏(東京大学 未来ビジョン研究センター講師)

※ 入場無料、事前申し込み不要 ※ 第1部のみ参加も可能です

※ 13時30分より、第2部「多文化共生社会で何を指すのか — 「内なる国際化」を持続可能な社会の観点から考える」開催(入場無料、事前申し込み不要)

明治学院大学 学長プロジェクト「『内なる国際化』に対応した人材の育成」および教養教育センター「LLTS(Learning to live together sustainably)プロジェクト」共催

# 多文化共生社会で

## 何を目指すのか

「内なる国際化」を持続可能な社会の観点から考える

【第2部】シンポジウム

日時：6月22日(土) 13時30分～17時30分

場所：明治学院大学 白金校舎 2101教室

基調講演 池上重弘氏 (静岡文化芸術大学 文化政策学部教授・副学長)

トークセッション 矢崎理恵氏 (社会福祉法人さほうと21)

野沢慎司氏 (明治学院大学 社会学部教授・副学長)

第一報告 本学学生

第二報告 高桑光徳氏 (明治学院大学 教養教育センター教授)

※入場無料、事前申し込み不要

※第2部のみの参加も可能です

※10時00分より、第一部「女を修理する男」上映会・トークイベントを開催します(入場無料、事前申し込み不要)

※シンポジウム終了後、懇親会の開催を予定しております  
会場：明治学院大学 白金校舎 本館10階大会議場

明治学院大学 学長プロジェクト「内なる国際化」に対応した人材の育成主催





一般財団法人自治体国際化協会  
明治学院大学「内なる国際化プロジェクト」  
PRESENTS

# 多文化 OPINION EXCHANGE

## 「日本における多様性」

「Journey to be Continued- 続きゆく旅」の上映、  
岩井監督と外国にルーツを持つ大学生のトーク  
セッションを行います。日本における多様性  
について考えます。

2019年12月7日（土）  
13時30分～16時30分  
明治学院大学 白金キャンパス  
本館1101号室  
入場無料（要申込）

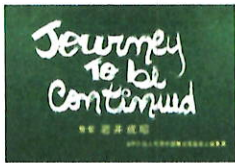
※写真は「Journey to be Continued」からの画像です。

# 多文化 OPINION EXCHANGE とは？

日本国内にある外国人コミュニティの情報発信の場として開催しています。  
今年、日本在住の外国にルーツを持つ方が年々に増加している中、「日本における多様性」をテーマに、イミグレーション・ミュージアム・東京主宰の岩井成昭氏の講演、「Journey to be Continued—続きゆく旅—」の上映、岩井監督と外国にルーツを持つ大学生のトークセッションを通じて、日本の多文化共生、日本における多様性の現状や将来について考えます。

## スケジュール

- 13:00～ 開場・受付  
13:30～13:35 開会挨拶 (一財)自治体国際化協会  
13:35～13:45 講演 明治学院大学 教養教育センター 准教授 長谷部 美佳 氏  
13:45～14:05 講演 岩井 成昭 氏  
14:05～15:15 「Journey to be Continued—続きゆく旅—」上映



岐阜県可児市には外国人労働者とその家族が大勢住んでいる。NPO 法人可児市国際交流協会の「さつき教室」に通う青少年たちは、「日本文化」を持たないことで地域社会に居場所を見出せず、アイデンティティの形成に支障を来すこともある。本作品は、岩井成昭監督が可児市に滞在し、美術表現を用いた独自のアプローチで外国につながる青少年との対話を試みた記録である。青少年の抱える問題のほかに、彼らをサポートする教育者や支援者たちの葛藤、そしてこれから日本が向き合うべき多様な人々との共生について、様々な問いかけが生まれていった。

- 15:15～15:30 休憩  
15:30～16:30 トークセッション ファシリテーター：長谷部 美佳 氏  
スピーカー：岩井 成昭 氏・外国にルーツを持つ大学生 2名  
16:30～ 閉会



### ファシリテーター：長谷部 美佳 氏

明治学院大学 教養教育センター 准教授。移民の移動と定住の双方に対するジェンダーの影響を研究。そこから派生する形で、移民がホスト社会に適應するうえで、ホスト社会ができること、多文化共生社会の在り方やそれに向けての市民の活動の仕方—多文化社会論やボランティア学—なども研究している。

### 講師：岩井 成昭 氏

1990年より国内外の特定地域の環境やコミュニティの調査をもとに、映像、音響、テキストなど、メディアにとらわれない表現で作品を発表。近年は多分化環境におけるアートの役割について、市民ワークショップを通して考察している。「イミグレーション・ミュージアム・東京」主宰。秋田公立美術大学学部長。



## 申込方法



Googleフォームより：<https://forms.gle/ubNeR2JzEmSrXBdq9>

メールより：[tabunka@clair.or.jp](mailto:tabunka@clair.or.jp)

件名を「多文化Opinion Exchange申込」とし、①～④をご記入の上お申し込みください。  
①お名前（ふりがな）②所属 ③連絡先（TEL・メール）④意見交換の際に質問したいことがあれば合わせてご記入ください。

申込締切：12月5日(木)

## 場所 問い合わせ先

明治学院大学 白金キャンパス  
本館1101号室  
東京都港区白金台1-2-37

一般財団法人自治体国際化協会(クレア)  
多文化共生課 担当：ローラ  
TEL: 03-5213-1725

MEIJI  
GAKUIN  
UNIVERSITY



明治学院大学

マスコミ関係各位

2018年4月3日

## 明治学院大学経済学部が社会人向け「CSR講座」を開講 基本テーマ「SDGsと企業戦略」

健全な経済社会を持続的に構築・発展させるために、企業は社会的な存在として自らの責任を理解し、企業活動に配慮すること、また生活者・消費者もそうした企業活動に強い関心を持つことの必要性が高まっております。

明治学院大学経済学部では、「CSR=Corporate Social Responsibility」の重要性を鑑み、また、大学としての社会的使命を果たし、経済学・経営学という学問的蓄積を社会に還元することを目的として、2007年から経済学部国際経営学科の学生と社会人を対象に、リスクマネジメント協会からの寄付により「明治学院大学CSR講座」を開講してまいりました。

2018年度のテーマは「SDGsと企業戦略」です。社会的な責任を果たすためには、企業が主体的に数値目標を定め、その達成を客観的に示していくべきであるとして、国連がSDGs(Sustainable Development Goals)を提唱しました。持続的な経済発展を着実に実現しようとの意図です。これを受けて、SDGs対応はグローバルな動きになっています。今年度はこうした動きに対応した先進的な企業の実践事例を通して企業戦略としてのCSRを考えます。

学生を含め、企業・法人・学校・NPO等にお勤めの方を対象に、定員は80名程度を予定しております。10回以上出席の方には、修了証書を発行いたします。

ぜひ、本講座の告知と取材をご検討いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

### 明治学院大学経済学部 CSR講座 2018 「SDGsと企業戦略」

※講座の詳細は2ページ目をご参照ください。

- 日 程： 2018年4月20日～7月20日までの毎週金曜日 計13回(興味のある講義だけを聴講することも可能)
- 場 所： 明治学院大学 白金キャンパス 本館1101教室 (東京都港区白金台1-2-37)
- 時 間： 18:25～19:55 (90分) ※出席の受付時間は18:10～18:45です。
- 定 員： 社会人80名 ※先着順
- 費 用： 10,000円 ※申込書または返信メールに記載の口座にお振込み頂きます。
- 申込方法： 大学Webサイトもしくは下記、経済学部Webサイトから、参加申込みフォームに入力いただくか、申込書をダウンロードし、必要事項をご記入の上、FAXまたはご郵送ください。  
<http://econ.meijigakuin.ac.jp/> (リスクマネジメント協会会員の方は協会を通してお申し込みいただきます)
- 申込締切： 2018年4月18日(水) 必着 ■主 催： 明治学院大学 経済学部
- お問合せ： 明治学院大学 産業経済研究所  
TEL: 03-5421-5206 FAX: 03-5421-5207  
(郵送先)〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37 明治学院大学産業経済研究所

掲載のお問合せは…明治学院大学 総合企画室広報課 担当:濱口・圓道

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

Tel:03-5421-5165(直通) Fax:03-5421-5185

koho@mguad.meijigakuin.ac.jp <http://www.meijigakuin.ac.jp>

## ■ 明治学院大学経済学部 CSR 講座 2018

	日程		テーマ	講演者
第1回	4月20日(金)	CSRの基本	CSRの基本とリスクマネジメント	濱地 良行 (一般財団法人リスクマネジメント協会 理事兼事務局長)
第2回	4月27日(金)	CSRの基本	CSRの経緯と発展	藤井 敏彦 (独立行政法人経済産業研究所 コンサルティングフェロー)
第3回	5月11日(金)	CSRの基本	企業のグローバル化戦略とCSR	藤井 敏彦 (独立行政法人経済産業研究所 コンサルティングフェロー)
第4回	5月18日(金)	企業戦略としての CSR(企業統治)	組織統治と公正な事業慣行	笹本 雄司郎 (株式会社マコル 取締役 代表コンサルタント)
第5回	5月25日(金)	企業戦略としての CSR(人権)	人権と労働慣行(仮)	石田 寛 (コー円卓会議日本委員会 専務理事兼事務局長)
第6回	6月1日(金)	企業戦略としての CSR(環境)	生物多様性が なぜ経営課題なのか	宮崎 正浩 (跡見学園女子大学マネジメント学部 生活環境マネジメント学科教授)
第7回	6月8日(金)	企業戦略としての CSR(社会)	消費者課題とコミュニティー(仮)	石田 寛 (コー円卓会議日本委員会 専務理事兼事務局長)
第8回	6月15日(金)	企業の対応	ESG時代の企業のSDGs活用による 価値創造 —伊藤園SDGs モデルも事例として—	笹谷 秀光 (株式会社伊藤園 常務執行役員CSR推進部長)
第9回	6月22日(金)	企業の対応	サラヤ株式会社のCSR(SDGs)への 取組み(仮)	代島 裕世(サラヤ株式会社取締役 コンシューマー事業本部 副本部長兼 コミュニケーション本部 本部長)
第10回	6月29日(金)	企業の対応	イオンのCSR(SDGs)への取組み (仮)	金丸 治子 (イオン株式会社 グループ環境・社会貢献部 部長)
第11回	7月6日(金)	企業の対応	第一生命グループのSDGsへの 取組み	佐賀 奈穂 (第一生命ホールディングス株式会社 経営企画ユニット次長)
第12回	7月13日(金)	企業の対応	住友化学のCSR(SDGs)への 取組み(仮)	萩原 まり (住友化学株式会社 CSR推進部)
第13回	7月20日(金)	企業戦略としてのCSR	企業戦略としてのSDGs	河口 真理子 (株式会社大和総研 調査本部 主席研究員)

※講座の内容および講師は変更される場合があります。

掲載のお問合せは…明治学院大学 総合企画室広報課 担当:濱口・圓道

〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37

Tel:03-5421-5165(直通) Fax:03-5421-5185

koho@mguad.meijigakuin.ac.jp <http://www.meijigakuin.ac.jp>

MEIJI  
GAKUIN  
UNIVERSITY



明治学院大学

マスコミ関係各位

2018年2月9日

## 「消費生活アドバイザー」「消費生活相談員」をめざす 社会人・学生のための資格取得支援講座を開講

明治学院大学法学部では、消費生活に関する資格取得をめざす社会人・学生のための「消費者資格取得支援講座」(全8講座)を4月12日(木)から本学白金キャンパスで開講します。本学法学部の教員による消費者行政法等の講義のほか、外部の専門家を講師に招き、講座を提供しているのが特徴です。

昨今、産業界の消費者志向体制の進展や消費者問題に対する関心の高まりなどが注目されており、専門知識を要する人材の需要も非常に高まっています。「消費生活アドバイザー」は内閣総理大臣及び経済産業大臣の事業認定資格、また「消費生活相談員」は消費者安全法で定める消費生活相談員資格試験に合格したものであることを証明する資格です。これらの有資格者の多くが企業、行政、団体等の幅広い分野で活躍、高い評価を得ています。

毎年10月に実施される両資格試験に向けて、より専門的に学ぶことのできる貴重な機会となっています。ぜひ、本講座の告知をご検討いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

### 明治学院大学法学部

#### 「消費者資格取得支援講座」(一般向け)のご案内

※講座の詳細は2ページ目をご参照ください。

- 開講期間: 2018年4月12日(木)～ 2018年9月
- 場 所: 明治学院大学 白金キャンパス (東京都港区白金台1-2-37)
- 開講科目: 消費者行政法、消費者法、商品知識、消費経済、時事問題・小論文など全8講座
- 受講料: 40,000円 (8講座をすべて受講しても、一部の講座のみ受講しても一律40,000円)  
 ※受講者にはレジュメ等を配布します。また、教材を貸与することがあります。  
 ※講座全体の70%以上の出席をした受講者に、講座受講修了証を交付します。
- 募集人数: 資格取得をめざしている社会人・学生 約20名程度
- 申込方法: 受講申込書と志望理由書を送付。書類選考、教員による面接あり。
- 申込締切: 2018年3月5日(月) 必着 ■主催: 明治学院大学 法学部
- お問合せ: 明治学院大学 法律科学研究所  
 〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37  
 (TEL) 03-5421-5209 (FAX) 03-5421-5692 (Email) law@law.meijigakuin.ac.jp  
 (開室時間) 平日 10:00～18:00

掲載のお問合せは…明治学院大学 総合企画室広報課 担当:濱口・圓道

〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37

Tel:03-5421-5165(直通) Fax:03-5421-5185

koho@mguad.meijigakuin.ac.jp http://www.meijigakuin.ac.jp

## ■ 明治学院大学法学部「消費者資格取得支援講座」

講座名	開講日	内容	講師
消費者行政法 (全14回)	4月12日～7月12日 木曜日の16:45～18:15(90分)	安全分野、表示分野の法律(製品や食品の安全を守る法律、製品や食品の表示に関する法律など)	圓山茂夫(明治学院大学准教授)
消費者法 (全13回)	4月19日～7月13日 木曜日の18:25～19:55(90分)	法律分野の出題に即した解説(民法、特定商取引法、割賦販売法など)	弁護士
法律学特講 (全14回)	4月14日～7月14日 土曜日の9:15～10:45(90分)	取引分野の著名事件を題材に、消費者契約法、特定商取引法などを解説	圓山茂夫(明治学院大学准教授)
消費者法の実務 (全14回)	4月14日～7月14日 土曜日の10:55～12:25(90分)	消費者法の立法過程、消費者庁所管の法律(消費者基本法、消費者安全法、消費者契約法、製造物責任法、景品表示法など)、電気通信事業法	川口康裕 (消費者庁次長・ 明治学院大学非常勤講師)
消費者法応用 (全14回)	4月14日～7月14日 隔週土曜13:25～16:35(90分×2)	相談統計の見方、宅地建物取引、旅行、金融商品、電力自由化など	圓山茂夫(明治学院大学准教授)、 角田真理子(明治学院大学教授)
商品知識 (全14回)	4月14日～7月14日 隔週土曜13:25～16:35(90分×2)	衣生活、食生活、住生活、医療健康、環境、品質と安全性など	家政学の大学講師
消費経済 (全14回)	8月～9月 土曜日を中心に1日に2～3コマを昼間に実施	マクロ経済、ミクロ経済、企業経営	経済学の大学講師
時事問題・小論文 (全9回)	8月～9月 土曜日を中心に1日に2～3コマを昼間に実施	時事的な消費者問題の解説、小論文の書き方	新聞記者

### ■ お申込方法 …次の書類を郵送にてお送りください。

【締切】2018年3月5日(月) 必着

【送付先】〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37 明治学院大学 法律科学研究所 宛

#### ① 受講申込書

法学部 WEB サイト(<http://mgulaw.jp/20180105/post-284>)にある受講申込書をダウンロードしていただくか、明治学院大学法律科学研究所へ電話、FAX、Eメールのいずれかの方法でご連絡の上、取り寄せてください。

#### ② 志望理由書(A4判1枚以内・書式自由)

#### ■ 選考等について

書類選考後、3月10日(土)に教員による面接を実施した上で、受講の可否を決定します。

受講者の方向けに、4月14日(土)16:40～本講座全体のガイダンス(1時間程度)を実施します。

#### ■ お問い合わせ

明治学院大学 法律科学研究所 (TEL) 03-5421-5209 (FAX) 03-5421-5692

(Email) [law@law.meijigakuin.ac.jp](mailto:law@law.meijigakuin.ac.jp) (開室時間) 平日 10:00～18:00

掲載のお問合せは…明治学院大学 総合企画室広報課 担当:濱口・園道

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

Tel:03-5421-5165(直通) Fax:03-5421-5185

koho@mguad.meijigakuin.ac.jp <http://www.meijigakuin.ac.jp>

MEIJI  
GAKUIN  
UNIVERSITY



明治学院大学

マスコミ関係各位

2018年11月26日

## 明治学院大学がグローバル法学科開設記念講演会を開催 12/8に環境法学の権威・ファーバー教授が来学

明治学院大学(所在地:東京都港区、学長:松原 康雄)は、2018年4月に法学部4番目の学科としてグローバル法学科を開設したことを記念して、2018年12月8日(土)に、カリフォルニア大学バークレー校ロースクールのダニエル・ファーバー(Daniel Farber)教授をお招きし、講演会を開催いたします。

グローバル法学科では、国内外のグローバル化に伴う摩擦や、異なる文化を持つ人々の間で起こる問題を、「法」という客観的なルールに基づき解決できる人材を育成することを教育目標とし、2年次には全員留学を行います。

### ■講演内容について

産業活動により排出される温室効果ガスにより、地球上のさまざまな場所で異常気象現象が発生し、人々の生命や生活および生態系にこれまでにない被害をおよぼしています。講演では、ますます深刻化する気候変動に対するアメリカおよびグローバル社会の取り組み、また、法という社会のルールを通じて、共通の課題である気候変動に、人々が今後どのように取り組むべきかについて、わかりやすい英語でお話しいたします。

ファーバー教授は、世界的に著名なアメリカの環境法学者で、気候変動について積極的に論稿を発表され、気候変動対策について主導的な役割を果たすカリフォルニア州を代表するカリフォルニア大学バークレー校、カリフォルニア大学ロサンゼルス校など、主な大学の環境法学者、実務家によるフォーラムも主催されています。

本講演会の告知および取材につきまして、ご検討いただきたくお願い申し上げます。



### 明治学院大学法学部グローバル法学科開設記念講演会

#### 「グローバルな法的課題としての気候変動」

日程: 2018年12月8日(土) 15時00分~16時30分(予定) 開場: 14時30分

会場: 明治学院大学 白金キャンパス 2号館 2301教室 (港区白金台 1-2-37)

申込み: 事前予約不要・入場無料

定員: 約200名

言語: 英語 ※通訳はありません。

主催: 明治学院大学法学部グローバル法学科

お問合せ: 法学部グローバル法学科 留学オフィス Tel 045-863-2290

URL: <http://mgulaw.jp/20181113/post-343-2>

■講演者プロフィール **ダニエル・ファーバー(Daniel Farber)教授 (カリフォルニア大学バークレー校ロースクール)**  
イリノイ大学ロースクール卒業、ミネソタ大学ロースクール教授を経て現職。環境法・憲法学を中心に数多くの著作があり、ロースクールにおける環境法の代表的な教科書の著者でもある。気候変動、災害と法政策の論稿を精力的に発表している。

取材のお問合せは…**明治学院大学 総合企画室広報課** 担当: 圓道・濱口

〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37

Tel: 03-5421-5165(直通) Fax: 03-5421-5185

koho@mgquad.meijigakuin.ac.jp <https://www.meijigakuin.ac.jp>



明治学院大学心理学部教育発達学科 第4回 国際教育フォーラム

# 「やさしい日本語」から はじめる多文化共生

～学校・職場・地域で分かりやすい言葉について考える～

講師：聖心女子大学准教授 岩田一成先生

日 時 2018年 12月9日(日) 13:30～15:30  
(開場13:00)  
場 所 明治学院大学白金キャンパス本館2階 1255教室  
定 員 120名(事前申込なし、当日直接会場にて受付)  
参加費 無料

- 主 催：明治学院大学心理学部教育発達学科
- 後 援：港区教育委員会
- 協 力：明治学院大学心理学部附属研究所 特別研究プロジェクト  
「心理臨床センターにおけるグローバル化および内なる国際化に関する探索的研究」

【お問い合わせ先】

明治学院大学心理学部教育発達学科 国際教育フォーラム担当 mguedu15@ed.meijigakuin.ac.jp

明治学院大学心理学部共同研究室 電話：03-5421-5522

詳しい情報は下記の心理学部HP<NEWS&EVENT>でも確認できます。

<http://psy.meijigakuin.ac.jp/news/>





# 「やさしい日本語」から はじめる多文化共生

～学校・職場・地域で分かりやすい言葉について考える～

第4回目の開催となる今年度の国際教育フォーラムは、『「やさしい日本語」からはじめる多文化共生 ー学校・職場・地域で分かりやすい言葉について考えるー』をテーマとしました。近年、外国人観光客や外国人住民は増加傾向にあります。さらに2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを控え、日本に在住・訪問される多くの外国人にとってより住みやすい、訪問しやすい国としての対応策が求められています。「やさしい日本語」とは、簡単な言葉を使うなど、母語が日本語でない人をはじめ、誰にとっても分かりやすいように表現を工夫した日本語です。1995年(平成7年)の阪神・淡路大震災で多くの在日外国人も被災されたという背景から災害発生時に適切な行動をとれるように考えだされたのが「やさしい日本語」の始まりです。災害などの緊急事態はもちろん

のこと、平時における外国人への情報提供手段としても研究されています。そして、より分かりやすい言葉を用いることは、外国人への配慮に限らず、さまざまな方とコミュニケーションをとるうえで重要なことです。

「やさしい日本語」とはどのようなものなのか。本フォーラムでは「やさしい日本語」を活用することでどのような効果を得ることができるのか、さらに日常の中でどのように「やさしい日本語」を用いることが可能であるかについて講演とワークショップを通じて考えていきます。日常において用いる言語についてさまざまな示唆を得る機会になればと考えています。現代を生きる我々にとって必要な多文化共生社会の実現を見据えて、本フォーラムの中でも多くの学びが生まれることを期待しています。

## 講師プロフィール

### 聖心女子大学准教授 岩田一成先生

大学卒業後、日本語教師として青年海外協力隊に参加(中国内蒙古自治区派遣)。大阪大学大学院言語文化研究科修了(言語文化博士)。国際交流基金日本語国際センター、広島市立大学を経て現職。

主な著書:『日本語教育学の歩き方-初学者のための研究ガイド』『読み手に伝わる公用文:やさしい日本語>の視点から』、『日本語これだけ!』、『日本で生活する外国人のためのいろんな書類の書き方』など

## 講師メッセージ

「大学院生のときからボランティア日本語教室に通っています。関西人です。てっかい抽象論よりも、細かくても具体的な話が好きです。」

次に書かれている言葉を分かりやすい表現(やさしい日本語)に言い換えてみましょう。

「やさしい日本語」  
ミニクイズ

「授業参観」「登校」「保護者」「学級閉鎖」「避難訓練」「予防接種」

もっと知りたい方は、フォーラム会場にて。ご参加お待ちしております。

## 明治学院大学白金キャンパスへのアクセス

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

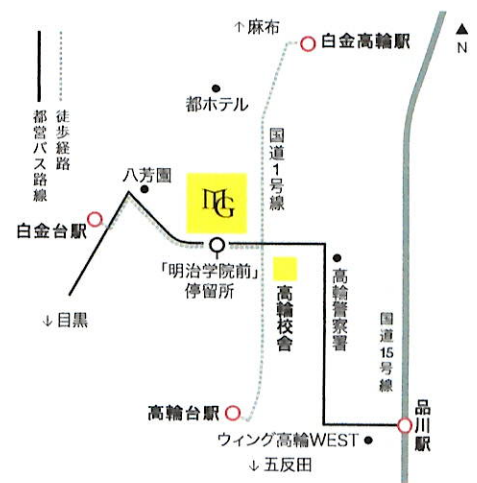
- ①地下鉄南北線・都営三田線「白金台」駅下車、2番出口より徒歩7分。
- ②地下鉄南北線・都営三田線「白金高輪」駅下車、1番出口より徒歩7分。
- ③都営浅草線「高輪台」駅下車、A2出口より徒歩7分。
- ④JR「目黒」駅下車。東口より「大井競馬場」

または「品川車庫前」行きバスにて「明治学院前」下車。約10分。

- ⑤JR「品川」駅下車。高輪口より「目黒駅前」行きバスにて「明治学院前」下車。約10分。
- ⑥徒歩の場合は、JR「目黒」駅東口より15分、JR「品川」駅高輪口より徒歩20分。

キャンパス案内は次のURL をご参照下さい。

〈<http://www.meijigakuin.ac.jp/campus/shirokane/>〉



# 多文化ユースとともに学ぼう！

## 法×ジェンダー×心理

第二回多文化ユースのためのライフキャリアワークショップ



2019年2月23日  
(土)11:00～  
17:00  
(受付10:30～)

明治学院大学  
白金キャンパス  
3号館3203

参加費： ¥500 (軽食あり)

事前申込不要

定員： 70名

参加対象者: 多文化ユース、または  
ネットワークに興味関心のある人

お問い合わせ：

[ipr@psy.meijigakuin.ac.jp](mailto:ipr@psy.meijigakuin.ac.jp)

明治学院大学心理学部附属研究

プログラム内容 (逐次通訳あり)：

■ 「多文化ユースのためのやさしい  
家族と法」

立命館大学法学部 二宮周平

■ "Gender Issues are OUR  
Issues"

Kobe College  
Department of  
Literature  
Yolanda Tsuda  
Alfaro

など・・・



MEIJI  
GAKUIN  
UNIVERSITY



明治学院大学

マスコミ関係各位

2018年7月6日

## 明治学院大学心理学部付属研究所 特別研究プロジェクト 主催 心理分野から共に考える多様性と多文化 公開セミナー・ワークショップ等開催（7月～9月）※無料

明治学院大学心理学部付属研究所では、毎年、地域貢献の一環として、日頃の学術的研究の成果をもとに、地域に向けて最先端の心理学のテーマを扱った公開セミナーを実施しております。

今年度は、心理分野から多様性・多文化について考える公開セミナーと合わせて、同研究所特別研究プロジェクト「心理臨床センターにおけるグローバル化および内なる国際化に関する探索的研究」主催による映画上映会、多文化環境で育つ若者のためのワークショップ等を連続して開催いたします。このイベントを通じて、地域の方々と共に、心理・教育の視点から「多様な人々の共生」のための課題と可能性を検討していきたいと考えております。

ぜひ、公開セミナー、映画上映会、ワークショップの告知および当日の取材をいただきたくお願い申し上げます。

### イベント① 公開セミナー

#### 「多様性に関かれた心理臨床・教育実践のために～多様な関係のなかの「私」を考える」

国籍や文化、性別や性的指向、身体的能力など、多様な背景を持つ人々と関わる心理臨床・教育実践の場で留意すべき課題を、講演とワークを通して考えます。臨床心理士、カウンセラーなどの心理職、教育関係者、社会教育施設、多文化環境で活動するNPOや財団職員、地域づくりに携わるの方々のご参加をお待ちしています。

日時：2018年8月4日(土)13時～16時30分(受付 12時30分)

場所：明治学院大学白金キャンパス2号館 2202教室（東京都港区白金台1-2-37）

参加費：無料 定員：60名 要事前申込み：<https://ssl.form-mailer.jp/fms/7e798eff576051>

#### 第一部 講演（13時～14時30分）

タイトル：多様性に関わる心理臨床・教育実践の課題—立場と特権の心理学の観点から—

講師：出口 真紀子氏（上智大学外国語学部 准教授）

内容：「立場の心理学」「白人性の特権」などに関する研究の知見、社会的公正教育の実践などに学びながら、マジョリティが自らの特権に気づく意義と重要性について考えます。

#### 第二部 講演とワーク（14時45分～16時30分）

タイトル：多様な関係のなかの「私」を考える

講師：水木 理恵氏（福島県立医科大学 助手）

内容：自分とは“異なる”人々と接する時、社会の影響と援助における関係性を考慮した、適切な配慮が重要となります。自分の立場や経験がなぜ援助場面に影響するのか共に考えます。

司会・進行：渋谷 恵（明治学院大学心理学部 教授）

後援：港区教育委員会

→ 2枚目に続きます。

取材のお問合せは…明治学院大学 総合企画室広報課 担当：園道・濱口

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

Tel:03-5421-5165(直通) Fax:03-5421-5185

koho@mguad.meijigakuin.ac.jp <https://www.meijigakuin.ac.jp>

**イベント② 「映画上映会 & 座談会 移動する「家族」(“Families” on the move)」**

多文化の若者へのサポートネットワークに関心を持つ皆様に向けて、映画「移動する『家族』」の上映会、そして大橋香奈監督、多文化や国際移住についての専門家を迎えて座談会を開催します。(終了後、交流会の予定もあります。)



日時：2018年7月21日(土)13時30分～16時30分

場所：明治学院大学 白金キャンパス 2号館 2201教室

参加費：無料 (16時30分から交流会開催 この参加費のみ¥500) 定員：70名 事前申込み:不要

ゲストスピーカー：撮影・監督 大橋 香奈氏 (慶應義塾大学 大学院政策・メディア研究科 博士後期課程)

コメンテーター：嘉本 伊都子氏 (京都女子大学現代社会学部 教授)、

津田 守氏 (大阪大学・名古屋外国語大学 名誉教授)

司会・進行：渋谷 恵 (明治学院大学心理学部 教授)

協力：一般社団法人 kuriya、一般社団法人 育ちネット多文化 CROSS、Japanese Filipino Youth (JFY) Educational Program 賛同：移住者の権利キャンペーン 2020 「ここにいる koko ni iru.」

**イベント③ 「多文化ユースのためのライフキャリアワークショップ(第1回)」**

多文化に関わりのある若者のためのワークショップを行います。社会人としてのキャリアを形成するにあたり、グループワークを通して自己理解や他者理解を深め、若者が自身のライフやキャリアについて語り合います。

※「多文化ユース」とは留学経験者、帰国者、複数の文化背景で育った若者のことで、学生や社会人、職業の有無は問いません。年齢は15～30歳くらいの方をイメージしています。

日時：2018年9月23日(日・祝) 10時～16時 (9時30分開場)

場所：明治学院大学 白金キャンパス 本館 1253教室

参加費：無料(軽食あり) 定員：40名 要事前申込み(先着順で9月9日締切)：<https://bit.ly/2H6MqEA>

テーマ①：「多文化を生きること」

ファシリテーター：初田 美紀子氏 (一般社団法人 育ちネット多文化 CROSS 代表 臨床心理士)

テーマ②：「『私』はどう生きるか？ これからの10年をイメージしてみよう！」

ファシリテーター：嘉本 伊都子氏 (京都女子大学現代社会学部 教授)

コメンテーター：阿部 裕 (明治学院大学心理学部 教授)、田中 ネリ (四谷ゆいクリニック 臨床心理士)

司会・進行：津田 友理香氏(四谷ゆいクリニック/国立国際医療研究センター 臨床心理士)

共催：多文化ユースネットワーク(Multicultural Youth Network : 任意団体)

協力：四谷ゆいクリニック、一般社団法人 kuriya、一般社団法人 育ちネット多文化 CROSS、Japanese Filipino Youth (JFY) Educational Program

賛同：移住者の権利キャンペーン 2020 「ここにいる koko ni iru.」

お問合せ：明治学院大学心理学部付属研究所 (東京都港区白金台 1-2-37)

TEL 03-5421-5445(平日 10～16時) E-Mail: [ipr@psy.meijigakuin.ac.jp](mailto:ipr@psy.meijigakuin.ac.jp) Web: <http://psy.meijigakuin.ac.jp/lab/>

取材のお問合せは…明治学院大学 総合企画室広報課 担当：圓道・濱口

〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37

Tel:03-5421-5165(直通) Fax:03-5421-5185

[koho@mguad.meijigakuin.ac.jp](mailto:koho@mguad.meijigakuin.ac.jp) <https://www.meijigakuin.ac.jp>

# 1Day NEWS

2018春 vol.01



2018.6.21発行

## 認定NPO法人 国連WFP協会

### 「WFPウォーク・ザ・ワールド」を盛り上げました

世界では4人に1人の子どもが慢性的栄養不良に陥っています。国連WFPは子どもたちが健全に成長し、学び、貧困を克服できるよう、「学校給食プログラム」を行っています。「WFPウォーク・ザ・ワールド」は、途上国の子どもたちの飢餓をなくすためのチャリティーウォークで、参加費の一部が国連WFPの「学校給食プログラム」に役立てられます(約30円の寄付で子ども一人に一日分の給食を届けることができます)。



イベントでは運営スタッフとして受付や来場者の整理、ゴール地点での出迎え、レッドカップの販売、子ども向けブースの企画・運営、アプリ拡散などに取り組みました。

また、明学生のためのスペシャルプログラムとして取材・広報体験をさせていただきました！一部抜粋してお届けします。



### スペシャルプログラム1《企業の方にインタビュー》

本イベントの協賛企業である日清食品HD(株)の宮島さんにインタビューをさせていただきました。社会人の方にインタビューをするという初めての経験に緊張しましたが、「企業の社会貢献とは？」「働くとは？」を考えるととてもよい機会になりました。

#### [Q]このイベントに参加することになった大きなきっかけは何ですか？

[A]日清食品HDが行っているCSR活動の「フードロスなくす」という目的と、国連WFP協会の事業目的に重なる部分があり、4年前から毎年このイベントに参加しています。私は昨年からのイベントに携わっています。

#### [Q]このイベントに参加するうえで一番大切にしていることは何ですか？

[A]イベントで発生したお金を国連WFPの「学校給食プログラム」に反映させること。また、弊社がこんな活動も行っていると、参加者のみなさんに知ってもらいきっかけにもしたいです。

#### [Q]このイベントに参加することで、どのようなことが日清食品に還元されますか？

[A]「WFPウォーク・ザ・ワールド」という面白いイベントに参加しているということで、参加者のみなさんが弊社に興味を持ってもらうきっかけとなることを期待しています。また、多くの社員もイベントに参加しています。一緒に歩くことで、普段話す機会が少ない人ともコミュニケーションがとれるため、社員同士の絆が深まるきっかけとなっています。

私たち大学生へのアドバイスもお聞きしました！

#### [Q]大学生のうちに取り組んでおいたほうがよいことはありますか？

[A]語学は大事だから、まず英語。それと英語以外にもう一つ言語を習得しておくに立つと思います。それと新聞を読むこと。社会事情については知っておいたほうがよいと思います。



-- \* ♪ -- \* ♪ -- \* ♪ -- インタビューを終えて -- \* ♪ -- \* ♪ -- \* ♪ --

企業の方に直接お話を伺う機会はめったにないので参加できてよかったです。宮島さんは自社の商品が本当にお好きで、誇りを持ってお仕事をしていらっしゃる感じました。私も自分の仕事にプライドを持って取り組める大人になりたいと思いました。

中平 有咲 さん(法学部法律学科2年)

日清食品HD全体への質問だけでなく、就職活動など個人的な質問をさせていただき、宮島さんのリベラルな考え方に接し、とても良い経験になりました。食品会社に特に興味はなかったのですが、これを機に、食品会社をはじめ、さまざまな企業を意欲を持って調べようと思います。

湯浅 真衣 さん(社会学部社会福祉学科1年)



## スペシャルプログラム2 《イベント参加者の方にインタビュー》

学生たちが質問項目を考え、実際にコースを歩いて参加者のみなさんにインタビューしました。

### [Q]このイベントに参加するのは何回目ですか？

[A]初めて(会社からの案内で興味をもった)、2回目(新聞の広告欄で/昨年に続いて)、3回目、5・6回目など

### [Q]どなたと参加されましたか？

[A]会社のみなどと/ひとりで/ウォーキング協会のメンバーと

### [Q] 国連WFPについてご存知ですか？

[A]詳しくは知らない/飢餓に苦しむ子どものための企画かな？/食糧援助を行っているところ？

### [Q]世界には多くの飢餓に苦しむ子どもたちがいます。このイベントで得られた参加費の一部は国連WFP「学校給食プログラム」に役立てられます。この課題について、またこうしたイベントについてどう思いますか？

[A]・世界的には飢餓の問題が深刻化しているが、日本では「フードロス」が叫ばれている。個人的には残さず食べることを徹底していきたい。

・自分一人では寄付を現地に届けることはできないので、このようなイベントに参加したり、団体が行っている寄付に参加したい。

・コースを終えてとても楽しかった。みんなと一緒に歩くので、一人のときより寄付もしやすい。

### [Q] 学校給食にまつわるご自身の思い出はありますか？

[A] 思い出のメニュー: 鯨肉のカレーやベーコン、カズノコ、揚げパン、ソフト麺、ピロシキなど

・好き嫌いが多かったのであまり好きではなかった。でも家での食事よりおいしかった。

・給食センターで働いたことがあるが、残飯が多い印象だった。

-- \* ♪ -- \* ♪ -- \* ♪ -- インタビューを終えて -- \* ♪ -- \* ♪ -- \* ♪ --

このイベントの趣旨を伝えることが、なによりもこのイベントを開催する意味だと強く感じました。せっかく興味を持ったのだからこそ学びの場になることが私たちにも必要です。1Dayでの収穫は「出会い」でした。立場は違えど「ボランティアをすること」に誇りを持っている皆さんに刺激を受けて、これを機会にさまざまなことに挑戦したいです。

小林 礼奈 さん(文学部フランス文学科2年)

広報活動は初めてで緊張しましたが、参加者の方々が温かく、多くのことを学びました。年配の方々は給食をおいしいと感じた記憶がないとおっしゃっていたのが印象的です。世界基準では現在の日本の給食はとて恵まれているので、残さず食べることが貧困に苦しむ人たちへの貢献の第一歩だと思います。

川上 友理子 さん(文学部フランス文学科2年)

WFPの活動は大学で学んで知っていました。ウォーキングに楽しんで参加することが飢餓に苦しむ子どもたちを助けることにつながっていることがすごいと思います。家族連れで散策や会話を楽しみながらそれぞれのペースでゴールに向かう姿を見て、もっとこうした活動が広まるといいと感じました。

岡本 杏里 さん(国際学部国際学科2年)

インタビューにご協力くださったみなさん、ありがとうございました！



明治学院大学ボランティアセンター

横浜 045-863-2056

白金 03-5421-5131

1dayvol@mguad.meijigakuin.ac.jp

1 Day for Others  
募集プログラム・エントリーはこちらから

Volunteer Portal Site  
ボランティアポータルサイト



# プレ 1Day NEWS

2018春 vol.00-2



2018.4.6発行

## 日本電気株式会社 NEC

### “NEC Make-a-Difference Drive”を知ろう

この1 Day for Others (以下、1Day)は、NEC社員の方々と一緒に芝公園で生物多様性保全活動を行い、その後本社でNECの社会貢献活動に関する知識をワークショップで深めるプログラムです。普段私が行っているボランティア活動がNECの社会貢献活動と関係していたことから、この1Dayに参加。今年はサポート学生として再び関わらせてもらうことになりました。このプレNEWSを通して、昨年の様子や感じたことを、皆さんに知っていただき、興味を持っていただけたらと思います。

### 私がNECのプログラムを紹介します！

NECと聞けば誰もが知っている大企業。私たちの生活の中を少し見てみると「NEC」と表記されているものを目にすることもあはずです。そんなNECとボランティアがどう関係しているのか？と思う人もいるのではないのでしょうか。

普段は気付かないかもしれませんが、様々な種類の社会貢献活動を行っているんですよ。



佐伯 夏風 さん(社会学部社会福祉学科3年 / ボランティアセンター学生メンバー)



2016年のようす。  
晴れていれば芝公園で雑草取りなどの環境保全ボランティアを社員のみなさんと一緒に。  
今年度はスーツでなくてもOKです

プログラム当日は朝から雨と風が強い1日でした。午前中の生物多様性保全活動は屋外活動であったため、残念ながら中止。予定では「アサギマダラ」という種の蝶を芝公園に呼ぶための活動を行い、50～60名のNEC社員の方々と交流するはずでした。この活動は今回も予定しているので、今年こそは！と思っています。

雨で屋外活動が中止になってしまったので、ワークショップを予定よりも長めに実施することになりました。NEC本社ビルに入館するときは、とても緊張。広い！大きい！とキョロキョロしながら歩きました。ワークショップのテーマは「AI」や「顔認証システム」などの最新技術から未来の世界を創造するというもので、社員の方から説明を受けたのちに、学生が複数のグループに分かれて話し合いました。「最新技術を使って病院の待ち時間にあるイライラを解消するにはどうすればよいか」という内容でグループごとに話し合いを進めました。はじめは緊張していて会話がぎこちなかったですが、慣れてくると堅苦しくなく、自由に意見を出し合っていたように感じます。最後にグループの代表者が意見をまとめて発表する時間もあり、色々な意見を共有しました。NECの技術など今まで知らなかったことを学べ、意見交換をすることで新しい考えを見つけられ、とても充実した時間になりました。



アサギマダラ  
「渡りをする蝶」を芝公園に呼ぼう

今年のプログラムでも生物多様性保全活動に加えて、テーマを変えたワークショップを行います。昨年の経験も活かし、さらに新しいことを学んで自分の為にもなるような活動にしていきたいと考えています。参加する皆さんが楽しんで、充実感を得てもらえるようなプログラムになるよう、準備を進めています。ぜひこの1Dayにご参加ください。

## ICT企業×自然保護。参加して体験して感じ取ろう



私もサポート学生です

ICTビジネスの会社がなぜ自然保護の活動に活動領域を広げる必要があるの？と思うかもしれませんが、しかし、そんな会社が本来の仕事と真逆のことをやるからこそ、自然保護の重要性や、逆に会社の存在意義を肌で感じられるのではないのでしょうか。ネイチャークエストといっても大掛かりなことではありません。“自然”と“社員のみなさんとのふれあい”がこの活動の本質を見出してくれるはずです。

高田 和希 さん(法学部政治学科2年)

## CSRを体感してみよう 最新技術でどんな未来を創造できるか考えよう

CSR(企業の社会的責任)。はじめて耳にする言葉かもしれません。

NECグループでは10万人の社員が、本業のICTビジネスを通じた社会貢献活動に加え、昼休みや休日などを利用してさまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

そのひとつが「ネイチャークエスト」。

行政やNPO、地域のみなさんとタッグを組んで、「アサギマダラ」が立ち寄ってくれるような自然あふれる公園づくりをしています。

本プログラムはCSRの理念を学ぶとともに体験もできる魅力的な1Dayです。



### ----- 前はこんな感じでした！ -----

#### スケジュール

12:00 NECネイチャークエスト in 芝公園 NEC社員の方々と一緒に！

13:10 NECからのプレゼンテーション@NEC本社

NECのCSR(企業の社会的責任)や最新技術(人工知能や顔認証システム)を学びます

14:00 ワークショップ「最新技術から未来の世界を創造しよう！」

学生ならではの意見を積極的に出そう！

#### Voice ~参加者の声~

- ・就活の考え方が変わった
- ・新しい技術について知れてとてもワクワクした
- ・企業CSRについてだけではなく、プレゼンテーションの技術等も学べた
- ・限られた時間の中で次の課題に進み解決策を出さなければいけない。学科や学年の異なる人たちとのグループワークは難しかったが、うまく進めるコツがわかった
- ・社員の方から直接お話を聞くことができ、刺激を受けた
- ・NECという大きな会社の社会貢献の一環に参加でき、予想以上に楽しいプログラムだった



明治学院大学ボランティアセンター

横浜 045-863-2056

白金 03-5421-5131

1dayvol@mguad.meijigakuin.ac.jp

1 Day for Others 2018春  
募集プログラム・エントリーはこちらから

Volunteer Portal Site  
ボランティアポータルサイト





MEIJI  
GAKUIN  
UNIVERSITY



明治学院大学

マスコミ関係各位

2018年11月16日

## 国連 WFP と共に 世界の子どもたちに食料と希望を！ 明治学院大学 学生ボランティアが タカシマヤオリジナルチャリティーサンタ人形をお渡し

- 11月21日(水)販売初日 午前10時から
- 横浜高島屋 1階正面玄関 特設会場

明治学院大学ボランティアセンターは、認定NPO法人国連WFP協会（横浜市西区、会長：安藤宏基）に協力し、タカシマヤがクリスマスに展開する「オリジナルチャリティーサンタ人形」の販売初日、チャリティー参加のお客様にサンタ人形をお渡しする活動を、本学の学生ボランティア約15名によって行います。サンタ人形の売上金の一部は、飢餓に苦しむ人々への食料支援のため国連WFP協会に寄付されます。

全国の大学に先駆けて設立され、今年設立20周年を迎えた明治学院大学ボランティアセンターは被災地支援、キャンパスがある横浜市や港区での活動の展開など、多くの学生活動を支援しています。本学で毎年約700名の学生が自主的に参加し、地域や企業、NPO・NGOなどに出かけて「1日ボランティア」「1日社会貢献活動」を行う「1 Day for Others」というプログラムの一環として、今回の活動を行うこととなりました。

飢餓をなくすことを目指す国連唯一の食料支援機関「WFP 国連世界食糧計画」を支援する国連WFP協会が大学のボランティアセンターと連携して、学生への国際貢献の認知を広め、企業のCSR活動と結びつけた食料支援につながる実践を紹介する中、今年初めて本学との連携を開始。11月8日（木）には横浜キャンパスでワークショップを開催し、食料支援についての学生の学びを深めました。

本学横浜キャンパスがある横浜市でのこの取り組みにつきまして、ぜひ取材していただきたくお願い申し上げます。

### 明治学院大学ボランティアセンターが、国連 WFP 協会と連携 学生ボランティアが「タカシマヤオリジナルチャリティーサンタ人形」をお渡し

日時： 2018年11月21日(水) 午前10時～午後4時

※数量に達し次第、終了予定です。

場所： 横浜高島屋 1階 正面玄関 特設会場

(横浜市西区南幸 1-6-31 Tel 045-311-5111)

内容： 明治学院大学ボランティアセンターが、国連WFP協会と連携し、学生ボランティアを中心に約15名が「タカシマヤオリジナルチャリティーサンタ人形」(レイモンド・ブリッグズ デザイン。高さ4.5センチ)をお渡します。

※11月21日(水)からタカシマヤ19店舗合計62,000点を販売。

横浜店は15,000点限り。定価300円。お1人様5点まで。



取材のお問合せは…明治学院大学 総合企画室広報課 担当：園道、濱口

〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37

Tel: 03-5421-5165(直通) Fax: 03-5421-5185

koho@mguad.meijigakuin.ac.jp <https://www.meijigakuin.ac.jp>

meiji  
GAKUIN  
UNIVERSITY



明治学院大学

マスコミ関係各位

2019年1月15日

## 明学国際ガールズ・ウィーク 企画 第2弾 「書き損じ・未使用はがき」で Bangladesh の少数民族の女の子と女性を支援

国連が定めた「国際ガールズ・デー」の啓発活動に取り組む、明治学院大学ボランティアセンターの学生たちは、国際 NGO「プラン・インターナショナル」に協力し、10月に「明学国際ガールズ・ウィーク」を実施し、ピンク・レモネード販売などで学内外に大きな反響を呼びました。次の企画として、Bangladesh の少数民族の女の子と女性に対する生計向上の支援を目的に、「書き損じ・未使用はがき」を回収しています。

プラン・インターナショナルは、途上国の女の子が直面する問題に焦点を当てて解決するガールズ・プロジェクトを実施しています。今回の取り組みでは、その中の1つ、Bangladesh 「少数民族の女性たちの収入アップ」プロジェクトを支援します。Bangladesh の支援地域では、少数民族の慣習として女性が家計の主な担い手である世帯が多い状況にも関わらず、限られた生計手段しかなく、わずかな収入で暮らさざるをえません。そのため毎年起きる自然災害への備えも十分ではなく、被害も乗り越えることができず、さらに貧困に陥るといった負の連鎖が続いています。(引用元: <https://www.plan-international.jp/join/girls/10502.html>)

回収目標数は10,000枚です。回収したはがきは、学生がとりまとめを行い、郵便局で切手などに交換後、換金し、国際 NGO「プラン・インターナショナル」に寄付します。

ぜひ取材・告知のご検討をいただきたくお願いいたします。

### 「書き損じ・未使用はがき」で Bangladesh の少数民族の女の子と女性を支援

- 回収ボックス 設置期間: 2018年12月17日(月)~2019年1月25日(金)  
設置場所: 明治学院大学 横浜キャンパス : 図書館、食堂、8号館 commons 8  
明治学院大学 白金キャンパス : パレットゾーン1階

- 郵送: 書き損じはがきを封筒に入れて、下記住所にお送りください。  
〒244-8539 横浜市戸塚区上倉田町1518  
明治学院大学横浜校舎ボランティアセンター宛  
2月28日(木)必着でお願いいたします。

- ※お願い 名前や住所などの個人情報は塗りつぶすなど、個人情報の保護にご協力ください。  
未投函・未使用の郵便はがきのみが対象です。  
(投函済み・消印付きはがきは対象外です。)

- ※ご参考 国際 NGO プラン・インターナショナル  
<https://www.plan-international.jp/>

お問合せ先: 明治学院大学ボランティアセンター(横浜) Tel 045-863-2056



取材のお問合せは…明治学院大学 総合企画室広報課 担当: 濱口・圓道

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37 Tel: 03-5421-5165(直通)

Fax: 03-5421-5185 koho@mguad.meijigakuin.ac.jp <https://www.meijigakuin.ac.jp/>

## 6 海外プログラム事業部（国際協力、国際支援）

### 学生チーフ総括

2018年度の新体制発足直後は、実質6人のスタートだったと記憶している。マンネリ化しつつあった各企画からの脱却を図り、少ない人数ながらも尽力した。タイでのボランティアツアーはその代表例と言ってもよい。当セクションの謳い文句「Think globally, step forward ～世界を変える小さな一歩～」にもあるが、まさしくゼロからの企画立案だった。すべてが良い結果になったとは言いがたいものはあるものの、メンバー各々に何かしらの影響を残したことは明らかだった。

新体制となり半年経った4月は、新入生メンバーの獲得に奮闘した。10人加入すれば多いと予想していたが、予想の倍以上の20人を超える新入生が加入してくれた。そして、彼らを迎えてからのセクション活動は非常に盛り上がりを見せた。10月の明学国際ガールズ・ウィーク企画はその代表例と言えるだろう。その企画の立案や実施は、経験と知識を蓄えた上級生メンバーと型にとらわれない新入生のフレッシュさが、前年までの活動では見られなかった新たなセクション色を作り上げた。企画をすべて振り返るととても書ききれない。それほど今年度のセクション活動は中身の濃いものだった。

昨年12月に引き継ぎを行い、チーフを退いた。苦労もあったが、チーフの活動がなくなり一抹の寂しさを感じながら学生生活を過ごしている。新体制には彼らの持ち味である「勢い」と「柔軟な発想力」を存分に生かして活動して欲しい。彼らが、私の大好きな「ボラセン」に良い風を起こしてくれることを期待して、海外プログラム事業部のチーフ総括としたい。

(学生メンバー 法学部政治学科)

### ●2018年度「海外プログラム事業部」の主な活動

日にち	内容（参加人数）
5/26（土）・5/27（日）	大学祭「戸塚まつり」で子ども向けペットボトルキャップ回収キャンペーンを実施（5/26：3名、5/27：4名）
10/8（月）～10/12（金）	国際ガールズ・デー企画「明学国際ガールズ・ウィーク」（32名）
10/23（火）～10/26（金）、 29（月）	ペットボトルキャップ回収キャンペーン「Cap for Treat」（10/23：11名、10/24：9名、10/25：7名、10/26：13名、10/29：8名）
2018年12月～2019年3月	国際ガールズ・デー企画「書き損じはがき・未使用はがき回収キャンペーン」（7名）

### ◇ペットボトルキャップ回収

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアが気軽に楽しみながら身近にできることを実感してもらい、興味・関心を持ってもらう</li> <li>・イベントを通して普段よりさらに多くのペットボトルキャップを回収しワクチンに換え、世界の子どもたちの健康に貢献する</li> </ul>
場所	横浜キャンパス ボランティアセンター付近

活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外プログラム事業部のメンバーが回収箱を持ち、ボランティアセンター前でキャップ回収を行う</li> <li>・集めたキャップを進栄化成（株）に送りリサイクルしてもらい、換金額を認定NPO 法人世界の子どもにワクチンを 日本委員会（JCV）に送る</li> </ul>
活動日時、参加人数	2018年5月26日（土）11：00～18：00 3名、27日（日）10：00～17：00 4名 10月23日（火）11名、24日（水）9名、25日（木）7名、26日（金）13名、29日（月）8名、いずれも昼休みに実施

### 実施概要

5月の戸塚まつりでは主に地域の方を対象に、10月のハロウィンイベントでは横浜キャンパスの学生を対象にペットボトルキャップ回収の呼びかけをし、収集した。ペットボトルキャップは約860個でポリオワクチン1人分相当の20円になること、回収業者がキャップをリサイクルし、売却した利益によってワクチンが作られ支援国の子どもたちのもとへ届く流れを説明するなど、積極的に声かけを行った。10月はハロウィンにちなみ学生メンバーが仮装をして呼びかけを行い、キャップを持ち寄ってくれた方にはお菓子をプレゼントするなど学生たちに興味を持ってもらうよう努力した。事後にはキャップの個数を数え、キャップから作られるワクチンの量を計算しボランティアセンターに掲示した。



### 感想・活動を通して得た学び

積極的に声かけを行い、キャップ一つからでもボランティア活動に参加できることを知ってもらったことで、普段の活動で挙げられていた“一部の人しか参加できていない”という問題の改善につなげることができた。10月のハロウィン時には多くのメンバーが仮装をして呼びかけを行ったため、より学生の興味を引くことができ、イベントと結びつけることで楽しくボランティア活動を広めることができた。学生への呼びかけや回収を通して、声かけという地道な活動が、遠く離れた国の子どもたちの健康につながっていることを考え、活動を見つめ直す良い機会となった。

### 今後に向けて

5月の戸塚まつりでの活動ではペットボトルキャップ回収、またキャップがワクチンに換わることのお知らせができた。10月のハロウィンでは目標の7,000個を達成し、7,744個のキャップを回収することができた。一方でお持ち寄りいただいた人数は少数であり、参加が限られた人たちだけになってしまった。より多くの人へのキャップ回収の周知が課題である。今後、イベントと絡めてキャップ回収を行う際には、事前の告知や普段のキャップ回収活動の広報を心がけたい。例えば、SNSを利用し学内のみならず学外、地域の方にもお伝えできると良いだろう。

(学生メンバー 経済学部経営学科)

(学生メンバー 心理学部心理学科)

## ◇明学国際ガールズ・ウィーク &amp; 書き損じはがき・未使用はがき回収

目的	学生に国際ガールズ・デーについて知ってもらうだけでなく、企画に主体的に参加することで社会問題への関心を深めてもらう
場所	横浜キャンパス：インターナショナルラウンジ、図書館、ボランティアセンター、コモンズ8、食堂 白金キャンパス：食堂
活動内容	ピンクレモネード販売、外貨募金、関連本展示、書き損じはがき・未使用はがき回収
活動日時、参加人数	明学国際ガールズ・ウィーク：2018年10月8日（月）～12日（金） 書き損じはがき・未使用はがき回収：2018年12月～2019年3月 32名

## 実施概要

2018年10月8日から12日を明学国際ガールズ・ウィークと定め、公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンの「学生によるファンドレイジング活動」に参加し、フリープランとしてピンクレモネード販売、外貨募金、関連本の展示を行った。12月以降はその活動の一環として、書き損じはがき・未使用はがきの回収を行い、学外からの郵送も受け付けた。活動による寄付金は、プラン・インターナショナルのバン格拉デシュの「少数民族の女性たちの収入アッププロジェクト」に届けられた。



## 感想・活動を通して得た学び

早くからSNSや三角ポップなどで広報活動を行ったことで、多くの学生や大学職員に関心を持ってもらい、企画に参加してもらうことができた。ピンクレモネードの販売は予想以上の反響で、5日間で574杯を売り上げた。購入が寄付につながるという手軽さが企画成功の鍵になったと感じる。また、企画を通して活動メンバーが世界の女性問題について知識を深め、自分たちには何ができるのか思索する機会にもなった。活動をメディアに取り上げてもらう機会があり、海外プログラム事業部の活動を学外にアピールすることができた。

## 今後に向けて

今回の企画は、書き損じはがき・未使用はがき回収を除き学内のみで行われた。来年度はシンポジウム開催や他大学との協力など、企画の幅を広げ、学外の人でも参加できるようにしたい。広報に関しては、ピンクレモネード販売の宣伝と外貨募金・関連本展示の宣伝のバランスが取れていなかった。広報の仕方についても検討し工夫していきたい。また、より良い企画を作るために活動メンバーの勉強会なども実施していきたい。

(学生メンバー 法学部政治学科)

## ◇学生による自主活動

### タイボランティアツアー

2018年9月11日から19日、ボランティアセンター学生セクション・海外プログラム事業部の12名のメンバーでタイ、チェンライを訪れた。

現地では、山岳民族の生活向上と伝統継承を目的としたNGO ミラー財団の短期ボランティアプログラムに参加した。

アカ族の村に5日間滞在し、中学校での異文化交流活動（折り紙や習字）や幼稚園の壁にペンキを塗るボランティア、村の生活体験をした。

活動を通し、メンバーは村の生活力に驚いた。村一体で大きな家族のようなコミュニティができあがっており、自給自足の形が成り立っていた。少数民族ならではの問題を目の当たりにしながらも、元気いっぱいの子どもたちに圧倒された。

渡航前には、理解を深めるために事前学習を行い、帰国後はメンバーの学びをまとめた報告書を作成した。

(学生メンバー 国際学部国際学科)

※報告書はボランティアセンターで閲覧できます。

## 7 MG パール (環境)

### 学生チーフ総括

2018年度のMGパールの日標は販売機会を増やしていくことであったが、達成することができなかった。しかし、例年の活動ではあるが、戸塚まつりに出店をした際、たくさんブースが出店されている中、多くの方がMGパールにも足を運んでくださり感動した。普段は横浜の生協で販売しているが、見てくれる人の顔を見ることはできないため、とてもいい刺激になったと感じている。また、普段の活動では短い時間しかメンバーと顔を合わせず、キャンパスが違くとまったく会わない人もいる中、皆で一緒に活動できる貴重な時間だった。私たちが行っているボランティア活動はアクセサリーを作ることだけではないのだということを再認識できた時間であった。お客さんとのコミュニケーションで、ボランティアの内容や効果を説明して広めていくことも私たちの役目であるということに気づけた。来年度は2018年度MGパールを支えてくれた先輩方が就職活動で忙しくなるので、私たちが今まで先輩方がサポートしてくれたことを全力で後輩にしていきたいと思う。そして、私がチーフをやっていて失敗したことや良かったことを次期チーフに伝えて支えたいと考えている。1年間チーフをやらせていただいて、たくさんの方にご迷惑をおかけしてしまったが、緊張したり、嬉しかったり、大変だったり、たくさんの方の経験をすることができたことに感謝したい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

### ●2018年度「MGパール」の主な活動

日にち	内容 (参加人数)
4/4 (水)	国際ソロプチミスト 東京-弥生「観桜会」に出席・出店 (4名)
5/26 (土)・5/27 (日)	大学祭「戸塚まつり」で出店 (5/26:5名、5/27:5名)
6/23 (土)	「夏至キャンドルナイト@善了寺」に出店 (3名)
8/28 (火)	白金地域の造形作家・山下民子氏との制作会 (3名)
9/22 (土)・9/23 (日)	夏合宿 (9名)
11/29 (木)	認定特定非営利活動法人ボルネオ保全トラスト・ジャパン (BCTJ) 定例会に参加 (2名)

※1 Day for Others「オランウータンから学ぼう！ボルネオ島の環境問題」は受入先都合のため中止となった

※毎週1回昼休みに学内で制作活動

## ◇戸塚まつり

目的	ボルネオ島の天然パールを使用したアクセサリーの広報と販売
場所	横浜キャンパス
活動内容	ボルネオ島の天然パールを使用したアクセサリーの販売
活動日時	2018年5月26日(土) 13:00~18:00、5名
参加人数	5月27日(日) 10:00~16:00、5名

## 実施概要

普段の活動で制作しているボルネオ島の天然パールを使ったアクセサリーを販売し、売り上げの半分をボルネオ島の環境保全に貢献している認定 NPO 法人ボルネオ保全トラスト・ジャパンに寄付した。販売活動をすることで地域の方々や学生に MG パールの活動に興味を持ってもらい、活動について知ってもらうきっかけになった。また、学生広報委員からインタビューを受け、その内容の一部が白金通信にも掲載された。それによって、学生や教職員にも MG パールの活動について知ってもらうことができた。

## 感想・活動を通して得た学び

アクセサリー販売を通じて、地域の方々に MG パールの活動について興味をもって頂けた。また、広報委員の学生を通して学生にも活動について知ってもらえるきっかけになった。さらに、新入生のメンバーが入ってから初めて白金のメンバーと顔を合わせる機会にもなり、MG パール全体としてもコミュニケーションの輪が広がった。ただ、参加者自体が少なく一部の人だけになってしまったことが残念だった。

## 今後に向けて

MG パールのアクセサリー販売の場にもっと多くの学生などに来てもらえるように、事前にツイッターでの広報を確実にできるようにしたい。そのうえで、アクセサリー商品のバリエーションを増やし普段の活動で制作できるような計画を立てられるようにしようと考えている。また、早めにシフトの予定を立て、多くの新入生が普段会うことができない白金のメンバーと顔を合わせる機会にしたいと考える。

(学生メンバー 国際学部国際学科)



## ◇夏合宿

目 的	博物館見学などを通して、自然の大切さを知る。学年を超えた知識の共有
場 所	神奈川県 足柄下郡湯河原町、小田原市
活動内容	制作体験（皿への絵付け、シーグラスで写真立て装飾）、博物館見学など
活動日時、 参加人数	2018年9月22日（土）11：00～9月23日（日）16：00 9名

## 実施概要

1 日目は湯河原駅に到着した後、陶芸館でお皿への絵付けを体験した。その後、写真立てを装飾する活動のために湯河原海水浴場にて貝やシーグラス拾いをし、拾ったものを使用しながら写真立ての装飾を行った。普段、なかなか触れる機会のない自然に関する体験ができた。また、夜にはボルネオ島やMG パールの活動に関する知識共有のため、勉強会を行った。ボルネオ島の森林破壊の現状や問題に関するクイズをし、MG パールの活動目的が再確認できた。2 日目は、自然について学ぶため生命の星・地球博物館を見学した。

## 感想・活動を通して得た学び

普段MG パールの活動では、ボルネオ島の淡水パールを用いたアクセサリーを制作しているが、合宿では海岸でとれた貝やシーグラスを用い写真立ての装飾をし、自然の物を飾りにするという共通点のある活動を行い、自然をより身近に感じることができた。勉強会でボルネオ島の森林破壊の現状や自然についての知識を合宿に参加したメンバー全員で共有し再確認したり、制作体験や博物館見学などをする中で、2 日間を通して学年を問わず関わり合う機会を多く設けることができ、普段キャンパスが別のメンバーや初めて顔を合わせるメンバーとの仲を深めることもできた。

## 今後に向けて

夏合宿でMG パールの活動の目的を皆で再認識し、メンバー同士の仲も学年を問わずより深めることができた。今後は、今回夏合宿に参加することができなかったメンバーにもボルネオ島の自然の現状や問題に関する知識を共有し、MG パール全体でセクション活動の目的を再認識することで、日々の活動をより積極的に行っていきたい。

(学生メンバー 社会学部社会学科)

## 9 国際機関実務体験プログラム（育成・支援プログラム）

### 職員総括

横浜・みなとみらい地区の国際機関で100時間の実務体験を行うプログラムで、公益財団法人横浜市国際交流協会(YOKE)と本学を含めた6大学との協働事業となっている。派遣先である国際機関も2018年度に2機関が新たに加わった。

派遣国際機関：アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター (IUC)

国際熱帯木材機関 (ITTO)

国際連合食糧農業機関 (FAO) 駐日連絡事務所

シティネット横浜プロジェクトオフィス (CITYNET YOKOHAMA)

独立行政法人 国際協力機構 横浜センター (JICA 横浜)

特定非営利活動法人 国際連合世界食糧計画 (WFP) 協会 (2018年～)

日本貿易振興機構 横浜貿易情報センター (JETRO 横浜) (2018年～)

公益財団法人 横浜市国際交流協会 (YOKE)

加盟6大学： 横浜国立大学、フェリス女学院大学、横浜市立大学、國學院大學、  
神奈川大学 (2018年～)、明治学院大学

国際協力や国際交流の実務を体験することにより、大学で修得した学問と実務機関での実践の融合を図り、将来、国際性豊かな資質を持ち世界的な問題を視野に入れて活動することができる人材育成を目的とする。

実務体験は、夏期と春期に行われ、派遣国際機関は6大学の中で分けられ、2018年度夏期は国際連合世界食糧計画(WFP)協会と国際熱帯木材機関(ITTO)へ1名ずつ、春期は国際連合食糧農業機関(FAO)へ1名の派遣が本学の割り当てとなった。

国際機関でのインターンということで、派遣学生の英語力については、「TOEIC650点程度」と明記されているものから、「ある程度の英語力」「英語環境に抵抗のない方」という表現になっているものもある。今年度の夏期は、2名派遣できたにもかかわらず、TOEICやTOEFL高得点の学生が応募者の中におらず、ITTOへの派遣は辞退せざるを得なくなった。その反面、春期は1名のみの派遣に対し、高得点の応募者が数名いたことから、この得がたきすばらしい機会を効率よく提供できないことに残念さが増した。

このプログラムに参加した学生たちが体験を終えた後、一回りも二回りも成長するため、今後に向けて、割り当て人数分派遣できるよう対策を講じたい。

(職員 北野順子)

## ◇派遣学生からの報告

※春期プログラムの報告は、2019 年度報告書に掲載予定です

活動先	特定非営利活動法人 国際連合世界食糧計画 (WFP) 協会
活動期間	2018 年 8 月 1 日 (水) ~ 9 月 20 日 (木)
活動内容	1. 資金調達 2. プライベートセクターとの協働 3. 広報・情報発信

## 実施概要

2018 年の夏休み期間中に国連 WFP 協会で 100 時間の実務体験を行った。

100 時間の中で、すべての部署での実務を体験することができた。デジタル寄付キャンペーンの企画や企業訪問、Facebook や Twitter に掲載する写真の選択、英語から日本語への翻訳を含む SNS への投稿準備、そして Face to Face (街頭でビラを配りながら毎月定額寄付をしていただくマンスリーサポーターを募ること) など非常にさまざまな仕事に携わることができた。他にも国連大学で行われた WFP キャリアセミナーのサポートも行った。

## 感想・活動を通して得た学び

駅で Face to Face を行った際、私が思った以上に国際問題に興味・関心を持っている人が少ないと痛感した。

デジタル寄付キャンペーンの企画は、一人では到底思いつけないようなアイデアが他のインターン生との協働により生まれ、改めてチームワークの大切さに気づかされた。

私はもともと人前で話すことが苦手であったが、この実務体験では人前に立つ機会も多く、チャレンジな場面も多かったため、苦手克服につながった。

主体的に学ぶことや、相手のことを調べ、相手の意見に耳を傾けたうえで質問を投げかけることの大切さも学んだ。

## 今後に向けて

エレベーターの乗る位置や、会議室の座る位置、目上の方とのメールの仕方など学生生活では学べないが、社会人になったらすぐに必要とされるスキルを身につけられたと思うので、これらを今後生かしていきたい。

他にもさまざまな職歴を持った方とお話しさせて頂くことができ、ある職に就いても、生涯その仕事しか知らずに生きるのではなく、さまざまな職業を体験していけると実感できたので、初めから理想の仕事に固執せず、柔軟に自分の将来や就職を考えていきたいと思う。また CSR 活動という言葉も初めて知り、就職活動をする際の一つの指標にしたいと思った。

(法学部政治学科)

Home &gt; 公益通報

### 明治学院について

[理事長／学院長メッセージ](#)  
[建学の精神](#)  
[明治学院教育ビジョン](#)  
[設置する学校](#)  
[法人組織構成図](#)  
[沿革](#)  
[発展系図](#)  
[校歌（学院歌）](#)  
[年間主題聖句](#)  
[歴史的建造物](#)  
[チャペルコンサートシリーズ](#)

ス

[明治学院ぶどうの木奨学基金](#)

金

### 情報公開

[寄附行為／役員報酬基準](#)  
[財務情報](#)  
[役員／教職員数](#)  
[学生・生徒数など](#)  
[卒業生の方へ](#)

### その他

[募金](#)  
[明治学院からのお知らせ](#)  
[公益通報](#)  
[情報セキュリティについて](#)  
[一般事業主行動計画](#)

## 公益通報

### 公益通報

学校法人明治学院（以下、学院）は、公益通報のための窓口を設置し、「学校法人明治学院公益通報に関する規程」を制定して、公益通報に関する体制を整えています。

### 明治学院公益通報制度

学院は、公益通報者保護法（平成16年法律第122号）に基づき、不正行為の早期発見と是正措置に必要な体制を図り、学院の健全な経営、教育研究体制の維持発展に資することを目的とし、法令違反に関する内部通報を通報窓口にて受け付けます。通報の対象となる法律については、「[公益通報者保護制度ウェブサイト](#)」を参照してください。

### 公益通報

下記公益通報者が、学院について、法令違反が生じ又はまさに生じようとしている事実を、不正の利益を得る目的や、学院または第三者に損害を加える目的ではなく、学院内部や行政機関等に通報することをいいます。ただし、ハラスメントに関する通報および公的研究費等における不正行為に関する通報は、別の取扱いとなります。

[明治学院公益通報フロー図 \(PDF /175KB\)](#)

[学校法人明治学院公益通報に関する規程 \(PDF /163KB\)](#)

### 公益通報者

明治学院において公益通報保護法の対象となるのは、以下の方です。

- ・学院と雇用関係にある教職員
- ・学院と雇用関係にある大学院生及び学生
- ・労働者派遣契約に基づく派遣労働者
- ・学院の取引事業者の労働者
- ・その他学院と雇用関係にある者

### 公益通報者保護

学院は公益通報者保護法その他関係法令を遵守し、公益通報者に対して、公益通報または相談をしたことを理由に本人が不利益を被る取扱いを行うことはありません。

### 通報・相談の方法および受付

下記窓口において、文書、Faxでの通報をすることができます。通報には「学校法人明治学院 公益通報書」フォーマットをお使いください。監査室のみ電子メール、面談での通報または相談も受け付けております。面談での相談をご希望の方は、事前に電話予約をお願いします。原則として匿名での通報・相談は受け付けておりません。通報者のプライバシーは厳重に守られます。

#### ・監査室 明治学院大学白金キャンパス本館9階

【封書】〒108-8636東京都港区白金台1-2-37 明治学院監査室 \*「公益通報」と封筒に記してください。

【メール】 [koeki@mgquad.meijigakuin.ac.jp](mailto:koeki@mgquad.meijigakuin.ac.jp)

【Fax】 03-5421-5448

【Tel】 03-5421-5453（予約専用）

\* 日曜・祝日・学院の休業日には受け付けておりません。

#### ・外部窓口（弁護士） ニューブリッジ総合法律事務所内 明治学院公益通報担当弁護士

【封書】〒105-0004 東京都港区新橋1-14-1光和本社ビル2階

ニューブリッジ総合法律事務所内 明治学院公益通報担当弁護士宛

【Fax】 03-6457-9026

\*日曜・祝日・事務所の休業日には受け付けておりません。

[学校法人明治学院公益通報書 PDF版 \(PDF /116KB\)](#)

[学校法人明治学院公益通報書 MicrosoftWord版 \(word /36KB\)](#)

## ■ 通報後のプロセス

公益通報として受理された場合、監査室もしくは理事長召集の調査委員会が調査をします。調査後、理事長が是正措置および再発防止策を講じ、監査室が通報者に結果について連絡いたします。

## ■ その他お問合せ

- ・ 明治学院高等学校 事務室
- ・ 明治学院中学校・東村山高等学校事務室
- ・ [明治学院大学 お問合せフォーム](#)

[情報セキュリティについて](#) | [ログ利用申請](#) | [このサイトについて](#) | [個人情報の取り扱い](#)

Copyright © Meiji Gakuin All Rights Reserved.



## 国際化への取り組み

明治学院大学は、より幅広い国際交流活動を目的として、2015年5月、「国連アカデミック・インパクト」(United Nations Academic Impact)および国連グローバル・コンパクト(United Nations Global Compact)に参加しました。国連ユースボランティアプログラムへの学生派遣や、海外へ派遣する教員、招聘教授などの教育研究活動を通じ、国際社会の貢献に寄与します。

### 「国連アカデミック・インパクト」への参画

国連アカデミック・インパクトは、国連広報局(DPI)のアウトリーチ部が担当するプログラムです。国連アカデミック・インパクトの対象は、学位を授与する全ての高等教育機関、またはそれに相当する実質的な研究を行っている機関です。このプログラムの枠組みは以下の通りです。

- 世界各国の高等教育機関同士の連携、また、教育機関と国連との連携を促す
- ミレニアム開発目標(MDGs)をはじめとする、国連に委託された業務・活動に、教育機関がコミットできる仕組みを提供する
- 国連に委託された業務・活動に関する意見や提案の連絡窓口の役割を担う
- 国連に委託された業務・活動に関するプログラム、プロジェクト、イニシアチブに対する教育機関の直接的な関与を促す

国連アカデミック・インパクトは、以下の10原則を支持し促進させるというコミットメントによって成り立っています。

- 原則1：国連憲章の原則を推進し、実現する
- 原則2：探求、意見、演説の自由を認める
- 原則3：性別、人種、宗教、民族を問わず、全ての人に教育の機会を提供する
- 原則4：高等教育に必要とされるスキル、知識を習得する機会を全ての人に提供する
- 原則5：世界各国の高等教育制度において、能力を育成する
- 原則6：人々の国際市民としての意識を高める
- 原則7：平和、紛争解決を促す
- 原則8：貧困問題に取り組む
- 原則9：持続可能性を推進する
- 原則10：異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く

国連アカデミック・インパクトに参加する団体は、国連アカデミック・インパクトの基本原則を踏まえた方針やプログラムを奨励することを求められています。以下の項目は、参加団体に特に求められる事項です。

1. 国連アカデミック・インパクトの基本原則のうち、少なくとも一つに関連する取り組みを年に一つ決めて実施する。活動として認められる取り組みには、特定の領域における研究活動、論文、会議の主催、国連関連の事業に参加を希望する学生への財政的な援助、あるいは、学内キャンパスでの特定の企画や活動が挙げられる。

本学では、「原則1：国連憲章の原則を推進し、実現する」に関する活動を行っていきます。  
国際センターが中心になり、セミナーや留学生との交流会等を開催しています。

2. 参加団体のウェブサイトや定期刊行物の中で、各団体が積極的に取り組んでいる国連アカデミック・インパクトの活動やその内容を紹介したり、国連アカデミック・インパクトと参加団体の関連性について出来る限り発信するように努める。

明治学院大学の活動記録は随時国連アカデミック・インパクトの[公式ウェブサイト](#)における本学のページに随時発信しています。

#### 関連ページ

[UNAI公式ウェブサイト](#)

[明治学院大学国際平和研究所\(PRIME\)](#)

## 「国連グローバル・コンパクト」への参画

国連グローバル・コンパクトは、各企業・大学が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組みです。国連事務総長の直下に、「人権」、「環境」、「労働」、「反汚職」の4つを軸に、国連と民間団体が協力関係を構築するためのネットワークとして置かれています。

国連グローバル・コンパクトについての詳しい情報は下記のURLをご覧ください。

[グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク](#)

[United Nations Global Compact](#)

## 教育研究活動の実績

本学では国際化への取り組みの一環として、海外の教育・研究機関からの招聘教授の受入や、海外の大学に専任教員を派遣する事業を行っています。

招聘教授に関する招聘期間中の教育研究活動実績報告書

[Yukari OKAMOTO\(2019.4.1-2019.7.31\)](#)

[Nahum D. CHANDLER\(2019.8.1-2019.12.31\)](#)

教員の海外派遣に関する派遣期間中の教育研究活動実績報告書

[中田瑞穂\(2019年度秋学期\)](#)

[サイトマップ](#) | [このサイトについて](#) | [ソーシャルメディアについて](#) |  
[個人情報の取り扱い](#) | [情報公表](#) | [学校法人明治学院](#) | [教員専用](#) | [採用情報](#)